

井 2056

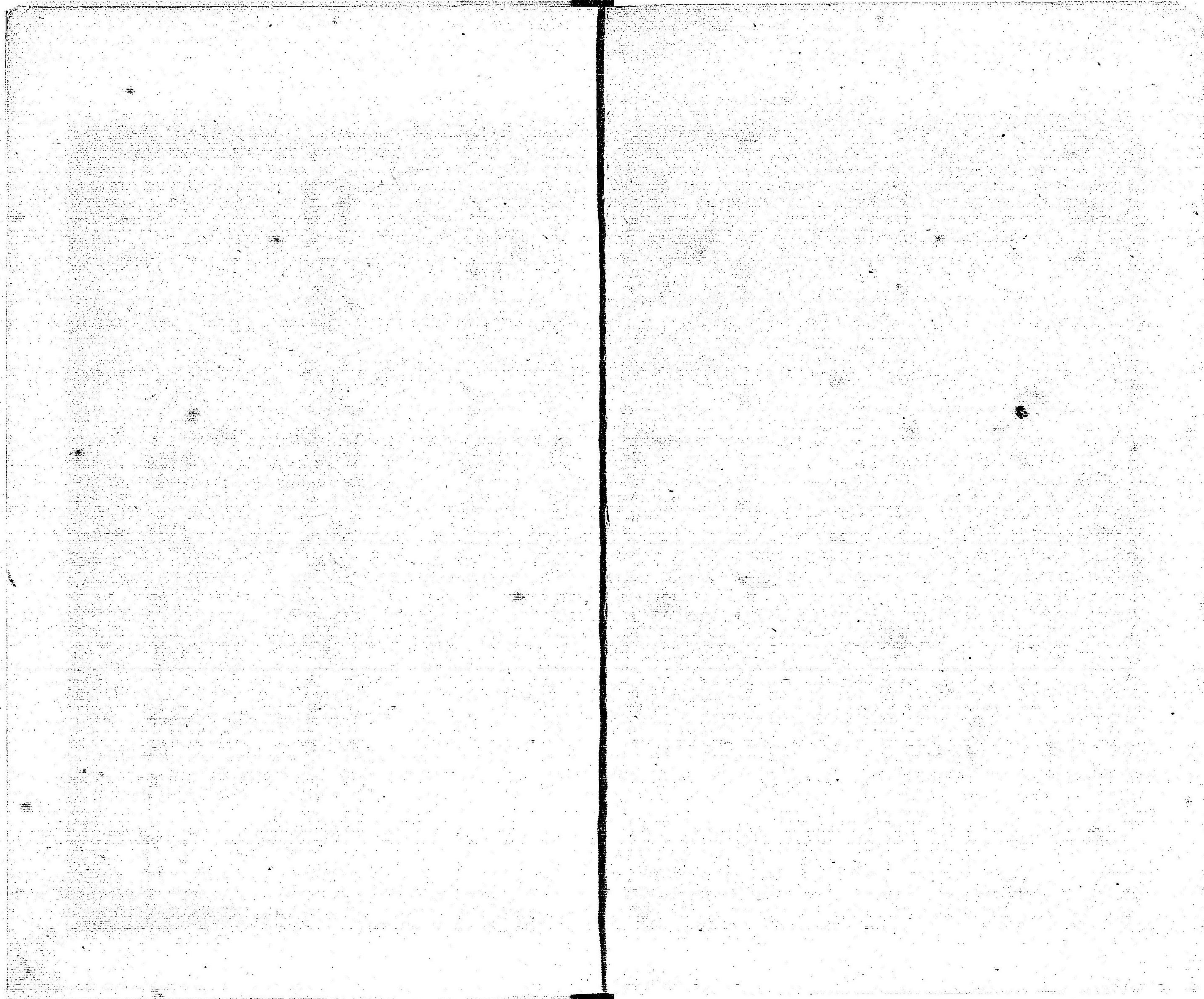
8Y

矢野文雄著

日本文體文字新論

全

報知社發兌



矢野文雄著



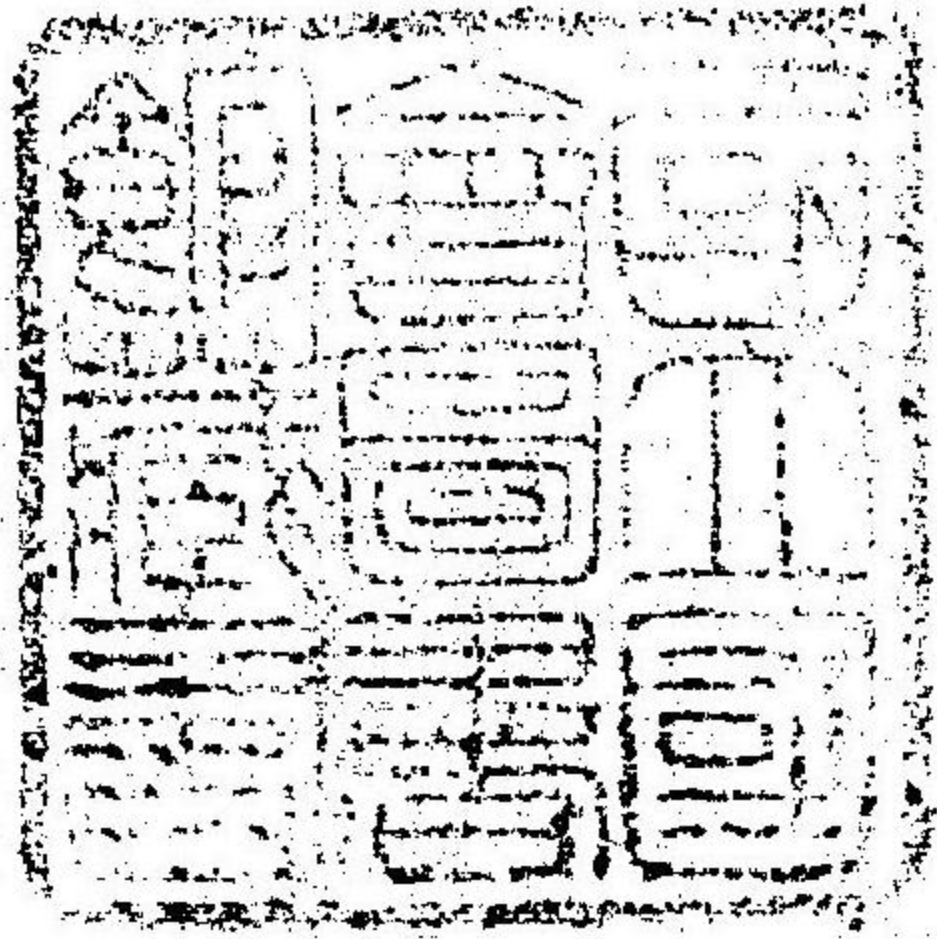
日本文體文字新論

全

報知社發



810.9Y555M



319433

自序

一國ノ文字文体ハ國人ノ知識ヲ廣ムルニ大切ノ者ナレハ海外ニ於テ
是ノ事ニ付キ見聞スル所アルゴトニ時々其ノ要領ヲ箇條書キニ爲シ
他ノ政治、經濟、文學ノ事柄ト與ニ之ヲ周遊雜誌ト名ケタル日録ノ中ニ
畧記シ置キ歸朝ノ上ハ同書文學論ノ一部ニ加ヘテ朋友ニ示スノ心組
ナリシナリ然ルニ近來日本ヨリ來着スル新聞紙杯ヲ見レハ我カ國人
ハ今方ニ文字文体ニ注意スルノ時ナルカ如シ凡ソ世事ハ機會ニ投ス
ルコト大切ナレハ文字文体ニ關スル余ノ卑見モ今日ニ於テ之ヲ書送シ
ナハ幾分カ我カ國人ノ參考ノ助ケトモ爲ルヘシト思ヒ乃チ之ヲ畧記
シテ報知社ニ送ラント決シタリ幸ニ武雄氏當地ニ來着シ居レハ毎日
二時間ツ、同氏ニ筆記セシメ余ハ之ヲ口述スルコト爲シタリ當初ハ
一週間内外ニテ業ヲ終ルヘシト思ヒタリシモ從テ記スレハ從テ長ク

ナリ遂ニ四週間餘ヲ費シテ一冊ノ書ヲ爲スニ至レリ斯ク爲ル以上ハ
一書ト爲シテ刊行スルコソ讀者ニ便ナル可シトテ新聞紙ニハ唯其ノ
一部ヲ掲ケシメ全篇ヲハ一冊ト爲シテ之ヲ世ニ公ニスルコト爲セリ
余カ此書ヲ草セシハ方ニ英國總撰擧ノ時ニシテ英國政治上ノ實況ヲ
察スルハ余ノ本務ト爲ス所ナレハ之ヲ見聞スルニ繁劇ナリシヲ以テ
力ナ此書ニ專ラニスル能ハス從テ文字文章ノ修正不充分ナルノミナ
ラス論シ漏セシト思フ事柄サヘ多キハ實ニ遺憾トスル所ナリ歸朝ノ
後少シク身心ノ閒ヲ得ハ遺タルヲ補フヲ得ルノ日モアルヘシト思
フノミ

明治十八年十一月英國倫敦ノ客舎ニ識ス

龍溪生

例言

一書中ニ於テ形字ニ對シテ音字ト書スルモノハ漢字ノ如キ符調字ニ
對スル日本假名及ヒ羅馬字ヲ總稱スルモノナリ
一又聲字ニ對シテ音字ト書スルハ羅馬字ノ如キ子音母音ヲ分ナタル
字ノミヲ指スモノニテ聲字トハ子母音ヲ合シタル日本假名字ヲ指
スモノナリ
一支那ノ音ハ總テ中古日本ニ入リシヨリ今日マデモ通用スル者ヲ用
ヒ諸例ニ掲ケタリト知ルヘシ

日本文体文字新論

目錄

第一章	語体語勢ノ事	一
第二章	文語及ヒ文体ノ事	四十一
第三章	日本ニ用フ可キ文字及ヒ文体ノ事	七十五
第四章	假名ト漢字トノ優劣	百十五
第五章	日本ノ假名ト羅馬字トノ優劣	百七十九
第六章	全篇ノ要領及ヒ補遺	二百二十三

目錄畢

日本文体文字新論

矢野文雄 著

第一章 語体語勢ノ事

日本ニ於テ如何ナル文字文体ヲ用ヒバ國人ノ知識ヲ進ムルニ最モ利益多カルヘキヤヲ判定セント欲セハ先ツ語体語勢ヨリ之ヲ思考セサル可カラズ

今如何ナル語体語勢ガ最モ日本人ノ口ニ都合ヨキヤ(發音ニ便利ナルヤ)ヲ知ラント欲スルニハ先ツ左ノ例ヲ判斷スルヲ必要トス

第一例

- ① ヨノナカノ、スベテノコト(世間ノ總テノ事)
② セケンノ、パンヲ(世間ノ萬事)

第二例

- ① ヨイ、ヒヨリ(好天氣)
- ② ヨイ、テンキ(好天氣)

右第一例双方ノ中ニテ何レガ口ニ便ナルヤト問ハ、十人ノ九人迄ハ必ズ②印ノ方ヲ便利ナリト答フ可シ又第二例ノ中テ何レカ便利ナルヤト問ハ、又必ズ②印ノ方ナリト答フ可シ斯ク第一第二ノ二例トモニツナガラ②印ノ方ヲ口ニ都合好シト思フハ何故ゾヤ一寸ト考フレハ等閑ノ判定ノ如クナレトモ其ノ實ハ是ノ判定ニ正ジキ道理アルナリ

又左ノ二例ノ中テ孰レガ口ニ便ナルヤヲ思考セヨ

第三例

- ① カミノ、トガメ、チモヒ、シツタルカ(神爵思ヒ知タルカ)
- ② シンバツ、チモヒ、シツタルカ(神爵思ヒ知タルカ)
- ③ シバシノ、アヒダニ、フチハ、ミナソコニ、シヅモレリ(暫時)

第四例

- ① ノ間ニ船ハ水底ニ沈ミタリ)
- ② ザンシニシテ、センタイ、スイテイニ、チンボツス(暫時ノ間ニ船体水底ニ沈没ス)

右ノ二例ニ於テモ亦タ二ツナガラ②印ノ方ヲ好ムモノ多カラシ是モ亦タ自ラ其ノ道理アルナリ
世人ノ知ル如ク我國ノ語ニハ一物ニ兩名アルモノ多シ例セハ土地ノ高ク聳ヘタル處ヲ「ヤマ」ト名ケ又「サン」ト名ク水ノ流ル、處ヲ「カハ」ト名ケ又「セン」ト名ク是ノ「ヤマ」「カハ」ト云ヘル語ハ眞ノ日本語ニテ「サン」或ハ「セン」ト云ヘル語ハ則チ支那字ノ日本ニ入リシ時ニ文字ト與ニ舶來セシ支那語ナリ(凡テ訓ト云ヘルハ日本ノ土語ニテ音ト云ヘルハ皆チ支那語ナリ訓ハ則チ支那字ニ對スルノ譯語ナリシナリ)支那字ノ舶來セシ時ニハ日本ノ開化モ猶ホ稚ク隨テ事物ノ名モ亦タ甚タ少ナク言語

ニハ極テ乏シカリシナリ然ルニ支那ハ之ニ反シテ其ノ頃ハ其ノ開化
 進ミ居リ日本ニ比較スレバ事物ノ區別モ甚ク精密ニテ其ノ言語モ亦
 タ隨テ多カリシナリ故ニ支那字ノ我國ニ入ルニ當テヤ我々ノ祖先ハ
 譯セラル、ダケハ我が土語ニテ支那字ニ訓ヲ付シタルモ我カ土語ノ
 貧クシテ到底譯語ヲ下ダシ能ハサルノ支那語ニ至テハ其ノ儘ニ支那
 語ヲ用ヒテ通用セシメタル者ナリ(例セバ仁、義、孝、悌等ノ語ニ適當ナル
 訓語ナキカ如キ是レナリ)又日本ノ土語ニ適當ノ支那語ナキモノモア
 リ斯ル有様ナルガ故ニ我國ノ語ニハ今日三種ノ區別ヲ生スルニ至レ
 リ則チ第一ハ土語ノミアリテ支那語ナキモノ(長持ノ類)第二ハ支那語
 ノミアリテ土語ナキモノ(簞笥ノ類)第三ハ土語ト支那語ト兩語ヲ有ス
 ルモノ(ツルギ「ケン」ノ類ニテ「ツルギ」ハ土語「ケン」ハ支那語ナリ)故ニ第一
 及ヒ第二類ハ唯一種ノ語体(土語体)ニアラザレバ則チ支那語体アルノ

ミナレト第三類ニ至テハ土語、支那語ノ二体アリ第一類ハ土語体第二
 類ハ餘義ナクモ支那語体ヲ用ヒサルヲ得サルハ無論ナリ第三類ニ至
 テハ両体アリ故ニ此類ノ両体ヲ比較ニ用ヒタルモノニテ前ニ掲ケタ
 ル四例ハ則チ此第三類ニ屬シ二様ノ語体アルモノナリ而テ④印ハ孰
 レト土語体ニテ⑤印ノ方ハ皆チ支那語体ナリト知ルヘシ斯ク兩体ア
 ルニ世人カ⑥印ノ支那語体ノ方ヲ便ナリトスルハ何故ソヤ其ノ理ヲ
 知ルコト必要ナリ

今言語學上ヨリ察スルニ日本ノ土語ハ實ニ其ノ數ニ乏シカリシノミ
 ナラス其ノ音聲ニモ亦ク非常ニ乏シカリシモノナリ語ニ乏シキト聲
 ニ乏シキトハ自ラ別物ナレハ之ヲ混シテ考フ可カラズ總テ事物多ク
 レバ其ノ社會ハ言語ノ數ニハ富ミ得ヘシ然レトモ言語ノ數ニ富マバト
 テ其ノ音聲ニハ富ムヲ得サルコトアリ(例セバ昔シ我國ニ「カキクケ」五

十音ノ外ニハ一音モ無リシト假定ムルモ猶ホ事物ノ區別極メテ精密ナリシナランニハ此五十音ノミノ順序ヲ變ジテ如何様ニモ多クノ言語ヲ造リ其ノ數ヲ増加シ得可シ例セバ、タ、ミ、ト、ム、ノ四音ニテモ其ノ順ヲ變スレハ「トムタミ」「タムトミ」「タミトム」「トミタム」「トタミム」「ヨタトム」等ノ如ク四音ヲ變化シテサヘ殆ンド百餘ノ言語ヲ生スルヲ得ベシ然レバ五十ノ音聲ヲ種々ニ組立テ言語ヲ造ラバ幾十萬語ヲ生スルモ決シテ難キコトニハアラス(但シ甚々長キ語ヲ生スルハ免レ難シ)乍去ラスク幾十萬語ヲ生スレバトテ其ノ音聲ノ種類ハ猶ホ僅ニ五十ノ外ニ出ルコト能ハサルヘシ(例セバ「ヒ、コ、ホ、ハ、デ、ミ、ノ、ミ、コ、ト」ト云ヘル如キ平長ノ聲ヲ積ミ重テタル語ハ澤山ニ生スルトモ「ギヤン、ジャリ、パツド」杯ノ如キ短聲急聲ヨリ組立テシ語ハ人名ニモ地名ニモ什器ニモ事柄ニモ決シテ之ヲ生スルコト能ハサルベシ)是レ則チ聲ニ乏シキナリ故ニ言語ト音聲

トハ自ラ別事ニシテ一物ニ非ラサルナリ而テ日本ノ土語ガ語ニ乏シキノミナラス聲ニモ乏シカリシハ實ニ驚ク可キ事柄ニシテ今日ヨリ考フレハ其ノ時節ニハ不便、實ニ甚シカリシナルヘシ何トナレハ唯、平長ナル一種ノ聲ヲ積立テ語ヲ作ル故ニ其ノ語、甚々長クシテ口ニ不便ナレハナリ

(左ノ註ハ母音子音ノ理ヲ知ラザレバ少ク解シ難キカ故ニ成ル可ク日本ノ假名ニテ之ヲ示サント欲シタレハ爾カ爲スルハ分明ナラサルノ恐レアルカ故ニ羅馬字ヲ用ヒタリ若シ不幸ニシテ未ダ羅馬字ヲ學ブノ機會ヲ得サル讀者アラハ此ノ一節ヲ脱シテ次ノ本文ヲ讀マシコト望ム)

凡テ子音一箇ニテハ聲ヲ爲ス能ハス子音母音相ヒ合シテ始テ聲ヲ爲ス聲ノ最モ短急ニシテ析キ分ツ能ハザルチ一聲(シラブル)ト

ス而テ一聲ノ原音ハ其ノ數大凡ソ十餘種アルヲ左ノ如シ
一聲ノ種類表

子音母音ノ順序(○ハ母音○ハ子音ノ印ナリ)

其一例

- 第一類 ○ 一
- 第二類 ○ ○ ea
- 第三類 ○ ○ ad
- 第四類 ○ ○ da
- 第五類 ○ ○ plu
- 第六類 ○ ○ tud
- 第七類 ○ ○ ogy
- 第八類 ○ ○ oil

- 第九類 ○ ○ ○ ○ warn
- 第十類 ○ ○ ○ ○ fawn
- 第十一類 ○ ○ ○ ○ spos
- 第十二類 ○ ○ ○ ○ spand

右ノ外ニ尙ホ有レヒ其ノ類甚タ少ナキモノナレハ之ヲ
零ス

右ノ如ク十餘種ノ原聲アル中ニテ日本ノ原聲五十音之ニ濁音ヲ
加ヘテ總數九十餘ト爲ルハ唯右ニ掲ケタル第一例及ヒ第二例ヨ
リ外ニハ嘗テ他ノ種類ノ聲ナシ則チ五十音ノ ka ki ku ke ko ノ如
キハ第二例ノ(子音母音ト合シタル聲ニテ悉ク第二例ニ屬スル者
ナリ則チ日本ノ土語ハ第二例ノ聲ノミナリ但シ「チ」「ツ」ノ三聲
ノミハ [shi][chi][su]ト爲ス論モアレハ右ノ三聲ハ第四例ニ屬スル

者ト爲スモ尙ホ日本ノ土語ニハ其ノ他ノ七八種ノ聲ハ無カリシ者ナリ然ルニ聲ニ富ミタル國ニテハ右十餘種ノ聲ヲ悉ク用フル者アリ是ヲ以テ日本ノ土語カ聲ニ乏シカリシヲ知ルヘシ純粹ナル日本ノ土語ハ平長ノ聲(マ)〔ム〕〔レ〕〔ロ〕〔ma〕〔mu〕〔re〕〔ro〕等ノ如ク其ノ音和カニ長キ者ノミニテ短聲ナシ(テン)〔ペン〕〔ハン〕〔ソノン〕〔sen〕〔pen〕〔han〕〔kan〕ノ如ク短キ聲ナク)又急聲ナシ(クワ)〔クヰ〕〔クヱ〕〔クヰ〕〔クヱ〕〔クヰ〕〔クヱ〕等ノ如キ急迫ノ聲ナキナリ)斯ク短聲急聲ナクシテ平長ノ聲ノミナリシ時代ニハ我々ノ祖先ハ實ニ不便ナリシヲナルヘシト思ハル何トナレハ平長ノ聲ノミニテハ是非トモ其ノ言語長クナリテ甚ダ不都合多ケレバナリ彼ノ「ヒコナギサタケウガヤフキアヘズノミコト」ノ如キニ至テハ其ノ長キト實ニ驚クヘキニアラスヤ

短聲急聲ヲ用フレハ其ノ語短カキコ平聲ノミヲ用フレハ何故ニ

長引キテ不便ナルヤヲ考ヘ見ヨ前ニ掲ケタル十餘種ノ原聲ハ皆十一氣一度ニ發音シ得ル者ナレトモ其ノ中ニテ發音シ易キ者ト發音シ難キ者トアリ乍去ラ一聲ノ如何ニ發音シ難キ者ナリト發音シ易キ聲二個ニ比較スルルハ發音シ難キ一聲ノ方ニ大ナル便利アル者ナリ日本土語ノ子音母音ノ平聲(マ)ノ如キハ無論ニ支那語ノ子音母音子音ノ短聲(モ)ヨリモ便利ナリ然レトモ是ノ平聲ヲ二重テテ二聲(yama)ト爲セシ者ト短聲ノ一聲(ya)ト比較スルルハ一聲ノ便ナルニ及ハサルナリ若シ一聲ノ種類十餘種アラハ一聲ニテ辨ス可キ場合甚ダ多カラシコト不幸ニシテ日本ノ土語ハ平聲ノ一種ヲミナレハ短聲急聲ノ一聲ヲ用フヘキ所ニ常ニ平聲ヲ二聲三聲ト重テ用ヒタル者ナリ故ニ一聲ノ短聲急聲ヨリモ長引カサルヲ得サルナリ

例セハ鉢ト云フ語ヲ平聲ニテハロ、ハノ二聲ヲ重ヌルニ短聲ナレハ、ハチキハ一ノ一聲ニテ之ヲ辨スヘシ又鉢卷ト云フ語ヲ平聲ノミコテ作ルニハ *ha-ti-ma-ki* ノ四聲ヲ重テ積ムニ短聲ナレハ *hai-quan* ノ二聲ニテ辨スヘシ聲ヲ多ク積ミ重テタルカ故ニ平聲ノ四聲ハ短聲急聲ノ二聲ニ及ハサルナリ

約言スレハ日本ノ土語ハ幾ント平聲一種ノミヲ用フル故ニ言語ヲ作ルニ當リ平聲ノミヲ頻リニ積ミ重ルヲナリ則チ聲數ヲ増加スル譯ケナリ故ニ短聲急聲ノ聲數ノ少ナキ語ニ比較スレハ常ニ不便ヲ感スルナリ本文ノ「ヒコナギオタケ」ノ如キモ平聲短聲急聲ヲ用フレハ *gen. pa. ren. bu. ro. ji. so. shiu. fu. go. son.* (彦波瀲武嶋菖草葺不合尊)ノ十一聲ニテ辨スヘキニ平聲ノミナレハ *hi. ko. na. gi. sa. ta. ke. u. ga. ya. fu. ki. a. e. zu. no. mi. ko. jo.* ノ十九聲ノ多キニ至ルナリ

凡テ言語ハ成ルヘシ少ナク口ヲ動カシテ成ルヘシ多クノ意味ヲ言ヒ得ルチ最上ノ者トシ多ク口ヲ勞シテ僅カノ意味ヲ言フチ下等ノ者トス是自然ノ理ニテ「ニシキオリ」(錦織)ハ「ニシゴリ」ニ縮マリ「ヤマシカ」(山鹿)ハ「ヤマガ」ニ縮マルハ則チ自然ト言語ヲ短縮スルチ好ムノ證據ニテ開化ノ大ニ進ミ事物ノ大ニ増加シテ人間ノ働キ益々忙シキチ加フルニ隨ヒ其ノ言語ヲ短縮スルヲモ亦益々必用トナル者ナリ而テ今如何ナル語法カ最モ短縮ニ便ナルヤチ考ヘナハ平聲短聲急聲ノ諸種ヲ雜ヘ用ヒ成ルヘシ一聲ヲ積ミ重テザル者チ第一トシ聲ヲ多ク積ミ重ヌル者チ最下等トス例セバ「今」カヨウニ、ワタクシム、キ、マシタ「ト言ヘル一辭チ日本ノ土語ト支那語トニテ孰レカ手短ク言ヒ得ルヤチ比較シ見ヨ

①ウ、レ、カ、ク、キ、ク(如是我聞)六聲

㊦ニヨ、ゼ、ガ、モン(如是我聞)四聲

右ノ「ワレ、カク、キク」ハ日本ノ土語ノ中ニテ非常ニ簡便ナル文學上ノ語ヲ用ヒタルモノナリ然ルモ猶ホ「ニヨ、ゼ、ガ、モン」ノ便ナルニ勝ツテ能ハス今其ノ理ヲ窮ムレハ支那語ノ方ハ「ニヨ」「モン」ノ短聲急聲ヲ雜ヘテ僅ニ四聲ト爲スニ土語ノ方ニハ平聲ノ「ヨ」「ハ」「六」聲ヲ積ミ重テタルニ依ルモノナリ則チ一方ハ四度ヒ口ヲ動カシ一方ハ六度ヒ之ヲ動カスガ故ナリ世人動モスレバ字ニテ讀ム故ニ唐音ハ短ク覺ユルト考フル者ナキニモアラサルカ如シ然レバ夫ハ大ナル誤リニテ文字ニテ書ク故ニ其ノ聲、短ク假名ニテ書ク故ニ其ノ聲、長キニハアラヌ是ハ元來支那語ノ聲ニ富ミタルカ故ニテ其ノ文字ノ力ニハ非ザルナリ

短聲急聲ノ種類ナクシテ平聲ノミチ長ク積ミ重ムル日本ノ土語ハ我々ノ祖先ニモ實ニ不便ナリシト見ユ支那文字ノ入來ルニ隨テ始テ短

聲急聲ノ種類ヲ増シ支那語ヲ用ヒテ其ノ不便ヲ補フニ至リシナリ故ニ「ア」「マ」「テ」「ラ」「ス」「ヒ」「ノ」「オ」「ホ」「ヨ」「カ」「ミ」(十二聲)ハ遂ニ「テ」「ン」「セ」「ウ」「ク」「ワ」「ウ」「ダ」「イ」「シ」「ン」ノ(五聲)ニ壓セラレタルナリ

總テ是等ノ語ハ支那文字ノ音ヲ用ヒル方ノ高尙ヲシク見ユルヨリ斯ク爲リシノミニハ非ズシテ寧ロ十二聲ヨリ五聲ノ方ノ發音ノ便利ニ隨ヒシモノナリ今若シ茲ニ同様ニ口ノ達者ナルモノ兩人ヲ置キ一人ヲシテ日本ノ土語則チ訓ノミヲ用ヒシメ又他ノ一人ヲシテ支那音ノミヲ用ヒシメ一分時間或ハ十分時間ニ力ノ限り双方共ニ早く同様ノ事柄ヲ談話セシメナバ支那音ヲ用ヒル者ノ方カ必ズ幾倍多クノ事柄ヲ話メ得ベシ是レ前ニ掲ケタル「如是我聞」ノ例ニテモ分明ナリ例セハ一方ノ土語ハ「ヤ、マ、カ、ハ、ナ、リ、ヒ、ノ、キ」山川鳴動杯ト九度ヒ其ノ口ヲ動カス間ニ支那語ノ方ハ「サン、セン、メイ、ドウ」杯ト四度ヒ口ヲ動カシテ手早

ク言ヒ勝テ得ヘシ斯ク兩語ノ間ニ遲速ノ優劣ヲ生スルハ言語ノ貧富ニハ非ラスシテ寧ロ音聲ノ貧富ニ依ルモノナリ能ク此理ヲ考ヘテハ日本ノ土語ガ音聲ニ乏シカリシコトハ甚ダ明白ナルベシ

若シ古代ニ於テ支那トノ交通ナカリセバ我邦ニモ短聲急聲ノ類ガ自然ト成出スヘカリシナルヘシ何トナレハ今日我々ノ用フル土語ノ中ニテ形容詞ノ如キハ往々短聲ニ變スルモノアレハナリ(神怒)カミイカリ[○]チ[○]カンイカリ[○]ト唱ヘ「ミ」チ[○]ンニ變シ又山ノ上ト云ヌ可キチ或ル田舎ニテハ「ヤマンウヘ」ト變シ居ルノ類ナリ然レバ短聲急聲モ自ラ我邦ニ成出スヘカリシナランガ之ヲ生セザリシ古昔ノ土語ノミノ時世ニハ其ノ不便實ニ甚シカリシニ相違ナシ

然ルニ支那字ト共ニ支那ノ音聲ノ舶來セシハ我邦ノ言語上ニハ非常ノ便利ヲ與ヘタル者ナリ此時ヨリ我邦ニハ始テ短聲急聲ノ類ヲ平聲

ニ交ヘ用ヒ大ニ短縮ノ便ヲ得ルニ至リシナリ斯ク畧論セハ前ニ掲ケタル第一例ノ①印ヨリモ②印ノ方ガ口ニ都合ヨク又第二例ノ①印ヨリモ②印ノ方ガ口ニ都合ヨキノ理ハ自ラ分明ナルヘシ何トナレバ二例トモ②印ノ方ハ聲ヲ積ミ重スルコト少ナケレハナリ則チ第一例ノ①印ハ十一聲ニテ②印ハ五聲ニテハナリ又第三例ノ①印ハ五聲ニテ②印ハ四聲ニテハナリ

前ヨリ論シ來リシ所チ約言スレハ言語チハ成ルヘク之チ短縮スルコト必要ニテ短聲急聲ノ種類チ平長ノ聲ニ雜ヘ用フレハ聲チ多ク積ミ重スルニ及ハスシテ大ニ短縮チ助クハナリ故ニ聲ノ種類チ増スコトハ言語短縮ノ爲メニ甚ダ必要ナル者ナリ

(子音母音ノ理ヲ知ラサルヲ讀者ハ左ノ註ノ一節チ脱シテ次ノ本文未讀テ可ナリ)

日本ノ土語ヲ羅馬字ニテ綴ルルハ其ノ缺所ヲ知ルヲ甚ダ容易ナ
 リ日本ノ土語ハ如何ナル語モ概テ其ノ聲ヲ丁數ニテ増加スルノ
 奇觀アリ則テ二音ノ語ノ次ハ丁數ニテ飛テ四音ノ語ト爲リ四音
 ヲリ飛テ六音ノ語ト爲リ八音十音十二音十四音十六音ト爲ルモ
 ノ多ク決シテ二音ノ次ニ三音ノ語ト爲ルヲ能ハズ又タ四音ノ次
 ニ五音トナルヲ能ハズ七音九音十一音等ニ變ズルヲ能ハザルナ
 リ左ノ例ヲ見ヨ(但シ「ア、イ、ウ、エ、オ」ノ母音ノ一音獨立スル時ト「シ」「ツ」
 「チ」ノ三音ヲ除ク、音聲ニ富ミタル邦ニテハ之ヲ除クトモ尙ホ其
 ノ言語ハ丁數ニモ半數ニモ順々ニ増加シ得ルナリ)

- 二音 四音 六音 八音 十音 十二音
- ya. yama. yamaga. yamagawa. yamanotani. yamatanigawa.
- 十四音
- yasakebinokoye.

右ノ如ク丁數ヲ以テ其ノ音ヲ増加シ半數ヲ以テ増加スル能ハズ
 (但シ母音ノ獨立シテ一字ヲ形ツクル者ヲ除ク「ヒ」「ホ」ノ類)然ルニ
 音聲ニ富ミタル國ニテハ半數ヲ以テモ増加シ丁數ヲ以テモ増加
 ス故ニ二音ノ語ノ次ニハ三音ノ語モアリ四音ノ語モアリ五音六
 音七音八音九音如何ナル數モ非サルヲナシ左ノ例ヲ見ヨ

pi pis piso pisto pistry pitisso pistrina pistrilen pituitaria pistrinalis pistri-
 nensis pissaspnaltus

右ノ如ク丁數ニテモ半數ニテモ如何ナル音數モアリ是則テ音聲
 ノ細カナル故ナリ

日本ノ土語ハ斯ノ如ク二字ヨリ四字ニ飛テ「ヤ」ノ二音語ノ次ニハ
 yama トカ yari トカノ語ト爲ルニ音ノ細キ國ニテハ ya ノ次ニ yan
 ト云フ語モ有リ得ベシ又 yama ト yamaga トノ間ニ yagan ト云フ五音

ノ語モアリ得ベシ然ルニ日本ノ土語ハ丁數ノ語許リニテ常ニ半數ヲ飛ヒ超テ丁數ニ音ヲ増加スル故ニ語勢平長ニシテ緩ニ過ル
 口多キナリ日本ノ土語ハ右ノ如ク丁數ノミニテ音ヲ重ヌルカ故ニ半數丁數ニテ音ヲ増加スル他ノ國語ヨリ常ニ長延キ之カ爲メ短縮ノ點ニ於テ常ニ一步ヲ讓ルノ姿アルヲ免レサリシナリ
 夫ノ Yamagawa ト云ヘル土語カ sensen ト云ヘル支那音ニ及ハスシテ口ニ不便ヲ感スルハ四聲ト二聲トノ優劣ニテ土語ニテハ yama ノ二聲ヲ重テテ支那語ハ一聲ノ son ニテ辨シ又土語ハ kawa ノ二聲ヲ重ヌルニ支那語ハ go ノ一聲ヲ用フ唯、山トカ川トカノ一語ノ音ハ左迄長短ノ差ヲ感セサルモ山川ト續ケテ二語ト爲ルニ及テハ一方ハ四聲一方ハ二聲ト爲リテ大ナル便不便ヲ兩者ノ間ニ生スルナリ

何レノ國語ニテモ皆ナ語原アリテ言語學者ハ之ヲ語根ト名ク而テ五根ハ通例一聲(一シラブル)ノモノ多シ例セハ日本ノ土語カ「ソ」ヲ以テ衣ノ語根トシ(衣通姫ノ衣ノ如ク「ソ」トハ衣ノ「ナ」ナリ則チ「ヨ」ノ一聲ナリ)而テ手ヲ覆フ部分ヲ「ハ」之ヲ「ソ」ト云フ「手」ノ部分ヲ被フ「衣」ト云フ意味ナリ又足ヲ被フ部分ヲ「ス」ト云フ「衣」ノ末ニト云フ意味ナリ斯ク語根ハ通例一聲ナルチ他ノ一聲ノ語根ト合シテ茲ニ始メテ異ナル一種ノ意味ヲ生ス「手」ノ「テ」(ト)ト「衣」ノ「ソ」(ヨ)トチ合シテ茲ニ袖「ソ」ト云フ意味ヲ生スルノ類ナリ)然ルニ我カ土語ハ聲ノ種類ニ乏シク十餘種ノ聲ノ中ニテ唯一種ノ聲(始メニ子音次ニ母音トチ合セシモノ)ノミヲ用ヒ此種類ノ聲ハ其ノ數僅カニ「カキクケコ」ノ九十音ナリ故ニ今若シ此一聲ヲ以テ語根ヲ形ツクルトセハ我々ノ祖先ハ九十メケノ事物ニハ一聲ノ名ヲ與ヘ得

ヘント雖モ九十以外ノ事物ニハ最早ヤ此聲ヲ二ツ重テ用ヒサル可カラス何トナレハ最早ヤ僅々九十ノ聲ヲ用ヒ盡シタレハナリ斯ク二聲ヲ用ヒ三聲ヲ用フルニ從テ事物ノ名ハ次第ニ長クナリ口ニ不便ヲ生セサルヲ得ス然ルニ之ニ反シ音ノ細カナル國ニテハ一聲ノ種類十餘種アリテ一種各々九十音ヲ有ストセハ一聲ノ員數ハ合シテ一千以上ニ上ルヘシ然レハ一聲ノ語根モ亦タ一千以上アル譯ケナリ故ニ我カ土語ニテハ已ニ一聲ヲ用ヒ盡シテ二聲ヲ重テ *re-vo*ト云ハサルヲ得サルニ他ノ國ニテハ尙ホ *so*ノ一聲ヲ用ヒ得ル者アルナリ又長キ種々ノ語ヲ造ルニ當テモ此理ニテ我國ノ土語ニテハ一種ノ聲(子音)母音九十ヲ積ミ重テ長ク語ヲ作ラサルヲ得サル場合ニモ他ノ細音ノ國ニテハ聲ノ種類多キカ故ニ長ク積ミ重ヌルニ及ハス一聲或ハ二聲三聲ニテ之ヲ辨

シ得可シ土語ニテハ子音母音ノ二聲(衣)ヲ語根トシ *so-po*ノ二聲ヲ重テ之ヲ袖ト爲スニ支那ナレハ尙ホ *shu*ニ(子音)子音母音母音ノ一聲ヲ用ヒ得ヘシ又土語ナレハ *so-so*ノ二聲ヲ用ヒテ裳ト爲スニ支那ナレハ尙ホ *shio*ノ一聲ヲ用ヒ得ヘシ又土語ナレハ袖口ニ *so-ta-ku*ト四聲ヲ重テ得サルニ支那ナレハ *shu-ko*ノ二聲ニテ辨スヘシ我ハ一聲ヲ用ヒ盡シテ聲ノ數ヲ重ヌルニ彼ハ尙ホ種々ノ一聲ヲ合シテ聲ヲ重ヌルコト少キナリ是ノ得失ハ長キ語ヲ組立ルニ至テモ亦タ同様ニテ如何ナル幸ノ世ノ中ソヤト云フ意味ヲ英語ニテ組立テハ *What a world of happiness*ノ七聲(子音)子音ノ一聲、母音ノ一聲、子音子音子音ノ一聲、母音子音子音子音子音ノ一聲、子音子音子音子音子音子音ノ三聲ナリ然ルニ土語ナレハ *i-ka-da-ru-si-ya-wa-se-no-yo-no-na-ka-zo-ya*ノ十五聲ニ至ルヘシ

總テ本文ニ短聲急聲ト書セシハ前ニ掲ケシ十餘種ノ聲ノ中ニテ
子音母音ノ一聲ヨリハ長ク其ノ二聲ヨリハ短キ者ヲ云フ則チ第
一例第二例第三例ノ外ハ皆ナ短音急音ノ總稱ヲ與ヘタルナリ母
音及ヒ母音ノ連ナル者及ヒ子音母音ノ聲ノ外ハ皆ナ其ノ聲ノ短
激ナラサル者ナシ

語根ノ一聲ナル者多キハ實事ニテ我カ國語ノ如キモ之ヲ証スル
ト多シ渾沌草昧ノ時世ニハ最モ手近ク人ノ眼ニ見ユル事物ニ先
ツ名ヲ與フルト見エスル物ノ名ハ概チ一聲ナリ目、ノト木、キハ齒、ハモ藻ノ
類ノ如シ又其ノ次ニハ必要ノ働詞出來ル大概チ二聲ナリ嗅、カク聞、キク見、
トル取、ツク突、ツカム嚙ノ類ノ如シ

子音母音ノ未タ合セサル者[チ][オ][ヒ][ニ][ブ][ヒ]ノ類ヲ音ト名ケ音ヲ合
シタル者ヲ聲ト名ケ[fo][hi][to][bu]聲ノ合シタル者ヲ語ト名ケ[fohi]

[tohu]又語ノ合シタル者(tori tohu)ヲ辭ト名ツク本文ニ音聲語辭ト
記スルノ區別ハ是ノ意味ナルヲ知ル可シ

[チヨク][キヨク][シヨク][チャク]ノ如キ聲(急聲ト名ケタル者)ハ甚タ口ニ都合ヨ
キ場合アリテ缺ク可ラサルモノナルカ就中勢ヒ烈シキ口調ヲ用スル
キハ多ク此聲ヲ撰ムコトナリ讀者若シ少シク之ヲ其ノ心ニ求メナハ
其ノ例ヲ見出スコト頗ル容易ナルヘシ例ハ「オカヨ」(御上)ト云フヨリ「チ
ンチヨウ」(天朝)ト云フチ好ミ「ヒトスヂ」(一筋)ヨリ「イッナヨクセン」(一直線)
チ好ミ「イヘガラ」(家柄)ヨリ「モンバツ」(門閥)チ好ムノ類、枚擧ニ違アラズ世
人カ斯ル好ミヲ生スルハ音ニ其ノ語カ支那ノ文學ニ縁アリテ高尙ニ
見ユルカ故ノミニアラズシテ必竟ハ語勢ノ急激ヲ欲スルニ因ル者ナ
リ「ヒトスヂ」ニ進ムト云テハ勢ヒ拔ケテ甚タ鈍シ故ニ「イッナヨクセン」ニ
進ムト云ヒ「テンチヨウ」ヨリノ命ナリト云フ

嘗テ父老ノ物語レルヲ聞キシニ昔シ或ル藩ニ一奇人アリ此者ハ極小臣ニテ五十石ニモ足ラサル程ノ知行ナルカ一年藩主ニ從ヒ東海道ヲ通行セリ然ルニ或ル旅店ニテ其ノ知行ヲ問ハレシニ此男答テ余ハ「八百石」ト云ヒタリトソ其ノ後チ朋友打チ寄りテ彼ノ者ニ向ヒ「表ヲ繕ヒ大祿ヲシク云フ程ナラハ何故ニ千石」ト云ハサリシヤ二百石ヲ引去テ「八百石」ト云ヒシハ流石ニ足下ハ小臣モノナリ膽ノ小サキ男カナ」トテ笑ヒシニ此者答テ「否ナ左ニアラヌ理屈アルコナリ肩ヲ怒ラシカムトニ「ハアツビヤアツコク」ト云々ハ其ノ聲ノ口一杯ニテ甚々勢ヒヨシ「ゼンゴク」ニテハ勢ヒ拔テ面白カラサレハナリ」ト云ヒシトソ是ノ「八百石」ノ話ハ如何ニモ實際ニテ左モアリシナラント思ハル凡テ語勢ノ急激ヲ要スル場合ニハ急聲短聲ノ必要ナルコ意外ニ甚シキ者ナリ

前ニ掲ケタル十餘種ノ聲ノ中ニテ「ロ」ノ二子音ニ終ルチ短聲ト

名ケ其ノ他チ總稱シテ急聲ト名ケタリト知ル可シ

此理ヲ考フレハ此章ノ第三例ノ㊦印「シン」ハツオモヒシツタルカ」ノ方カ㊦印「カ」ノトガメオモヒシリタルカ「ヨリ口ニ便ナル所以チ知り得可シ何トナレハ㊦印ニハ「シン」及ヒ「ハツ」ノ短聲急聲アリテ㊦印ニハ之レ無ケレハナリ元ト此辭ハ其ノ勢ヒ急激ヲ要スルニ一方ノ㊦印ニハ唯平長ノ聲ノミニテ短聲急聲ナキハ大ナル不都合ナレハナリ

又第四例ノ「暫時」ニシテ船体水底ニ沈没ス「モ右ト同様ニテ是ノ辭ハ語勢ノ急激ヲ要スルニ㊦印ニハ平長ノ聲ノミニテ短聲急聲無ク一方ノ㊦印ニハ則チ之レアレハナリ

余カ伊太利ニ遊ヒシ時同地ノ一士人ト談話偶々詩歌ノ「ニ」及ヒケレハ余ハ日本ノ歌謠カ子母音ノ一聲ノミナルコチ語リシニ其ノ人頻ニ考ヘ居タリシカ余ニ向テ曰ヒケルハ唯子音母音ノ二種ノ聲ノミナラ

ハ調子常ニ同ク倦キ易カラシムルノ患ナキヤ伊國ノ歌杯ハ聲ノ種類甚タ多キカ故ニ調子ノ種類モ亦タ多ク聽者ノ耳ニ甚タ面白キナリ詩歌ニ用ヒテハ日本ノ土語ハ調子ノ變リ難キ(モノトニチニス)缺點アル様ニ考フルカ如何ニヤト余モ此答ニハ難澁シタリキナリ實ニ此人ノ說ノ如ク日本ノ歌ハ常ニ子音母音ノ調ノミナルカ故ニ毎句ノ語尾ハ何レモ皆「アイウエオ」ノ五母音ニテ終ラサル者ナシ早ク云ヘハ諸語與ニ皆ナ同韻ナリ是ヲ以テ日本ノ歌ハ別ニ支那西洋ノ詩歌ノ如ク韻ヲ履ムニ及ハス唯聲ノ數ヲ揃ヘ五文字トカ七文字トカニ爲セハ充分ナルナリ

能ク注意スレハ樂器ニ合ハセル我カ歌ハ皆ナ訓ノ聲(土語)ノミナリ若シ一聲ニテモ音ノ聲(種類)ノ異ナル一聲ヲ雜フレハ必ス其ノ工合アヌキヲ覺ユルナリ若シ異種ノ聲ヲ用フレハ同種類ノ聲ヲ以テ語尾ヲ揃

ヘサル可ラス然ラサレハ十餘種ノ聲アルトナレハ毎句ノ相互ヒノ關係ニ大ナル不都合ヲ生スルナリ韻ヲ履マシムルト云フハ此語尾ヲ揃ヘルニ外ナラサルナリ

日本ノ歌舞ノ緩ナルハ本ト歌ノ調子ヨリ生シタル者ニテ歌ヲ組立ル聲カ皆ナ平長ノ聲ナル故ニ誠ニ柔カニ優ナルノ長所ハアレヒ其ノ換リニハ又急促ナル調ヲ生スル能ハサルノ短所アリ俗間ニテ三味線ニ合ハスル急促ナル歌ヲ調ヘ見ヨ此種類ノ者ニ限テ平聲ノ中ニ短聲急聲アルヲ見出タスヘシ

日本ニ其ノ始ノ短聲ナカリシハ驚クヘキ事柄ナリ夫ノ一二三ノ數字ノ如キハ早ク社會ニ生スル者ナルニ「ヒト」「フタ」「ミ」ノ土語ノ數字ニハ短聲ナシ夫ノ「イチ」「ニ」「サン」ノ方ニハ短聲アレヒ之ハ支那語ニテ日本ノ土語ニアラス今諸國ノ數字ノ音ヲ見ルニ大抵一ヨリ十迄數字ノ中ニ

短聲アラサルモノ無シ讀者ノ參考ノ爲メニ之ヲ左ニ示スヘシ
其ノ意味

國名	短聲	
西藏	ドゥン	七
暹羅	ノアン	一
交趾支那	ラン	五
東京	ボン	四
印度中部	チン	三
印度前部	ツン	三
亞布我仁斯丹	ピンザ	五
馬禮	セクルン	九
百兒西亞	パインチ	五
武流馬	ソン	三

日耳曼	フィンフ	五
魯西亞	セナム	七
英吉利	テン	十
佛蘭西	サン	五
伊太利	チンクキ	五
古希臘	ペンテ	五
古羅甸	クインクエ	五

右ノ如ク僅々十箇ノ聲中ニサヘ短聲ノアラサル者無キニ若シ日本カ
支那語ヲ採用シテ「イナ」「コ」「サン」ヲ用ヒスハ日本ニハ短聲ナカリシ
ナリ

蒙古極北ノ部落南亞米利加ノ土蠻ノ半開ナリシ古ノ米哥斯古及ヒ他
ノ部落又大洋洲中ノ群島或ハオーストラリアノタスマニア等ノ蠻族

ヲ數字ニハ其ノ中ニ短聲ノ一モ無キモノアリ是蓋シ文化ノ國ハ他國
 トノ交通ニ依テ大ニ其ノ開化ヲ助クルカ故ニ其ノ始メ短聲ナキモ他
 國ノ便ナル短聲ヲ採用シテ其ノ便ヲ受ケ其ノ音聲ヲ富マスニ未ダ野
 蠻ノ域ニ在ル諸部落ハ之ヲ採用スルニ至ラサルカ故ニ斯ク打揃テ短
 聲少ナキモノナルムシ
 斯ク論スレハトテ一概ニ日本ノ平聲カ短聲急聲ニ劣レリト云フニハ
 アラス場合ニ依リテハ平聲ノ方カ大ニ口ニ便ニシテ缺ク可ラサル
 多ケレハ亦タ或ル場合ニハ短聲急聲ノ大ニ便ナルヲアルナリ何ハ兎
 ニ角支那字ノ舶來セシ以後ハ短聲急聲ヲ用フルノ便ヲ得テ日本ノ言
 語ハ此時ヨリ大ニ都合ヨク爲リシヲハ恰モ猶ホ今日ノ歐洲諸國カ古
 ノ希臘羅甸ノ音聲ヲ採用シテ以テ其ノ言語ヲ便ニセシカ如キナリ然
 レハ短聲急聲ヲ用フルニ至テ我邦ノ音聲ハ始メテ畧ホ備ハルヲ得タ

リト言フモ可ナリ(然レハ世界諸國ノ音ニ比較スレハ猶ホ不足ナル音
 聲ナキニ非ス一例ヲ舉レハ夫ノ子音母音子音ノ一聲ノ中ニテ唇音(ラ
 ビアル)ニ始マリ又此音ニテ終ル「kid」[bab]ノ如キハ支那日本共ニ嘗テ
 此類ナキナリ又現今ノ有様ヨリ言ヘハ日本ノ言語ハ却テ支那ニ優レ
 ルニ似タリ抑モ支那ニハ「ラ、リ、ル、レ、ロ」ヲ以テ始マル一聲(蘭隣、朝禮ノ類)
 ハアレハ是ノ音ヲ以テ終ルノ一聲ハ之レ無ク又日本ノ土語(則チ訓)ニ
 ハ是等ノ音ヲ以テ終ル一聲(倉鳥入、誰、色ノ類)ハアレハ是ヲ以テ始マル
 ノ一聲ハ無カリシ者ナリ然ルニ我邦カ支那語(則チ音)ヲ採用セシ以來
 ハ右ノ五音ヲ以テ始マル者モ終ル者モ悉ク完備シテ有ラサルヲ無キ
 ニ至リシニ支那ハ今日ニ至ル迄モ未ダ是ノ音ヲ以テ終ルノ一聲ヲ生
 セサリシナリ然レハ今日ニテ我邦ハ言語ノ富支那ニ劣ラサルノミナ
 シテ其ノ音聲ニ富ムヲ大ニ支那ニ超エタル者ナリ

又支那ニハ平聲ヲ三ツ以上重テタルノ一語(ヨロコブ)等ノ聲ニ貧シク
 專テ短聲急聲ノミヲ用フルノ不便アリ是等ノ點ヨリ云ヘハ支那ハ我
 國ノ如ク平聲短聲急聲ヲ多ク交ヘ用フルノ富チ有セサルモノナリ(支
 那ハ英ノウエールズ音ニ類シ日本ハ伊太利音ニ類ス)
 世人ガ口ニ便ナル語ヲ擇ブハ是レ自然ノ定則ニテ世事ノ變化スルニ
 隨ヒ言語モ亦タ自然ト便利ノ方ニ進化(エボリウシヨン)ヲ爲スモノナ
 リ彼ノ進化論者タルダルウイン氏ノ言ヒシ如ク深ク考フレハ言語上
 ニモ進化ノ跡ヲ証スルコト多シ凡テ書籍上ノ言語文字ハ千万世ヲ歷
 ルモ其ノ儘ナルニ日用ノ言語ハ歲月ヲ經ルニ從テ次第ニ便利ノ方ニ
 傾キ漸々ト變化スルモノナルガ故ニ百年ノ後ハ書籍ノ言語(假名)ニテ
 書キシ言語ヲ云フト世間普通ノ言語トハ其ノ間ニ多少ノ隔リチ生ス
 ルチ免レサルナリ例セバチアポリリス(新シキ府ト云フ意味ナル希臘

語)ハ遠ニ變ジテチープレス(英)チープレス(西)ニ變シウヰンジンダカス
 ル(川ノ曲ル處ニ在ル城)ハ變シテウインヰルトナリ(デフエンダ)「爐ノ火
 ニ人チ近ケサル爲メニ置ク境ノ金物」ハ「フエンダ」ニ變シ又日本ノ東京
 語ニテ「ケムリ」ハ「ケム」ニ變スルガ如キチ見テ知ル可シ又古ノ實名詞ノ
 ミナラス助動詞ノ如キモ亦タ同様ニテ「左様」デ御座リマス「ハ」ソウデス
 ニ變シ「左様」デ御座リマシヨウ「ハ」ソウデシヨウニ變スルノ類甚ダ夥シ斯
 ク一方ニテ言語カ進化チ歷ルノ間ニ一方ニテ正シク角立タル舊語ハ
 少シモ變セズ文學上ノ言語(則チ文語)ト爲テ世ニ存シ或ル場合ニ使用
 セラレテ大ニ便利チ助ルコトナリ又日用ノ語ハ新語ト爲リテ絶エズ
 變化チ受ルナリ何故ニ斯ク言語ガ變化チ受クルヤト考フルニ其ノ理
 ハ唯不便ノ聲ヲ去テ便利ノ聲ヲ用フルニ外ナラス左レハ日本ニ於テ
 口ニ便ナル短聲急聲ヲ棄テ只平聲ノミヲ用ヒシメント欲セハ是レ言

語ノ理ニ悖ルノ甚シキ者ニテ啻ニ日用言語ノ不便ヲ來タスノミナラ
 ス其ノ不便ヲ文學上ニモ及ホシ文學上ノ不便ハ人民ニ知識ヲ與フル
 ノ障ケトナルベシ然レバ今支那字ヲ廢シ假名ノミヲ用フル世界ニ變
 スルト假定スルモ日本ノ土語ノミヲ用フルハ言語ノ天理ニ悖リ能
 求メテ世人ニ不便ヲ與フル者ナリ若シ強テ土語ノミヲ用ヒバ二冊ノ
 書ヲ讀ム人ハ一冊ニテ退屈シ二十枚讀ム人ハ拾枚ニテ疲勞スベシ其
 ノ人民ノ知識ヲ廣ムルノ妨ケタルハ多言ヲ要セスシテ明カナリ唯等
 閑ニ考ヘテ世人ノ傾キ喜ブ言語ニハ自ラ世人ヲ招クノ道理アルハ驚
 クコ堪ヘタルコアリ今其ノ一二ヲ畧記センニ近來舶來品ノ世ニ行ハ
 ル、ニ從テ是等ノ物ニ概テ二種ノ名アルハ世人ノ知ル所ナリ其ノ一
 ハ西洋ノ原名他ノ一ハ日本ノ譯語ナリ然ルニ譯語ノ方カ廣ク行ハル
 、者アリ又原名ノ方カ大ニ行ハル、者アリ例セバ「洋燈」ト「ランプ」トノ

中ニテ「ランプ」ノ方カ廣ク行ハレ「椅子」ト「チェア」トノ中ニテ「椅子」ノ方
 カ行ハル、コトナリ是レ抑モ何故ヤ一方ハ原名ヲ好ミ一方ハ譯名
 ナ好ムハ何故ナルヤ是レ他ナシ口ニ便ナルト不便ナルトニ因ル者ナ
 リ此例ヲ案スレハ紙ノ洋名ナル「ペピール」又「ペーパー」ハ後來モ譯語
 ノ「カミ」ニ勝ツコ能ハサルヘク又「ミルク」ノ原名ハ「ギウニウ」ノ譯語ヲ壓
 スルノ日アル可キニ似タリ然レハ其ノ譯語ナルト原名ナルトニ拘ハ
 ラス口ニ便ナル方カ世人ニ好マル、モノト云フヘシ然レハ西洋ニハ
 有テ日本ニハ之レ無キ物品、又ハ譯語ノ通シ難キ物品、又ハ同シ種類ノ
 中ニテ原名ハ甲ヲ指シ和名ハ乙ヲ指ス(例セバ「神」ト「ゴッド」トノ如ク「ゴッド」
 ト言ヘハ西洋唯一ノ神ヲ指シ「神」ト云ヘハ和漢ノ種々ノ神ヲ指スガ如
 キノ類ハ勿論此例ニ非ラス)此外ニ又順音、牙音、唇音、喉音ノ順序ニ依テ
 種々ノ便、不便ヲ言語上ニ生スルノ理アレハ此所ニ要用ナラサレバ之

日本ニテ是迄二語ヲ連用スルニ當リ一ハ平聲ニテ一ハ短聲急聲ヲ用
 フル者(山本ヲ「ヤマ、モト」ト言ハスシテ「サン、モト」或ハ「ヤマ、ホソ」ト言フノ
 類ヲ重箱讀ト唱ヘ世間ニテ甚タ忌ムコトナリシ夫レスラ口ニ便ナル場
 合ニハ誰モ心付カスシテ重箱讀ノ唱ヘ廣ク世ニ行ハル、コトアリ例セ
 バイナ富士ニ鷹サソノ蒺子ノ類ナリ實ハ支那音ナル「イナ、コ、サソ」ノ代
 リニ「ヒト、フタ、ミー」ノ土語ヲ用フルコソ當然ナルヘキナリ然ルヲ尙ホ
 重箱讀ニテ通用スルハ其ノ口ニ便ナルガ爲メノミ
 言語學ノ理ニ於テ人ノ口ハ言語ヲ短縮スルヲ好ムモノナレハ平聲急
 聲短聲ノ諸種ヲ用ヒ聲ヲ重スルコトヲ成ルヘシ減セサル可ラサルナリ
 然レハ我國ノ事物ニ支那語ノミアリテ土語ナキ者ハ勿論、支那語ヲ用
 ヒサル可ラス又土語支那語ノ兩体アル者モ必要ノ場合ニハ支那語ヲ

用フルコト實ニ肝要ナリ則チ平聲ノミヲ用ヒス他ノ種々ノ短聲急聲ヲ
 用ヒテ言語ヲ短縮スルコト肝要ナリ故ニ今平日ノ談話ヲ其ノ儘、假名ニ
 テ綴リ之ヲ文章ト爲スモ決シテ漢語ヲ廢シ得ヘキ者ニアラス斯ク土
 語ニ漢語ヲ雜ヘサルヲ得サルノ一事ハ余カ第三章ニ於テ日本ニ用フ
 可キ文字文体ヲ論定スルニ當リ極メテ入用ナルヲ以テ先ツ此事ヲ此
 處ニ論定シ以テ第三章ノ地步ヲ作り置クモノナリ

第二章 文語及ヒ文体ノ事

世人ノ中ニ動モスレハ漢字ヲ用フルカ故ニ文章ノ巧拙ヲ生ス今若シ之ヲ廢シテ假名字ノミヲ用ヒ談話ノ儘ヲ文章ト爲スニ至ラハ文章ニ巧拙ノ差異ハ無ルヘシ採ト考フルモノ無キニモ非サルガ如シ一寸ト等閑ニ考フレハ如何ニモ理屈ラシク聞ユレハ少シク深ク考ヘナハ決シテ左様ナルモノニアラス

今若シ講談師ト尋常ノ人トナシテ太閤記ノ某編ノ事柄ヲ同様ニ能ク呑ミ込マシメ兩人ナシテ其ノ事柄ヲ話サシメヨ講談師ノ談話ハ之ヲ聞クモノ退屈セサルノミナラス甚ダ面白ク之ヲ感スベシ然ルニ一方ノ常人ノ談話ハ之ヲ聞ク者大ニ退屈シ今少シク何トカ善ク話セカシ

ト思ハシムルヲナル可シ甲乙トモニ同様ノ事柄ヲ知り乍ラ之ヲ話ス
 ニ至テ何故ニ斯ク甚シキ優劣ヲ生スルヤ其ノ仔細ハ他ニアテズ巧
 談話ヲ爲スハ是レ一種ノ藝能ニテ人々ノ間ニ巧拙ノ差アルハ恰モ精
 ホ字ヲ書キ甚ク圍ムニ巧拙ノ差アルガ如シ善ク談話ヲ爲ス者ハ聽者
 ノ厭フ可キ所ハ之ヲ知テ之ヲ畧シ又詳ニ言ヘガシト聽者ノ心ニ望ム
 所ハ之ヲ知テ之ヲ審カニシ其ノ他先ニスヘキ事柄ヲ先ニシ後ニスヘ
 キ事柄ヲ後ニシ時ト場合トニ依リ緩急長短ヲ取捨シ且ツ其ノ口調マ
 デ之ヲ耳ニ便ナラシメ以テ意中ノ事ヲ面白ク人ニ知ラシムルコトナ
 リ
 又演説ノ如キモ其ノ意中ノ事柄ヲ唯口上ニテ述ルニ外ナラサルモノ
 ナリ然ルニ甲ノ演説ハ乙ニ勝リ或ハ全ク演説ヲ爲シ得サルノ人スラ
 往々ニ見懸ルハ則チ又右ノ理ニ依ルモノニテ何人モ巧ニ談話ヲ能ク

シ得可キニアラザレバナリ双方トモニ同様ノ事柄ヲ知り居ルト假定
 ムルニ其ハ談話ニ巧拙ヲ生スルヲ斯ノ如シ況ンヤ人々ノ間ニ事柄ヲ
 知ルノ多少アルヲ考フレハ猶更テ甚シキ談話ノ優劣ヲ生ス可シ
 然レハ日常ノ言語是ヨリ以下ニハ常語ト畧記スベシヲ用ヒテ其ノ儘
 之ヲ文章ト爲ストモ世人皆同様ニ文章家ト爲ルヲ能ハズシテ人々ノ
 間ニ非常ナル優劣ノ懸隔ヲ生シ劣者ヲシテ全ク筆ヲ執ルヲ耻ルニ至
 ラシムルヲ猶ホ漢字ヲ用ヒテ文章ヲ作ル時世ノ如クナルヘシ故ニ漢
 字ヲ廢シ常語ヲ以テ文章ト爲スモ世人ヲシテ悉ク皆同様ノ文章家ヲ
 ラシムルヲ能ハサルナリ乍去テ是等ハ文章ノ巧拙ノヨニ就テ云フコ
 ナレハ其ノ利害甚ク大ナル者ニハアラヌ日本ノ常語ヲ其ノ儘ニ文章
 ト爲シ得ヘキヤ否ヤノ一大問題ニ就テハ下ニ述ルカ如キ種々ノ道理
 ナ深ク考フルヲ必要ナリ

人身ニ於テ視感ト聽感トハ全ク別様ノ働キナルヲハ第五章ニ畧説ス
 ヘケレハ今之ヲ細説スルヲ止メ先ツ單ニ判斷スヘキハ同様ノ事柄ヲ
 口ニテ言フト目ニテ讀ムト何レガ速カナルヤノ一事是ナリ則チ大江
 山ノ物語リヲ口ニテスラ、ト話スト其ノ通リニ書キタルヲ目ニテ
 讀ムト孰レガ早キヤヲ知ルヲ是ナリ則チ假名字ニテ談話ヲ其ノ儘ニ
 書キシ書キ(先ツ初メハ假名ノミノ者ヲ可トス漢字雜リノ者ハ比較シ
 難キ理由アルヲ第五章ニ説クカ如シ)口ニテ言フト目ニテ視ルト孰レ
 ガ早キヤヲ判斷ス可キナリ
 世人若シ虚心ニテ之ヲ判斷シナハ口ニテ言フ方ガ目ニテ見ルヨリモ
 早キヲ知り得可シ則チ他人ガ口ニテ言ヒ之ヲ我カ耳ニ聞ク方ハ早ク
 シテ目ヲ用ヒ之ヲ見ル方ハ常ニ遅キヲ見出タスヘシ
 力ノ限り早ク言ヒ早ク見ルキハ双方ニ著ルシキ遲速ナキニ似タリ然

レハ長キ時間ニ骨ヲ折ラスシテ通例ノ有様ヲ用ヒ之ヲ比較スルヲ肝
 要ナリ唯二分カ三分時間ニ之ヲ比較スルトモ夫レハ其ノ時ダケノヲ
 ニテ實際ノ常態ニアラサルヲナレハ眞ノ比較ニハ用ヒ難シ若シ通例
 ノ言フ有様ト見ル有様トヲ比較セハ言フ方ノ早キハ明ラカナリ英國
 杯ニテ通例ニ早ク言フ者ハ一時間ニ六千語ヨリ六千五百語ヲ話シ得
 ルヲナリ日本語ハ前章ニ説キシ如シ聲ノ重ナリ多クハ英語トハ比
 較シ難ケレハ尙ホ言フ方ヲ早シトス此事ハ甚ク知リ難キニ似タレハ
 廣シ其ノ例ヲ求ムルキハ隨分其ノ證多キコトナリ今其ノ一例ヲ舉ク
 レハ極テ達者ニ字ヲ讀ミ得ル人ニアラサレハ通例ハ假名文ノ草双紙
 杯ノ書ヲ讀ムニ時々其ノ聲ノ滯ルヲ免レス是レ他ナシ口ハスラ、
 ト言フモ目ハ同様ニ滯ルヲ能ハスシテ口ハ早ク目ハ後ル、ガ故
 ニ口ノ役目ナル聲ニ滯リテ生スルナリ通例世人ノ聲ヲ立テ、軍書物

語杯ヲ讀ムニ斯ク其ノ聲ヲ長ク引クヲ多シ(例セバ斯ク申シ一ケレ
バノ類ナリ)是則チ目ノ抄ドリハ遅ク口ノ抄ドリハ早ク已ムヲ得ス
シテ目ノ抄ドルマデ聲ヲ長ク引テ口ト目トノ進ミヲ同ロカラシメン
ト勉ムルニ依ルモノナリ通例談話体ノ常語ヲ用ヒタル書籍ニ聲ヲ引
クヲ多キハ此理ニ因ルモノナリ

勿論視ルト言フトノ比較ハ常語ヲ多ク用ヒタル書ニ限ルヲナリ
常語ヲ用ヒザル漢書及ビ漢文体ノ書ハ此例ニ用フ可カラザルノ
理ハ下章ニ明カナリ又常語ノ書トテモ十枚若クハ一冊ノ長サニ
テ口ト目トチ比較ス可シ只一語二語ヲ以テ比較スレハ誤リ多シ
兩者ノ比較ニ極メテ適當ナルハ常語ヲ假名ニテ綴リシモノナリ
(已ムヲ無クシバ支那字ヲ處々ニ用ヒタルモノニテモ宜シ)

又一人ノ口ニテ讀ムト目ニテ見ルトノ右ノ比較甚ダ紛ラハシト思ハ

又試ニ書中ノ辭ヲ少シモ洩ラサズ其ノ儘ニ記憶シ得ル人ヲシテ是ヲ
スラハト我ガ耳ニ言ハシムルト自ラ目ニテ其ノ書ヲ讀ムト孰レカ
早キヤチ試ム可シ十人ノ七八人迄必ス他人ノ語ルヲ聞ク方チ以テ早
シトス可シ

又主人ト客ト口上ニテ一分時間ニ双方ヨリ挨拶ヲ爲スト此辭ヲ其ノ
儘ニ洩ラサズ書キタルチ目ニテ見ルト孰レガ早キヤチ考ヘ見ヨ口上
ノ方チ早シト考フル者必ス多カル可シ

今是ノ理ヲ畧説スレバ總テ辭ヲ吐クニハ自然ノ調子ナルモノアリテ
如何ニ長ク音聲ヲ引テ發音セント欲スルモ決シテ得可カラザルモノ
ナリ故ニ通例一定ノ調子ニテ是ヲ述ベ無暗ニ長ガ引クヲ能ハス例セ
ハコーンチーワーヨーイーテーノキーダーストハ誰レモ長ガ引
ク能ハス通例ノ調子ニテ、サツ、ト短ク音ヒ終ルナリ然ルニ紙上ノ

文字ハ留ツテ去ラサル者ナレハ目ニテ一字ツ、又ハ二三字ツ、之ヲ見ルモ不都合無キナレハ緩ヤト之ヲタドリ行クヲ通例トス尤モ早クタドレハ早ク進ミ得サルコトハアラナドモ若^{シカ}爲レハ眼疲レ氣倦ム故ニ通例ハ緩ニ傾クヲ好ムモノナリ是則チ口ノ方ノ早クシテ目ノ方ノ遅キ所以ナリ

然レハ口ノ調子ハ早キ故ニ耳ニ聞ク語勢ハ少シ長シトモ左マデ不都合ナキナリ然ルコト目ニテ見ルハ遅キ故ニ目ニテ見ル語ハ成ルヘク語勢ノ短キヲ要ス何トナレハ口ハ早ク言ヒ得ルカ故ニ長キ辭ヲモ一氣ニ之ヲ解レ得テ不便アルヲ覺ユサルモ目ニテ見ルニ當テハ長キ語勢ハ中折レテ爲シ一氣ニ之ヲ解スルニ不都合ナレハナリ左レハ目ニテ見ルヘキ書籍ニ用フル言語及ヒ文体ヲ判斷スルニ專ク注意ス可キハ眼感ト聽感トノ區別ニ在リトス實際ニ就テ便不便ヲ判斷シ然ル后ニ

其ノ理ノ在ル所ヲ窮ムルコト必要ナリ今左ノ諸例ヲ考ヘヨ

第一例 ①口ノ爲メニ生シタル常語体

親ノ討死ヲ爲^レテ者ガアルト其ノ子ハ髪ヲ切テ坊主ニ爲テ何處ニカ行^クテ仕舞^フン又主人ガ手統ヲ負^フ者ガアルト其ノ家來^ト達ハ夫ヲ介保^シテ皆チ本國ニ歸^リテ仕舞^フ物ダカラ初メハ八十万騎ダト云フ評判ダツタケレドモ今シヤ一僅ニ十萬騎計リニ爲ツテ仕舞ヒマシタ

第二例 ②目ノ爲メニ存セシ文語体

親討ルレハ子ハ髪ヲ切テ失セ、主統ヲ被レハ郎從^ト助ケテ引キ歸ヘス間初メハ八十万騎ト聞エシカドモ今ハ僅ニ十萬餘騎ニ爲リコケリ(右太平記千早城攻ノ文)

右ノ二例ヲ目ニテ讀マハ大抵十人ノ九人迄ハ②印ノ方ヲ好ムヘシ其ノ語簡單ニシテ心ニ解シ易ク思フナラシ①印ハ漢文体ニアラス土語

入文語ナリ①印ニハ百三十餘聲アルニ②印ニハ僅ニ八十餘聲アルノ
ミニテ其ノ句々トモニ語勢短ク如何ニ緩々ト之ヲ見ルモ一氣ニ心ニ
解シ易キナリ

第二例 ①清盛ヲ見タ様ナ、弱イ奴ノ矢ナラ鎧ノ袖デモ叩キ落シ
テ遣フ

ト義朝ガ嘲罵スルト假定メ今ノ常語ノ儘ニ斯ク書キタルヲ讀ムト左
ノ如キヲ讀ムト孰レカ之ヲ解スルニ都合宜キヤヲ察セヨ

第三例 ②清盛如キノ、ヘロ、ハ、矢、鎧ハ袖ニテ、カナグリ、棄テソ
ト書キシヲ比較セバ十人ノ八九人ハ又必ス③印ノ方ヲ好ム可シ此④

印モ支那文体ニ非ラズ純粹ノ土語ナリ然レハ常語ニ非ラス文學上ノ
語(文語)ナリ

第三例 ①山ヲ幾箇モ越シ越タカラ體が大變ニ疲レテ來タケ

レハ矢張リ休マズニ行キマシタ

②山又山ヲ打越エテ體ハ痛ク疲ルレハ尙モ休ハス進ミ
タリ

此例ニテモ亦③印ヲ好ム者多カラン之レモ亦タ文語ナリ

第四例 ①大和ト河内トヲ通テ歸テ來タ

②大和河内ヲ歷テ歸リシ

此例ニテモ亦③印ヲ好ム者多カラン凡テ諸例トモニ④印ハ皆常語ナ
レハ之ヲ口ニテ言フ時ニハ一氣ニ是ヲ解シ得テ不便ナキカ如キモ之
ヲ文字ニ寫シ目ニテ見ルニ至テハ一氣ニ解スルニ不都合ニテ自然ト
長キニ過ルノ感アルナリ然ルニ文語ナル⑤印ハ之ニ反シ皆其語勢短
キカ故ニ目ニテ見ルニハ一氣ニ之ヲ心ニ運ビ得ルノ便アレハナリ
世人、或ハ文語カ古文書ニ縁アルヲ以テ其ノ心持(アツシエトシヨソ)ヨ

リ一種不思議ニ人ヲ引キ付ルノ力アリト思フ者モアル可シ夫モ多少ノ理ナキニハアラス然レモ重モナル理由ハ文語カ短クシテ意味ニ富ミ句々ノ間ニ中折レナク書中ノ意味ヲ一句ゴトニ一氣ニ其ノ意味ヲ讀者ニ纏メ得セシムルノ便アルニ依ルモノナリ

文語ハ斯ク目ニテ見ルニ便ナレモ亦タ耳ニ聞クニハ不便ナルヲ多シ何トナレハ書籍ノ文字ハ紙上ヨリ消エ去ルヲ無シ然ルニ口ニテ吐キ耳ニテ聞カシムルハ其ノ語カ直ニ消失セルカ故ニ夫ノ短キ文語ヲ早ク口ニテシヤベラレテハ耳ニテ之ヲ聞取ルニ甚ク不便ナレハナリ其ノ證ヲ知ラント欲セハ今、文語ニテ書キシ物語ヲ話サシノ又其ノ事柄ヲ常語ニ改メテ之ヲ話サシメ双方ノ中ニテ何レカ之ヲ耳ニテ聞取ルニ其ノ勞、少キヤヲ比較セヨ十人ノ九人マテハ必ス常語ニテ話ス方ヲ便利ナリト思フ可シ是レ則チ文語ハ短クシテ耳ニ聞キ落シ易ク油斷

スレハ速ニ消エ失セ易キノ勢アレハナリ

斯ク文語ノ常語ヨリ短クシテ耳ニ不便ナルハ則チ目ニ便ナル所以ニテ常語ノ目ニ不便ナルハ則チ耳ニ便ナル所以ナリ目ニ見ルト耳ニ聞クトハ元ト大ニ差別アル人身ノ働キナルヲ知ル可シ

凡テ常語ナル者ハ時世ヲ經ルニ從ヒ漸々ニ種々ト變化シ來ルニ當リ其ノ一タヒ書中ニ入リシ者ハ其ノ儘ニ留リ存シ文語トシテ後世ニ遺リ傳ハルコトニテ今日ノ文語モ其ノ昔ハ常語ナリシヲ察ス可キナリ口ニテ言フト目ニテ見ルトハ長短ノ差アルカ故ニ耳ノ世界ニハ長キ常語ノミニテ不便ナキモ目ノ世界ニハ不便アリ是ノ不便アル場合ニハ則チ文語(昔シノ常語)ノ中ヨリ然ルヘキ者ヲ用ヒテ便利ヲ爲ス譯ナリ

凡テ世ノ中ニハ夫々ノ道具アリテ或ル場合ニハ甲ノ道具ヲ必要トスルモ他ノ場合ニハ乙ノ道具ノ必要ナルコトアリ又常ニ用ヒラル、者モ

アリ稀ニ用ヒラル、者モアリ若シ稀ニ用フル者ナレハトテ其ノ道具
 ナ廢シ棄テナハ其ノ入用ナル場合ニ臨テ大ナル迷惑ヲ生ス可シ故ニ
 平常ハ稀ニ用フル道具ナリトモ或ル場合ノ爲メニハ大切ニ之ヲ倉庫
 ノ中ニ藏シ置キ珍重スルコソ肝要ナレ文語ノ如キモ日常ニ用フル
 稀ナレハトテ之ヲ打棄テ目ノ世界ニ用フルニ耳ノ世界ノ常語ノミヲ
 用ヒント欲セハ人類進歩ノ理ニ反スル者ナリ進歩セサル蠻民ハ唯小
 刀タチ一挺ヲ用ヒテ如何ナル細工ヲモ爲セドモ開化セル邦々ニテハ「錐」ポ「泡」
 「鋸」ノ「鑿」ノ「小刀」ノ諸種ヲ用フルニアラスヤ然ルヲ稀ニ用フレハトテ斯ル種
 ヲノ道具ヲ廢シ最モ多ク用フル小刀ノミノ世界ト爲サント欲セハ是
 レ世事ヲシテ野蠻未開ノ有様ニ却步セシムル者ナリ左レハ文語ノ如
 キモ今日ニ遺傳セシコソ仕合セナレ我々ハ其ノ必要ナル場合ニハ倉
 庫ノ中ヨリ取り出シテ之ヲ用フルニ何ノ遠慮カアル可キ

若シ文語傳ハラスシテ常語ノミノ世ノ中ナランニハ我々ハ其ノ不便
 ナ補ハン爲メ必ス苦ンテ又何等カノ短語ヲ作ラント勉ムルナル可キ
 ニ幸コシテ已ニ文語ノ在ル有レハ斯ル骨折モ無ク之ヲ用フルハ仕合
 セトコソ云フ可ケレ然ルニ深クモ考ヘスシテ文語ヲ廢シナハ又新シ
 キ文語様ノ者ヲ造リ出サ、ルヲ得サル可シ何ハ兎ニ角、小刀ノミソ世
 ナランニハ不便ナカラモ夫ニテ満足ス可キモ已ニ「錐」ノ出來タル世ニ
 ハ最早ヤ小刀ノミヲ用フルヲ得ス、若シ常語ノミノ世ナランニハ不便
 ナ忍ヒテモ之ヲ目ノ世界ニ用ヒ得キモ已ニ文語アル世ト爲リテハ
 最早ヤ常語ノミヲ用フル能ハサルハ則チ自然ノ道理ナリ彼ノ春水ト
 カ一九十カ云ヘル日本ノ小説家等カ漢文体杯ニハ少シモカマハス其
 ノ書ヲ著スニ專ラ常語ノミヲ用ヒタルモ其ノ記事ニ至テハ忽チ文語
 ニ變シ〇〇シタリ〇〇セシニ〇〇セサリシニ等ノ文語ヲ用ヒシヲ見

テモ之ヲ知ル可シ
 希臘羅馬ノ昔時ヨリ歐洲諸國ハ皆假名ヲ用ヒテ文章ヲ作ルハ世人ノ知ル所ナリ然ルニ日常ノ談話ト文章トハ幾分カ其ノ趣ヲ異ニシ文章ニハ日常用フルノ甚タ稀レナル語ヲ多ク用ヒ又平日ノ談話体ニ比較スレハ嚴格ニテ角ド立ナタル体裁ヲ多ク用フルヲナリ故ニ時トシテ書上ノ文体及ヒ文語ヲ談話ニ用フレハ聞ク者ニ笑ハル、杯ノヲモ之レナキニアラス然ル所以ノ者ハ此章ノ初メヨリ論シ來リシカ如ク常語ヲ其ノ儘ニ文章ト爲スモ文章ハ目ノ世界ノ者ナルカ故ニ其ノ口調自ラ耳ノ世界ノ常語ト相ヒ異ナルヲ要スルノ場合アレハナリ而テ歐洲ノ文章家ト稱セラル、大家ハ是ノ加減ヲ心ニ會得シ人ヲ倦マシメヌ様ニ文語ヲ用ヒテ作り出シ人ヲ服セシムルヲナリ歐洲ニテ文學者文章家ノ後世ニマデ大ニ尊重セラル、ハ則チ是ヲ以テナリ否ラサ

レハ歐洲ニハ文章ヲ以テ尊重セラル、人々何故ニ今日ノ如ク多カルヘキヤ

英國杯ノ政治家論士ノ演説ハ何レト云ハ、皆文語体ヲ用フル者ニテ談話ノ常体ニ比較スレハ演説ノ方甚タ嚴格ニテ其ノ組立及ヒ語勢ノ談話ニ同シカラサルハ則チ此理ニ因ル者ナリ然レハ英國ノ如キモ亦タ文語ト常語ト文体ト常体トノ區別アルヲ免レス是レ自然ニ目ノ世界ト耳ノ世界トニ生スルノ差異ナレハナリ

乍去ラ日本ノ文語文体ノ常語常体ニ於ケルハ英國ノ文語文体カ其ノ常語常体ニ對スルヨリモ甚タ隔リタル一種ノ有様アリテ日本ニテハ尙ホ更ニ文語文体カ目ノ世界ニ必要トナルニ至リシヲ左ノ如シ
 我邦ノ常語ハ英國杯ノ常語ヨリモ文章ニ入り難キ一種ノ妨碍アルハ其ノ常ニ貴賤尊卑ノ等級ヲ各句ノ語尾ニ付スルコト是ナリ左例ノ如

○上等ニ對シテハ ○同等ニ對シテハ ○下等ニ對シテハ
 第一 致^{イダ}シマシタカラ 爲^シマシタカラ 爲^シタカラ
 第二 爲^{ナリ}マシタカ 爲^シマシタカ 爲^シタノカ
 第三 左^ソ様シテ見マスレハ 左^ソ様シテ見レハ 左^ソ様シテ見ロ
 右ノ類ノ如ク如何ナル語ニモ斯ク等級アル尊卑ノ語ヲ用ヒ尊者ニ對シテハ「致シマシタカラ」ト言ヒ同等ノ者ニハ「爲マシタカラ」ト言ヒ卑キ者ニハ「爲タカラ」ト言フ然レハ常語ヲ以テ文章ト爲スニ至リ甲ヲ用フレバ尊フニ過クルガ如ク左レハトテ乙ヲ用フレハ親ムニ過クルガ如ク左レハトテ丙ヲ用フレハ卑ムニ過キテ讀者ニ失禮ナルガ如キ感ヲ生ス是モ亦タ日本人ガ常語ヲ以テ文章ト爲スニ不都合ニ感スルノ一理ナリ然ルニ文語ハ之ニ反シテ其ノ辭ニ等級ナキヲ左ノ如シ

第一、爲セシガ故ニ (前ノ例ノ第一ト同シ意味)

第二、爲セシカ (同第二同)

第三、然ランニハ (同第三同)

常語ナレバ尊卑ニ依テ三種或ハ二種ノ等級ヲ用フルニ文語ナレハ右ノ如ク只一級ニテ尊卑貴賤如何ナル人ニモ通用シテ差支ヘアルコトナシ故ニ文語ハ無等級ニテ最モ便利ナルモノト云フヘシ又勉テ常語ヲ文語ニ雜フルノ場合ニテモ文語ニハ簡易ナル等級ノ語アリ例セバ「○シ玉ヒシカ」○シ侍ベリシノ類ノ如シ是等ハ等級ノ語ナガラモ前ニ掲ケタル常語ニ比スレバ短クシテ便利ナリ斯ク常語ニハ尊卑ノ等級多キニ文語ニハ是ナキハ則チ日本ノ常語ノ其ノ儘文章ト爲ルニ不都合ナル一ノ理由ナリ
 今支那ノ古文及ビ歐洲諸國ノ余ノ知ル所ノ國語ヲ閱ミスルニ我邦ノ

如ク種々ノ尊卑ノ等級ヲ付スルモノ少ナシ故ニ他國ニテハ國王ガ賤民ニ語ル語体モ賤民ガ國王ニ答フル語体モ皆同様ニテ其尊卑ヲ表スルニハ只話ノ前或ハ其間ニ時々「陛下」「閣下」「殿下」「名譽アル紳士足下等」ノ尊稱ヲ用フル迄ニテ助働詞杯ノ首或ハ尾ニ等級ヲ付スルニアラサルナリ

左レハ歐洲諸國ノ常語ハ我カ常語ニ比スレバ文章ニ入り易キヲ實ニ甚シク常語ヲ其儘ニ文章ト爲シテ一ノ不都合無キガ如クニ思ハル、ナリ然ルモ猶ホ且ツ文語ハ其ノ常語ニ異ナルヲ免レス、テ英國ノ如キモ常語ト文章トノ間ニ若干ノ區別アリ

今英文ヲ解シ得ル人ノ爲メニ常語体ト文体トノ短キ一例ヲ左ニ掲ク可シ

① 英ノ文語体

The reign of the eighth Henry was a strange are in the history of the Book, evidencing, perhaps above all other modern days the everlasting life of Truth. If the Bible were not immortal, it would surely have perished then.

② 英ノ常語体

Henry VIII'S reign was a strange time in the Bible's History, proving there-by the immortality of the Truth. If the Bible were not to last forever then it purely would have been put on end to.

右ノ常語体ハ羅匈書ヲ讀ミ得ル程ノ通例ノ教育ヲ受ケタル英人ナシテ常語体ニ改メシメタル者ナリ

右ノ①印ハ英國ノ有名ナル文章家ノ文ニテ②印ハ平日ノ常語体ナリ而テ斯ク兩者ノ間ニ辭ノ順序ノ異ナルノミナラス一方ニ用ヒテ一方ニ用ヒサルノ語アルハ何故ソヤ是レ他ナシ目ノ世界ト耳ノ世界トハ

多少ノ區別アリテ文語ト常語ト夫々ノ長所短所アルガ故ナリ凡テ文章ニハ平日多ク用ヒサルモ或ル場合ニ精密ニ適當スルノ語ヲ用ヒ以テ無駄ナル常語ヲ省キ語勢ヲ短クスルコトナリ之ヲ譬フレハ恰モ猶ホ稀ニ用フルノ錐ヲモ其ノ適當スル場合ニハ之ヲ用ヒテ常用ノ小刀ニ代フルガ如キナリ又之ニ反シテ談話ニハ少シク餘計ノ説明ヲ爲シ其ノ辭ヲ長ク爲スモ口ニテハ早ク之ヲ言フ故ニ不都合少ナキヲ以テ平日慣用スル常語ニテ之ヲ説キ明スコトナリ則チ小刀ノミヲ用ヒテ錐ヲ省ク者ト云フヘシ又其ノ辭ノ順序ノ同シカラサルモ同様ノ理ニテ目ニテ見ルト口ニテ言フトノ遲速ヨリ生スルコト前ニ述ヘタルガ如キナリ世人若シ此理ヲ知ラバ歐洲ノ都會ニテ書林ノ店先ニハ何故ニ文章ノ巧ナルカ爲メニ珍重セラル、書夥シク列ベアリテ購客モ亦タ夥シキヤノ仔細ヲ知り得可キナリ歐洲ノ如ク常語ニ尊卑ノ等級ナキ國柄

ニ於テサヘ斯ク文章ノ常語ニ異ナルヲ考ヘテハ夫ノ尊卑ノ等級多キ我邦ノ常語ガ其ノ儘ニ文章ト爲リ難キノ理ヲ知ルコト甚ク容易ナル可シ

又我邦ノ文語ノ中ニハ今日ノ常語ヨリ甚ク隔リタル一種ノモノアリ是ヲ他ノ文語ヨリ區別スルコト甚ク難ケレト今假ニ最簡文語ト名ク可シ此最簡文語ト最簡文体トハ其ノ昔シ常語ヲ少シク變シテ用ヒタルモノト見ユ日本ノ古學士ガ初メテ漢文ヲ譯讀スルニ當リ之ヲ始メタルナルヘシ例セハ善ヲ爲サシヨリ惡ヲ爲サザレ「ヨリ」ト「ザレ」トノ如キ又「坐ロ」ニ「轉タ」「愁」ニ「等」ノ如キ是ナリ是等ノ語ハ多分其ノ時代ノ常語ノ中ニ幾分カ其ノ形チアリシニ少々ノ變化ヲ加ヘ古學士等ガ漢文ノ譯讀ニ是ヲ適用シタルモノニ相違ナカル可シ其ノ狀ハ恰モ猶ホ今日ノ洋學生ガ洋語ヲ譯スルニ當リ少シク常語ヲ變シテ之ヲ譯語ニ適

用シタルト同様ナル可シ例セハ「證據立ル」ト云フ働詞ハ日本ノ常語ニ之レ無カリシニ「證據」ト立ルト云フ二語ヲ集メテ「證據立ル」ト言フ一ノ新語ヲ造リ出セシノ類ナリ（「ブループ」ナル英語ニ對シテハ「證據立ル」ト云フヨリ外ニ適當ノ常語ナケレバナリ）

我々ノ祖先ガ漢書ヲ譯スルニ當テハ斯ク其ノ常語ニ多少變化ヲ加ヘタリシト雖モ尙ホ國人ニ解シ得ラル、様ニ常語ヲ以テ漢文ヲ譯讀スルヲ得タリシナリ故ニ今日マデ傳ハリシ四書五經杯ノ讀ミ方ハ殆ト皆ナ其ノ時ノ常語ナリシナリ故ニ今日ニテハ文語ト爲リテ用テ爲スモ其ノ實ハ本ト常語ヨリ生シタル純粹ノ日本語ナリ又日本ノ語法ナリ夫ノ支那文字カ非常ナル大勢力ヲ振ヒシニモ拘ハラズ日本ノ語法ハ文學上ニ於テスラ其ノ滅亡ヲ免レテ遂ニ後世ニ傳ハリタリ而テ我カ文化ノ次第ニ進ムニ隨ヒ一二百年前ヨリ漢文体ト並立スルノ萌

芽ヲサヘ發生シ近來二三十年ニ至テハ遂ニ漢文ヲ壓倒スルノ勢トナレリ世人カ顛倒法ヲ用ヒテ支那書ヲ讀ムハ則チ日本ノ語法ナリ例セハ「不敢當」ヲ「敢テ當ラズ」ト讀ムハ則チ眞ノ日本ノ語法ナリ何トナレハ支那ノ語法ナレハ始メニ不ヲ云ヒ次ニ敢ヲ云ヒ其ノ次ニ當ヲ云フヨナリ然ルニ始メニ敢ヲ云ヒ次ニ當ヲ云ヒ次ニ不ヲ云フハ則チ日本ノ語法ナレハナリ若シ徂徠氏杯ノ時世ニ一タビ勢ヲ得タル讀法ノ如ク之ヲ音ニテ捧讀ミニ爲シ「フ、カン、タウ」ト讀ムハ則チ日本ノ語法ニ非サルナリ世人ノ知ル如ク和漢ノ語法ノ大イニ異ナル所ナルハ言語ノ順序ニ在リ我カ語法ニテハ第一ニ敢第二ニ當第三ニ不ヲ言フ可キニ支那ノ語法ナレハ第一ニ不第二ニ敢第三ニ當トナル然ルニ「敢當不」ト云フ順序ニ我々ノ支那書ヲ讀ミ來リシハ則チ漢文ノ訓讀ハ純粹ノ日本ノ語法ナリシ確証ナリ又用テ節シテ人ヲ愛シ「セツ」ヨウ「アホ」等

ナ支那音ニテ讀ムコナレモ其ノ語法ニ至テハ毫モ古ヨリ語格ヲ變スルコト能ハサルコトナリ
 又前ヨリ論セシ理由ノ外ニ文章ト談話ト相ヒ異ナル一種ノ有様アリ
 彼ノ善ク人情ヲ穿ツト後世迄モ評セラル、セイキスビヤカ働キハ
 言語ヨリ明カニ物語ルト言ヒシ如ク言語ハ常ニ態度ノ助ケヲ假リ又
 音聲ノ高低緩急ノ助ケヲ假リテ人ヲ動カスコト多キニ文章ニテハ此等
 ノ助ケナシ例セハ私ハ大變ニ面白ク思ヒマシタト云フトキニ大變ノ
 一語ニ力ヲ入レ調子高ク云ヘハ實ニ甚ク面白キ様ニ聞コエ又之ニ力
 ナ入レズシテ通例ニスラ、ト云ヘハ唯尋常ノ面白サト爲ルコトナ
 リ斯ク其ノ語ニハ増減ナキモ唯其ノ人ノ態度ト語勢トヲ以テ兩者ニ
 幾分ノ差ヲ生ス然ルニ文章ニテハ態度語勢ノ助ケ無キ故ニ文字ヲ增
 減シテ之ヲ形容セサルコトナリ例ヘハ一方ノ大變ト力ヲ入ルノ場

合ニハ余ハ非常ニ面白ク感シタリト書シ力ヲ入レサル場合ニハ余ハ
 面白ク感シタリトノミ書シテ兩者ノ區別ヲ爲スノ類ナリ此等ノ區別
 ノ書法ハ夥シキコトニテ談話ト文章トノ區別ニ注意セハ之ヲ見出タ
 スコト甚ク易シ實ニ言語ガ態度ト音聲ノ高低緩急ノ助ケヲ借ルハ爭
 フ可ラサルノ實事ナルニ文章ハ之ニ反シテ曾テ兩者ノ助ケヲ受ルコ
 能ハズ斯ク兩者ノ助ケ無キニ讀者ヲシテ倦マシメズ其ノ意味ヲ面白
 ク分明ニ感セシメサルヲ得サルノ有様アルヲ考ヘナハ文章ハ少シク
 其ノ体ヲ常語ト異ニセルノ理モ亦甚ク明カナルヘシ
 世ノ中ニハ文章ヲ唯飾リ道具ト思フ者アレモ夫ハ大ナル誤リニテ文
 章ナル者ハ本ト必要ノ道具ナリ則チ知識ヲ衆人ニ傳ルニ當リ讀者ヲ
 シテ其ノ心ヲ勞スルコト甚ク知ル可キ事柄ヲ早ク容易ニ吞込マシムル
 ノ藝術ナリ然レハ詩歌歴史傳記等ノ如キ文學世界ノ書ニ必要ナルノ

ミナラス窮理書、化學書、生理書等ノ如キ理學世界ノ書物ニモ甚ク必要ナル者ナリ何トナレハ文學ノ書ハ其ノ事柄ノ元來面白キカ故ニ文章ニ少々ノ巧拙アリトモ左迄讀者ヲ勞セシムルコト甚キモノナリ然ルモ理學ノ書物ハ少シモ飾リ無キ事柄ヲ述ルコトナレハ讀者ヲ退屈セシメサル様ニ之ヲ説明スルハ實ニ甚ク難キナリ偶々我國ニテ理學ノ譯書杯ヲ讀ムニ當リ今少シ何トカ文章ヲ善ク書キテハ讀者ノ心ヲ倦マシムルコト斯程ニハ至ラサルヘシト思ヒシコトモ無キニアラズ凡テ知識ヲ廣ク世ニ擴ムルノ手段ハ書物ニ勝レルモノ無キハ人ノ知ル所ナリ然ルニ其ノ文章ノ拙キカ爲メニ讀者ヲシテ之ヲ解スルニ大ナル骨折ヲ爲サシムル様ニテハ折角其ノ書ヲ著シタル甲斐モナク其ノ人ノ本意ニモ悖ル譯ナリ抑モ文章ヲ巧ニ書クハ讀者ヲ倦マシメスシテ容易ク事柄ヲ解得セシムルノ術ニテ之ヲ云ヒ換フレハ事柄ヲ解スルニ心ノ

勞ヲ省カシムルノ經濟法ナリ今ヤ足ノ勞ヲ省クカ爲メハ船、車、汽車、汽船アリ目ノ勞ヲ省クカ爲メハ眼鏡或ハ顯微鏡杯アリテ皆、人身ニ經濟法ヲ與ルニ人ノ心ニ知識ヲ運ヒ入ル、書籍ニノミ獨リ經濟法ヲ用ヒスシテ可ナルノ理アラシヤ能ク之ヲ思ハ、文章ノ必要ナル道具ナルコト多言ヲ俟スシテ明カナリ又文章ハ人ノ勞ヲ省ク經濟法タルノミニ止マラスシテ一種ノ遊具ト爲リ音樂、畫圖杯ノ如ク人ヲ樂マシムル場合アリ傳記、漫筆、小説ノ類是ナリ若シ人類ニ目、耳ヲ樂マシムル音樂、畫圖ノ慰ミノ要用ナルヲ知ラハ心ノ世界ノ慰ミタル文章ノ亦タ甚ク必要ナルヲ知ルベシ今某甲ノ文章ニテハ面白クモ可笑クモ無キ事柄カ乙某ノ文章ニ入レバ忽チ人ヲシテ絶倒セシムルコト是等ハ則チ文章ノ力ト云フ者ニテ此等ノ文章ノ世ニ益アルハ余ノ論ヲ俟タズルナリ

此章ノ初メヨリ論セシ如ク目ニテ讀ム書物ノ世界ニ於テハ常語ヨリ
 モ文語ヲ以テ便トシ其ノ組立モ亦々常語体ヨリ文語体ヲ便ナリトス
 然ルニ世事ハ得失損益相ヒ伴フヲ免レサル者ニテ兩者ニ各々得失ア
 リ文語ハ目ノ世界ニ便ナルモ日常之ヲ用フルヲ稀ナルカ故ニ其ノ初
 メ少シク之ヲ學フノ勞ヲ爲サ、ル可ラス已ニ一タヒ之ヲ學ヒシ後ハ
 其ノ便ナルヲ常語ノ企テ及フ所ニアラス然ルニ常語ハ之ニ反シ日常
 用フル所ノ語多ケレハ之ヲ學フノ勞ナキニ似タレハ之ヲ用フレハ其
 ノ書ヲ讀ムゴトニ常ニ不便ヲ感スルヲ免レス故ニ今茲ニ判斷ス可キ
 ハ兩者ノ得失損益何レカ大ナルヤノ一事ナリ
 平日ノ談話ヲ假名ニテ書キ其ノ儘之ヲ文章ト爲サハ何ニモ別ニ之ヲ
 學フニ及ハスシテ甚々都合ヨキカ如シ然レハ實際ハ決シテ左様ナル
 者ニアラサルナリ今試ニ日本ノ兩端ナル薩摩或ハ津輕ノ兒童ヲシテ

(書物ヲ讀ミシヲナキ大人ニテモ宜シ)其ノ談話ヲ書キ之ヲ文章ト爲サ
 シメヨ實ニ不思議ナル言語多クシテ幾ント之ヲ解シ兼スルコ多カラ
 ノ右ハ薩摩津輕ノミニ限ラス大抵ノ地方ハ皆ナ同様ナルヘシ長崎、名
 古屋、大坂ノ如キ都會ノ人ニテモ同様ナルヘシ何トナレハ平日談話ノ
 正語ヲ用フルコハ甚々少ナクシテ(教育アル人ニテモ袴、羽織ヲ着ケ新
 ラシキ扇子ヲ持テ正シク坐シテ嚴格ニ他人ト挨拶ヲ爲ス時ノ正語
 ナ用ヒ平日ハ大抵畧語ヲ用フルコナリ)畧語ヲ用ヒルコ故ニ正語ヲ知
 ラサル者多シ之ヲ知ルハ之ヲ學フカ或ハ自然ト之ヲ聞キ覺ユルカニ
 因ル者ナリ然レハ通例ハ正語ヲ知ラスト云フモ可ナリ是ノ一事ハ決
 シテ日本ノミ然ルニアラス歐洲諸國トモニ皆同様ニテ小學校ノ課業
 中ニハ何レノ國ニテモ讀本ト云フモノアルハ則チ是ガ爲メナリ讀本
 ナ讀マシメテ正語ヲ知ラシメ又談話ノ正体ヲ知ラシムルコナリ談話

ノ正語ト正体トハ全國與ニ一体ナルカ故ニ之ヲ知リ之ヲ用ヒテ文章ヲ書クハ何人ニモ通シ易ク又之ヲ知レハ何レノ書物ヲモ解シ得レハナリ假名文ノ國ニ文法書ト讀本ノ必要ナルハ則チ之カ爲メノミ若シ正語正体ヲ學ハシメヌシテ談話ノ儘チ文章ト爲サハ地方々々ノ零語ヲ用フルモノ多クナリ一國ノ中ニテモ甲乙ノ地方ノ書ヲ解スルニ大ナル難澁ヲ生スヘシ然レハ談話ノ儘チ文章ト爲ストモ尙ホ學校ニ於テ談話ノ正語正体ヲ學ハシムルノ手數ヲ省クヲ能ハス然レハ日本コテ兒童ニ正語ヲ學ハシムル代リニ文語ヲ學ハシムルトモ其ノ手數ニ大ナル差異ヲカルヘシ何トナレハ日本ノ文語及ヒ文語体ハ今日コソ常語ト多少ノ隔タリアレヒ元ト一トヒ常語ナリシ者ナレハ之ヲ學フニ格別ノ骨折ナシ其ノ証ハ教育ニ乏シキ婦人子供等カ誰レニ習フトモ無ク小説軍書類ヲ容易ク讀ミ得ルヲ以テ之ヲ知ル可シ是等ノ書ハ

其ノ記事ニ於テハ總テ文語ヲ用フル者ナルコ尙ホ且ツ容易ニ之ヲ讀ミ得ルハ何シヤ是則チ文語文語体ノ學ヒ易キ確証ナリ文語文語体ヲ學ヒ得ルハ斯ク僅々ノ骨折リ僅々ノ時間ニテ其ノ便利ヲ受ルハ一生涯ノ永キ歲月ナリ之ヲ譬フレハ恰モ猶ホ鐵道電信ヲ造ルカ如シ其ノ初メ之ヲ造リ幾千百里ノ長程ニ一々鐵線ト信線トヲ造リ架スルハ實ニ容易ナラサル骨折ナレヒ其ノ成就スルニ及テ之ヲ用フルノ便利ハ幾十年モ永續大可シ左レハコソ世人皆之ヲ撰ムニ非スヤ然ルニ常語ハ之ニ反シ其ノ初メハ之ヲ學フノ骨折リ無キモ一生涯ノ永キ歲月中ニ書ヲ讀ムゴトニ幾ント絶エヌ其ノ不便ヲ感セサルヲ得テ世人若ク是ノ理ヲ察セハ兩者ノ得失長短ヲ知ルヲ甚ク明カナル可シ但シ右ノ比較ニ用フル文語ハ最モ常語ニ近キ文語及ヒ最モ普通ニ今日用ヒラル、最簡文語ヲ指ス者ナリ(最簡文語ノコト尙ホ後章ニ詳論スヘシ)

借卷首ノ第一章ヨリ此章迄ニ論スルノ大意ハ左ノ如キニ外ナラス

第一、支那ヨリ入り來リシ短聲急聲ヲ今日談話ニ用ヒ居ルカ如ク文章ニモ亦タ之ヲ雜ヘサル可ラス

第二、目ニテ讀ム書物ノ世界ニハ常語ヲノミ用フルハ不便甚シ文語、文語体ヲ用ヒサル可ラス

乍去ラ假名字ヲ悅フ人々モ大抵ハ支那音ヲモ用ヒ又文語体ヲモ用ヒテ文章ヲ作り唯、是ヲ書クニ假名ヲ以テス可シト云フナル可シ左レハ是處マテハ大抵ノ人々ハ余ト意見ヲ同クスル者ト想像セリ然ラハ今ハ文字ノミノ論ナリ則チ常語文語ヲ雜ヘテ作り出タセル文章ヲ書クニハ如何ナル文字ヲ用ヒハ最モ便益多カル可キヤノ一論題ナリ次章以下ハ則チ專ラ文字論ニ移ルヘシ

第三章ノ日本ニ用フ可キ文字及ビ文体ノ事

假名ノミヲ用ヒシ文章ト漢字ヲ雜ヘ用ヒシ文章ト何レカ目ニ見易キヤト問ハ、文字ヲ知ル人ナランニハ十人ノ九人マデハ漢字ヲ雜ヘタル方ヲ見易シト答フ可シ乍去ラ又何レカ學ヒ易キヤト問ハ、假名ノ數ハ僅ニ四十餘字ニテ漢字ノ數ハ幾ント四五万以上ナレハ無論假名ノ方ヲ以テ學ヒ易シト答フルハ明カナリ左スレハ學ヒ難キ漢字ヲ棄テ、之ヲ全廢シ假名文ノミヲ用ヒント云フハ其ノ便利大ナルカ故ニ此論一タヒ出テナバ世間ハ忽チ其ノ方ニ傾キ直ニ漢字ヲ廢スルナラソト思ハル、ニ能ク、實際ヲ察スレバ左ハ無クテ世人常ニ假名文ヲ不便ノ如ク思ヒ成ルヘシ之ヲ避ケント勉ムルノ有様アルハ何故ソ

ヤ斯ク實際ト理窟ト大ニ反對スルカ如ク見ユレヒ必竟ハ理窟ヲシタ
 見ユル論ニ尙ホ理窟ノ足ラザル所アリテ理窟ナキガ如ク見ユル實際
 ノ方ニ大ナル理窟アルガ故ナリ
 今、日本ノ文体ヲ考フルニ古代ヨリ種々ノ沿革ヲ歷來リシ者ニテ今日
 ニ至ルマデ世間ニ顯ハレ出デタル文体ニ大凡ソ五種ノ區別アリ則チ
 其ノ第一ハ漢文体、第三ハ漢文變體、第三ハ雜文体、第四ハ兩文体、第五ハ
 假名體ナリ(是等ノ名稱ハ五種ヲ區別スルカ爲メ假リニ斯ク名ケタル
 者ナリ)
 第一ノ漢文体トハ則チ純粹ノ漢文ヲ其儘ニ用ヒタルモノニテ漢文ノ
 始メテ我邦ニ入りシ應神帝ノ時ヨリ以後玉政八百年ノ間ニ專ラ行ハ
 レタルモノニテ夫ノ古事記日本記ヲ始メ六國史ト唱フル書ノ如キハ
 皆此類ナリ史書ノミニ限ラス總テ此時代ノ文書ハ多ク此體ナリシト

見エ天平寶字前後ノ官書類ノ今日奈良ノ寺院杯ニ遺存スルモノヲ以
 テ之ヲ証スルニ足レリ今其ノ例ヲ左ニ掲ク

漢文体 皇帝二等以上親及外祖父母、右大臣以上、若散一位喪、皇帝
 不視事、三日(右ハ延喜ノ頃ノ儀制令ノ文ナリ)

又王政衰へ文化ノ却歩スルニ從テ干戈ノミノ時世ト爲リ世人ノ漢文
 體ヲ作り得サル者多キヨリ遂ニ又漢文變體ナル一種ノ者ヲ世間ニ生
 スルニ至レリ此文体モ隨分長ク我邦ニ行ハレタルモノニテ此體モ漢
 文体ノ如ク轉倒シテ文字ヲ上ニ讀ミ登リ又下ニ讀ミ下リ往キツ返リ
 ツスル有様ハ漢文ニ似タレヒ其ノ異ナル所ハ文字ヲ用フル場合ト文
 字ノ意味ト總テ俗ニ從ヒ大ニ漢文ニ異ナルモノヲ用ヒタルコト是ナ
 リ彼ノ職原抄杯ハ此文体ノ時代ノモノニテ東鑑ノ如キハ此時代ノ初
 メノモノナリ又元龜、天正ヨリ徳川氏覇政ノ末マデハ凡テ此文体ノ時

代ニ屬スルモノナリ此時世ノ始メニ出デタル者ト終リニ出デタル者トチ比較スレバ少シク異ナルニ似タレモ其ノ實ハ皆ナ同一ノ族類ニシテ往キツ戻リツ顛倒讀ミチ爲ス様ニ書キタル者ナリ故ニ之ヲ漢文變体ト名ケテ可ナルモノナリ其ノ例左ノ如シ

漢文變体 恒例之祭祀不陵夷如在之禮奠莫令怠慢因茲於關東御

分國々並莊園者地頭神主等各各存其趣可致精誠也(右

ハ北條泰時ノ頃ノ御成敗式目ノ文ナリ)

前ノ二体ノ如ク一行ノ文章ヲ讀ムニ幾度モくく往キツ戻リツ顛倒讀ミチ爲スハ實ニ無益ノ骨折ニシテ我カ語法ヲ以テ讀マシメナカラ支那ノ語法ヲ以テ書クノ不都合ナルヨリ知ラスくく遂ニ雜文体ナルモノヲ生スルニ至レリ此文体ノ時代ハ猶ホ甚ク短キモノニテ幕府ノ末年ト維新ノ初メトニ始マリ今日マデ行ハル、所ノモノナリ此文

体ハ前ノ二体チ一變シ顛倒讀ミノ勢チ省キ口ニテ讀ム語法ノ順序チ其ノ儘ニ書キ下タシ其ノ間處々ニ假名チ夾ヨタルモノナリ此文体ノ世ニ生セシハ日本ノ文運ノ一大進歩ニシテ國人ニ知識チ廣ムルノ便利ハ此時ヨリ幾十倍ニ増加シタリト云フモ可ナリ(余ガ前述スル如ク諸文体ノ時世チ定ムルハ其ノ公書ニ用ヒラレテ公クニ世上ニ通用スルノ時日ニ據テ區域チ立テタルモノナリ)雜文体ノ公書ニ用ヒラル、ニ至リシハ甚ク近クシテ二十餘年ノヲナレモ其ノ發達チ尋ヌレハ已ニ早ク其ノ萌芽チ六七百年ノ前ニ生シタル者ニテ彼ノ平家物語、太平記ノ如キハ已ニ此体チ爲セシモノナリシナリ然レモ世ノ亂ト共ニ此文体モ一時ハ其ノ跡チ絶チシカ如ク見エシモ徳川氏ノ盛時ニ文運ノ再ヒ盛ナルニ及テヤ又此文体カ大ナル勢力チ顯ハスニ至レリ彼ノ新井白石、伊東東涯、太宰舜臺、具原益軒等ノ諸先輩ノ著書ハ多ク此体ナリ

キ是等ノ人々ハ正格ノ漢文ヲ作り得ヘキ充分ノ學力ヲ有シ乍ラ猶ホ
 多ク此文体ヲ用ヒタルハ其ノ知ル所ノ事柄ヲ廣ク衆人ニ傳ヘント心
 掛ケタルモノニテ其ノ志ノ在ル所甚ク高ク徒ラニ六テ數キ文章ヲ作
 テ之ヲ世人ニ誇ラント欲スルガ如キ小丈夫ニ非サルヲ知ルコ足レリ
 凡テ此頃ノ書籍ニ先輩諸氏ガ皆テ此体ヲ用ヒタリシハ則チ後世ノ爲
 メニ大ナル地步ヲ造リ置キシモノト云フ可シ斯ク先輩カ是ノ地步ヲ
 作りシ後チ幕府ノ末年洋書ヲ譯スルコノ甚ク盛ナルニ從ヒ譯書ニハ
 便利ノ爲メニ遂ニ此体ヲ用フルニ至リ譯者及ヒ譯書ヲ讀ム人々及ヒ
 漢書ヲ讀ミ國事ニ盡力セシ人々ノ志ヲ維新ノ政府ニ得ルニ當リ此体
 ノ漢文ニ近ク且ツ甚ク便利ナルガ爲メニヤ此体ハ遂ニ用ヒラレテ公
 書ノ体ト爲ルニ至リ遂ニ此文体ノ時世ヲ生シタルナリ
 是ノ体又前三体ニ勝レルハ世人ノ熟知スル所ニテ余ノ論ヲ俟テザル

可シ今其人例左ニ掲ク

日 雜文体ノ字都宮公綱千餘人ヲ以テ來リ援ヒ急ニ攻テ柵ヲ拔キ城
 趾ヲ鑿ル正成機ニ應シテ之ヲ拒ク敵竟ニ拔クヲ能ハサ
 紀清兩黨千餘騎寄手ニ加ハリテ未ク氣ヲ屈セサル荒手
 カス十餘日マテ責メタリケル此時ニツ堀ノ際ナル鹿垣
 逆木皆引破ラレテ城モ少シ防キ兼テタル体ニツ見エタ
 然ルニ雜文体ノ外ニ又兩文体ト名クル一種ノ者アリ是ノ体ハ雜文体
 ノ漢字ニ假名ヲ付ケタルモノニテ假名文トシテモ之ヲ讀ミ得可ク又
 雜文体トシテモ之ヲ讀ミ得可ク漢字ヲ知ラサル者ニハ假名文トシテ

讀ミ得可ク漢字ヲ知ル者ニハ雜文体トシテ讀ミ得ラル、モノナリ是
又体モ隨分古代ヨリ往々用ヒラレタリシト雖モ其ノ最モ盛ニ行ハレ
始メタルハ幕府最盛ノ時世稗史小説杯ノ大ニ出來タリシ寛政天保ノ
頃ニテ夫ヨリ維新後ノ假名讀ミ新聞ト唱フル假名付キノ新聞大ニ世
ニ行ハル、ニ至リ此体始メテ盛ニ世ニ行ハレシモノト云フ可シ其ノ
例左ノ如シ

兩文体

紀清兩黨千餘騎寄手ニ加テ未ダ氣ヲ屈セサル荒手ナレ

ハ(云々)

又右ノ外ニ假名ノミヲ用フル一体アリ是ヲ假名体ト名ク是ノ体モ隨
分古代ヨリ行ハレシ者ニテ夫ノ源氏物語ヨリ伊勢物語竹取物語土佐
日記ニ至ルノ類ハ是ノ体ニテ書キシ者アリ(然レモ雜文体ニ書キタル
モアリ)其ノ外謠本歌本ノ如ク歌フ者ニ讀ミ易カラシムル爲メニ是ノ

体ニテ書キシモノアリ又繪本草双紙ト名クル類モアリ(但シ假名ニテ
書クモ皆文語体ニテ談話ノ常語体ニハアラスト知ルヘシ)斯ク古代ヨ
リ是ノ体アリシト雖モ未ダ廣ク行ハル、ヲ得ザリシナリ今其ノ例
ヲ左ニ掲ク

假名体

ミダノ、ツルギノ、トナミヤマ、クモヂハナカス、ミコシヂノ、
クニノユクスエ、サト、ヘバ、イト、ミヤコハ、トウザカル、
サカイガハニモ、ツキニケリ(謠ノ山姥ノ假名文ナリ)

漢字ハ學ヒ難ク假名ハ學ヒ易キニモ拘ハラヌ今日ニ於テ右ノ假名体
ノ行ハレ難キハ何故トヤ是レ他ナシ常ニ兩文体ノ便利ニ壓セラレ、
ガ故ナリ抑モ兩文体ナル者ハ實ニ意外非常ナル便利ヲ世人ニ與ヘシ
者ニテ就中其ノ功ノ今日ニ大ナルハ振リ假名新聞ニ及フ者ナシ是等
ノ諸新聞ハ日々ニ幾十万枚ヲ發兌シテ廣ク世ニ行ハレシムルハ世人

ノ知ル所ナリ若シ是等ノ新聞ナキ世ナランニハ一日ノ中ニ一字ヲモ
 讀ムコ勿カル可キ婦人子供迄モ今日ニテハ是ヲ讀ミ新聞ヲ讀ム度ヒ
 ゴトニハ振り假名ニテ幾分ヅ、カ漢字ヲ見覺エ漢字ヲ多ク知ラサル
 者ハ假名ニテ是ヲ讀ミ一日ニ一枚ノ新聞ヲ讀ムモ幾千ノ漢字ヲ目ニ
 見覺エ是ヲ見ルコ毎日ノコナレハ僅々五六ヶ月ノ間ニテモ紙上ニテ
 漢字ニ出デ逢フコハ實ニ幾千万度ナルヲ知ル可ラス左レハ如何ニ教
 育ナキ者ナリトモ其ノ始メ唯四十餘字ノ假名ヲ知リ居ランニハ意外
 ニ早ク漢字ヲ覺エ最初ハ假名ニテ不便ナク是ヲ解シ暫時ノ後ニ至レ
 ハ其ノ既ニ見覺エタル漢字ハ漢字ニテ之ヲ讀ミ未ダ見覺エサル漢字
 ハ假名ニテ之ヲ讀ミ覺エ故ニ紙上ニハ假名ニ依ラズシテ漢字ニテ讀
 ムノ字モアル可ク或ハ猶ホ假名ニテ讀ム漢字モアル可シ故ニ兩文体
 ハ假名体ト漢字体トヲ兼テタルモノニテ甲ニ對シテハ假名体ト爲リ

テ通用シ乙ニ對シテハ雜文体ト爲リテ通用シ同シ一人ノ身ニ取リテ
 モ始メハ假名体ト見エ後ニハ雜文体ト見ユ斯ル一種ノ便利ナル文体
 ナ世ニ盛ナラシメシガ故ニ昔ナラバナカハ、漢字ヲ讀ミ得サル婦人
 子供迄モ今ハ容易ク日々是ヲ學ヒ得ルノ世ト爲レリ是則チ兩文体ニ
 壓セラレテ假名体ノ世ニ行ハル、ヲ得サル所以ノ一ナリ

今若シ雜文体ト假名体ト何レカ讀ムニ便ナルヤ何レカ見易キヤト問
 ハ、雜文体ノ方ノ便利ニシテ見易ク假名体ノ見難クシテ不便ナルハ
 明カナリ然レモ雜文体ハ其ノ漢字ノ學ヒ難キチ一ノ缺點ト爲スコナ
 ルニ兩文体ナルモノハ始メハ假名ニテ世人ヲ誘ヒ知ラズコト世人
 ナシテ漢字ヲ學バシメ已ニ是ヲ學ヒ得レハ目ニ見易キ漢字ヲ以テ之
 ナ讀ムノ便ヲ與フ然レハ兩文体ナルモノハ學ヒ易キ假名体ト見ルニ
 便ナル雜文体トヲ兼テタルモノニテ其ノ學ヒ易キハ假名体ニ劣ラズ

シテ其ノ見易キヲハ之ニ勝ルノ便アリ又雜文体ニ比較スレバ其ノ見易キヲハ同様ニ其ノ學ビ易キヲハ之ニ越エタリ故ニ兩文体ハ雜文体ノ見易キト假名体ノ學ビ易キトノ二便ヲ兼テ其ノ缺處ヲ補ヒ居ルモノナリ世人若シ是ノ理ヲ知ラバ假名体ノ兩文体ニ及ハズシテ我邦ニ假名文ノ行ハレ難キ所以ヲ知ル可シ則チ兩文体ヲ廢シテ假名体ヲ用フルノ必要ナキヲ知リ得ヘシ假名体ノ實際ニ行ヒ難キハ其ノ便利ノ兩文体ニ及ハサルノ道理アレハナリ

又是ノ外ニ兩文体ノ假名体ヨリ便利ナル一種ノ有様アリ何人ニテモ今試ニ假名文ヲ作り見ヨ之ヲ作ルニ臨テ知ラズ_{々々}短聲ノ語當選ス_ノ方ヲ避テ成ル可ク平聲ノ土語エラマレタリ_ノ方ヲ用ヒタク思フ可シ則チ漢語ヲ避テ土語ヲ用ヒント欲スルノ傾キアルヘシ余ノ如キモ時ニ假名文ヲ試ムルゴトニ此感ヲ生シ支那音ヲ用フレバ語聲ノ都

合ヨキ所ニモ口調アシキ土語ノ方ヲ用ヒタキ様ノ心地スル_ト屢_々ナリ例セハ昇級スル者二名_ト書テハ口調ヨキ所ヲモ假名文ノ時ニハ_二級ニ昇ル者二人_リト書キ度クナリ又余ノ關セザル所ナリ_ト漢語ヲ用ヒテ書ク可キ場所ニモワレノカハハリヤヒナキトコロナリ_ト土語ノ平タク長キヲ用ヒ度キ心地スル_ト多シ假名文或ハ羅馬字文ヲ試ミタル人々ハ定メテ斯ノ如キ有様ヲ經驗シタル可シ是ノ一段ニ於テ兩文体ノ假名体ニ勝レル理由ヲ見出シ得ヘキ_ト下ノ如シ

抑モ支那ノ字ハ皆ナ一聲ノ者ニテ二聲以上ノモノ少ナシ而ルニ其ノ字數ハ八万以上ノ多キニ上ルカ故ニ同音ノ字アルヲ免レズ例セバ_トフ_ノ音ノ字ニテモ其ノ數ハ幾ンド五六十ノ多キニ上ル可シ_一東ノ韻ナル_ト下_ト云ヘル語ノミニテモ其ノ數ハ五六十ヲリテ其意味ハ皆ナ異ナリ斯ク其ノ聲ノ同シクシテ其ノ意味ハ異ナル語ヲ多ク生セシ所

以ハ古ヨリ支那ガ音字ヲ用ヒスシテ形字ヲ用ヒ字ノ形ニテ意味ヲ解
 シ音ニ依頼スルコト少ナキニ因ルナリ例セハ「ドウ」ト云フ聲ハ同キモ字
 ナ見レバ「同」ト「童」トハ大ニ異ニシテ是ヲ見分ケ得ルノ便アルヲ以テナ
 リ是ノ理ハ通例世人ノ知ル所ナルガ尙ホ茲ニ注意ス可キ一事アリ支
 那人ガ目ノ世界ニ於テ書ヲ讀ムハ夫レニテモ宜シカランガ耳ノ世界
 ニ於テ談話ヲ爲スニ當テハ文字ヲ用ヒザルニ斯ク同聲異義ノ語ノ多
 キニ如何ニシテ不都合ナク談話ヲ爲シ混雜ナキヲ得ルヤ抑モ支那ノ
 一聲ノ數(日本ノ五十音ニ當ル數)ハ其ノ數大凡ソ三百三十餘アリ然レ
 ハ支那ノ「イロハ」ハ三百三十アル譯ナルガ上ニ又其ノ聲ノ始メ或ハ中
 或ハ終リニ音ヲ高低シテ發音シ調子ヲ以テ同聲ノ語ヲ異聲ニ變スル
 コトナリ(例セハ我邦ニテ「端」ト「箸」トハ同ク「ハシ」ノ音ナレモ聲ノ前後ニ高
 低ノ調子ヲ生シ之ヲ區別スルト同様ナリ以下ニハ是ノ音聲ノ高低ノ

調子ヲ節調ト名ク可シ斯ク支那ニテハ節調ヲ以テ同音ノ語ヲモ區別
 シテ別語ト爲スヲ以テ一聲ノ異語ヲ一千三百餘ニ増加スルヲ得ルナ
 リ今、日本ノ假名ニテ書ケハ僅ニ三百三十ナル支那ノ聲モ支那人ノ口
 ニテハ是ヲ一千三百ニ區別シ得可シ支那人ハ斯ク精密ニ其ノ語ノ節
 調ヲ區別スルモ猶ホ書ヲ讀ムハ形ヲ以テ意味ヲ示ス形字ノ助ケヲ假
 ラザルヲ得サルナリ然ルニ日本人ノ支那語ヲ用フルハ第一ニ斯ノ如
 キ精密ナル節調ノ區別ヲナサズ一語ニハ唯一ノ節調ノミニテ「ドウ」ト
 云ヘバ何等ノ節調高低モナク唯「ドウ」ノ一聲ナリ故ニ支那人ナレハ節
 調ヲ以テ同聲ノ語ノ意味ヲ變スル場合ニモ日本人ノ口ニテハ皆同聲
 ノ一音ト爲リ其ノ紛ラハシキコト夥シ(例セハ平、兵、弊、聘ノ如キモ日本
 ノ口ニテハ皆同聲ノ一節調ニテ之ヲ區別スルコト能ハズ)又第二ニハ日
 本人ハ異聲支那音ヲ畧シテ同聲ト爲スコト多シ例セハ支那人ハ「キヤウ」

「キヨチ」ノ異聲ヲ別々ニ言ヒ分クレルモ日本人ハ是ヲ云ヒ分クルヲ能ハ
 スシテ唯「キヨチ」ト云フ其ノ他「シヤウ」シヨチ等ノ如キ異聲ノ語モ之ヲ
 區別スルヲ能ハスシテ同聲ト爲シ甚シキニ至テハ我カ國人ノ七八迄
 ハ是ヲ言ヒ別シルモ他ノ二三部ノ人ハ是ヲ言ヒ分ケサルノ類アリ例
 セバ「クワン」ト「カン」ノ如キハ日本諸縣ノ人々ハ是ヲ言ヒ分ケ居ル者多
 キニ東京ノ人ハ是ヲ言ヒ分クルヲ能ハサルカ如シ
 右ニ述ヘタル要旨ヲ約言スレハ支那人カ節調ヲ變シテ用フル一千三
 百餘ノ異聲ヲ日本人ハ唯三百三十餘ニ云ヒ分ケ居ル者ナリ支那人ナ
 レハ一千三百ノ聲ハ皆ナ異聲ト爲スカ故ニ異聲異義ノ語ト爲ル者ヲ
 日本人ハ之ヲ同聲異義ノ語ト爲シ居レリ是ヲ以テ支那ニテハ紛ラハ
 シカラサル異ナル聲モ日本ニテハ同キ聲ト爲テ其ノ紛ハシキヲ甚シ
 キナリ則チ支那ニテハ節調ニテ異ナル聲モ日本ニテハ節調無キカ故

ニ同キ聲ト爲ルナリ又其ノ他ニ支那ニテハ節調ヲ用ヒサルモ元來性
 質ノ異ナル聲ヲ日本ニテハ畧シテ皆同聲ト爲スモノ多キナリ故ニ支
 那ニ比スレハ日本ニテハ聲ノ同キ語甚タ多ク從テ其ノ紛ラハシキヲ
 亦タ一層甚シキニ至リシナリ

斯ク日本人ハ支那音ヲ精密ニ區別スルヲ能ハサルモ書籍上ニテハ幸
 ニ漢字ノ形ノ異同ニ因テ之ヲ區別シ居ルヲナルニ此大切ナル形字ヲ
 廢シ音字ノ假名ヲ用ヒテ形字ニ代ヘナハ讀者ノ依頼スル處ハ唯其ノ
 語ノ聲ノミナリ然ルニ聲ノ紛ラハシク同聲異義ノ語ノ日本ニ多キヲ
 前ニ述ルカ如クシテ其ノ不便ノ甚タシキヲ元ヨリ多言ヲ俟タサルナ
 リ夫ノ假名ニテ文章ヲ綴ルニ當リ世人ガ知ラスヨリ語勢ノヨキ支
 那音ヲ避ケ不都合ナル土語ヲ用ヒ度キノ心地スルハ則チ是ノ理アレ
 ハナリ此場合ニ於テ若シ土語ノミヲ用ヒテ文章ヲ作り得ハ何モ差支

ヘナキヲナレト第一章ニ於テ論定シタル如ク平聲ノ土語ノミニテハ不便甚タシク平常ノ談話ニ於テスラ短聲急聲ヲ難ヘ用フルヲ必要ナル程ノヲナレハ如何ニ紛ラハシキヲ厭ヘハトテ土語ノミヲ用ヒ得ヘキ者ニアラス是非トモ短聲急聲ノ支那語ヲ用ヒサルヲ得サルナリ又第二章ニ於テ論定セシカ如ク文章ハ談話ヨリモ其ノ語勢ノ短キヲ便トス然レハ今談話ニ於テスラ短聲急聲ヲ用フルヲ必要ナラシムハ談話ヨリ尙ホ一層語勢ノ短キヲ要スル文章ニ於テ短聲急聲ヲ用ヒ言語ヲ短縮セサル可ラサルハ勿論ノヲナリ左レハ談話ヲ其ノ儘文章ト爲スモ如何ニ紛ラハシケレハトテ尙ホ支那語ヲ避ル能ハス況ンヤ文章ニ至テハ尙ホ更ノヲナルヲヤ短聲急聲ノ支那語ヲ用フルハ避ク可ラサルヲニシテ之ヲ用フレハ假名文ノ意味甚タ紛ラハシク見エ之ヲ作ル者ヲシテ成ル可ク短聲急聲ヲ避ケント欲スルノ心地ヲ生セシム斯

ク之ヲ避ケント欲セシムルハ則チ假名文ノ大ニ不便ナル所アルカ故ナリ又強テ避ケラル、ダケ支那語ヲ避ケ土語ノミヲ用ヒ假名文ヲ作リ終テ是ヲ讀メハ各句ノ語勢甚ダ緩ニ過キテ一氣ニ之ヲ悟リ難キ所多ク遂ニ讀者ヲシテ之ヲ倦ミ厭フノ念ヲ生セシム斯クナリテハ讀者ヲシテ心ノ勞ヲ省カシムル大切ナル文章ノ功能ハ消エ失セテ十枚讀ム可キ志アル者ハ五枚ニテ卷ヲ掩ヒ一年ニハ拾冊ノ書ヲ讀ミ得可キ人ヲシテ是ヲ五冊ニ止メシム其ノ知識ヲ廣ムルニ於テ不利ナルヲ實ニ意想ノ外ナル可シ乍去ラ文章ノ語勢ノ緩ニシテ人ヲ倦マシムルノ不便ハ尙ホ之ヲ忍ヒ得ヘシトスルモ其ノ言語ノ紛ラハシクシテ意味ヲ疑ハシムルニ至テハ其ノ不便實ニ甚シキニアラスヤ然レバ假名体ヲ用ヒテ強テ文章ヲ作ラント欲セハ同音ノ紛ラハシキ語ヲ區別センガ爲メニ字引杯ヲ作ルヲ第一ニ必要トナル可シ而テ其

ノ字引ノ中ニハ語原ヲ記載シ「ヘイ」ト云ヘル音ハ本ト支那字ノ「平」ノ「イ」テカナル意味ヨリ出デシトカ又「兵」ト云ヘル字ノ「ツ」ハ「モ」ト云フ義ヨリ來タリシトカ説明スル「ト」爲ル可シ然ラバ假名体ハ讀ミ易キニ似タレヒ之ヲ讀ム者ハ屢々紛ラハシキ語辭ニ出逢ヒ其ノ度ヒゴトニ字引ヲ用ヒテ意味ヲ調べ又其ノ語原ノ支那字ヲモ記憶スルノ勞ヲ免ル、コ能ハス然ルニ夫ノ假名ト支那字ト併用スル兩文体ナレバ更ニ斯ノ如キ勞アル「無」何トナレハ兩文体ナレハ假名ニテ綴リタル文章ノ紛ラハシキ辭ニ一々支那字ヲ示シ語原ヲ知ラシムル者ナレバナリ則チ假名文ニ語原字引ヲ附加ヘ字引ヲ引クハ勞ヲ省カシメタル者ナレバナリ又斯ク字引ヲ附加ヘテ漸々ニ支那字ヲ知ラシメ他日其ノ人が目ニ不便ナル假名文ヲ讀ムノ勞ヲ免レテ見易キ支那字ニテ書ヲ讀ムニ至ラシムル者ナレハナリ

日本人ノ支那音ヲ精密ニ區別セサリシハ強テ咎ム可キニ非ズ何トナレバ支那人ハ一聲ノ語多クシテ斯ル區別ヲ必要トスレヒ日本人ハ二聲以上ヲ重テタル語ヲ用ヒ唯時々ニ支那語ヲ其間ニ揆ムコナレバ一聲ノミノ語ヲ用フル支那人ノ如ク精密ノ區別ヲ要セザリシナラン乍去ラ「クワン」ト「カン」クワイ」ト「カイ」ノ如キハ紛ラハシキヲ避ル爲メ假名ニテ書クトモ之ヲ區別スルヲ可ナリトス現ニ東京ノ外ナル日本人ノ八九分ハ發音ニ是ノ區別ヲ爲シ居レハナリ

又通例ノ人ナランニハ語原ヲ知ルヲ好ムヘシ今漢字ヲ知ラスシテ類リニ漢語ヲ話ス者アラバ何カ可笑シク思フハ世間ノ風習ナリ是ハ日本ノミニ限ラス歐洲諸國トモ皆ナ同様ニテ諸國ノ語原ノ大半ニ居ル希臘、羅、匈語ノ意味ヲ充分ニ知ラズシテ頻リニ之ヲ引用スル者アラバ

餘り教育ナキ人物ノ如ク思フコナリ然レバ日本ヲ假名体ノ世ノ中ト爲ストモ通例ノ教育アル世人ハ必ス語原ヲ知り支那字ヲ知ルチ勉ムルニ至ル可シ何トナレハ語原ヲ知り古書ヲ讀マサレバ教育ナキ様ノ心地シ得ヘケレハナリ若シ斯ル有様ト爲ランニハ始メヨリ兩文体ヲ用ヒ語原ノ漢字ヲ附加ヘ假名ヲ以テモ讀ミ得ヘク漢字ヲ以テモ讀ミ得ヘキ者ヲ用フルノ便ナルニ如カサルヘシ

右ノ如ク兩文体ハ最上便利ノ者ナレバ是ヲ以テ日本普通ノ文体ト爲サハ何處ニモ決シテ不都合ナカル可シト信スルナリ去ラハ今日唯兩文体ヲ用ヒハ日本ノ文學上ニハ何モ改正ヲ加フルコト無クシテ可ナル可キヤト考フルトハ尙ホ多少ノ改正ヲ加ヘサル可ラサル者アリ

今日ト雖ヒ斯ク便利ナル兩文体アリナガラ猶ホ世人カ文字上ニ不滿足ヲ懷ク所以ハ何ソヤ其ノ文字ノ多キニ過ルチ以テナリ抑モ支那字

ハ其ノ數幾ンド八万以上アリテ各々皆相ヒ異ナル意味ヲ有スルニ似タリ然レヒ八万文字ノ中ニハ學者ト稱セラル、文人ガ其ノ一生涯ノ中ニ僅カ一度カ二度ノミ用フル如キ珍字モ澤山アリ又古書ニ用ヒラレテ近世ニ用ヒラレサル文字モ澤山アリ故ニ通常世人ガ普通ニ用フル所ノ字數ハ意外ニ少ナキ者ナリ日本人ニ比スレバ西洋人ノ漢字ヲ讀ミ難キハ勿論ノ事ナルニ其ノ西洋人ノ著シタル字語學(グラムマトグラフィ)ノ書中ニ僅ニ四千字ヲ知レハ支那ノ通常ノ書ヲ差支ヘナク讀ミ得ヘク又三千五百字ヲ知レバ經史ヲ讀ムニ差支ヘナシト書セシ者モアリ又余ノ經驗ニテモ常用ノ漢字ハ意外ニ少ナキ者ナルコト知レリ然レヒ普通常用ノ文字ノミヲ用フレハ其ノ數モ少ナク不都合モ少ナキニ學者ニ依テハ種々ノ都合ノ爲ニ常用ノ文字ヲ措テ稀ニ用フル珍字ヲ用フルコト往々尠ナカラス是ヲ以テ世人ハ常用ノ文字其ノ數三

四千ヲ知り盡ストモ少シモ油斷スルヲ能ハズ八万字ノ中ヨリ何レノ字ガ顯レ出ルモ計リ難ケレバナリ斯ル有様アルガ故ニ常用ノ字數ハ甚タ少ナキニモ拘ハラズ二三万字ヲ知り居ラサレバ人ニ對シテ文字ヲ知ルト公言スルヲ得サルヲ爲レリ又或ハ好事ノ人々ガ動モスレバ某ノ場合ニノミ適當スル珍ラシキ文字ヲ其ノ所ニ適用シテ文章ヲ巧ニ作ラント欲スルヨリ珍字ヲ用フルモアル可ク又讀者ニ生新ノ感シヲ與ヘントテ珍字ヲ用フルモアルヘシ是ニ於テカ遂ニ世人ヲシテ漢字ノ世界ヲ廣大浩渺タル大沙漠ノ如ク思ハシメ之ヲ究極スルノ念ヲ擲テ文字ヲ知ルヲ勉ムルノ志ヲ自棄セシムルニ至ルナリ而テ斯ル有様ヲ日本ノ文學上ニ生セシムルニ至リシハ本ト漢字ノ領分ノ甚タ廣キニ過キテ不用ノ珍字ヲ多ク蓄ヘ居ルニ依ルモノト云フヘシ是ノ有様が大ナル不便ヲ日本ノ文學上ニ生シ隨テ又知識ヲ國人ニ廣ムル

ノ大ナル妨碍ト爲ルニ至リシナリ
 今是ノ妨碍ヲ去ラント欲スルニハ世人ヲシテ第一ニ文書ノ種類ヲ區別セシムルヲ必要トス之ヲ區別スルトハ世上ノ文書ヲ二種ニ別テ其一ノ一ヲ普通書トナシ他ノ一ヲ文學書ト爲スヲニテ其ノ狀ハ恰モ猶ホ英國杯ニ於テ文學書(リテラライ、ウァルク)ト普通書(ボビウル、ウァルク)トヲ區別スルカ如クス可キナリ普通書ノ方ハ凡テ常用ノ文字ノミヲ用ヒ何人ニモ之ヲ讀ミ易カラシメ廣ク世間ニ通用スルヲ以テ主トス可シ又文學書ノ方ハ教育ヲ充分ニ受ケタル世界ニ向テ之ヲ讀マシムルヲ主トシテ漢文ニテモ如何ナル文字ニテモ如何ナル文体ニテモ之ヲ作ルヲ勝手ヲラシムヘシ(西洋ニテモ文學書ノ部類ニハ羅旬或ハ希臘ノ珍語或ハ古例ヲ頻リニ引用スル者アルヲナリ)今左ニ普通書ト文學書トノ區別ニ付其ノ例ヲ掲ク可シ

○普通書ノ部類

- 一 政府ノ布告及ヒ布令、布達、訓狀ノ類
- 二 公私學校ニ用フル教育書ノ類
- 三 廣ク人ニ讀マシムルヲ主トスル新聞誌ノ類(但シ専門ノ雜誌類ヲ除ク)
- 四 日用ノ手紙類(是ノ事ニ就テハ別ニ論アレハ先ツ一般ノ部類上ヨリ此處ニ入レタリ)

○文學書ノ部

- 一 稗史小説ノ如キ遊嬉書ノ部類
- 二 高尚ノ専門課ノ論文及ヒ専門書ノ類
- 三 普通書以外ナル一切ノ史類傳記

尤モ右ノ區別ハ唯一通り文書ノ性質ヲ定メタルモノニテ縱令ヒ文學

書ノ部類ニ屬スル性質ノ高尚ノ書ナリトモ若シ其ノ著者が廣ク世人ニ之ヲ示サシムコトヲ欲セバ其ノ事柄ハ如何程ニ高尚ナルモ常用ノ文字文体ヲ用フルキハ其ノ書ハ則チ普通書ト同様ニ廣ク世人ニ讀マル、ハ勿論ナリ唯普通書ノ部類ニ屬スル者ニ限リテハ勉テ普通ノ文字文体ヲ用フルヲ肝要ナルノミ又精密ニ是ヲ論スレハ必ラズ普通書ノ部類ニ在ラシム可キモノアリ夫ノ布告、布達、教育書ノ如キモノ則チ是ナリ是等ハ文學書ニ屬スルヲ許ス可ラス又勝手ニ任セテ可ナルモノアリ新聞誌ノ如キモノ是ナリ斯ク文書ヲ區別シテ後ニ始メテ文字ヲ節減スルノ方法ヲ實際ニ用ヒ得ヘキナリ

凡ソ事物ハ一寸ト遠方ヨリ望デ廣大ニ見エ手ヲ下タシ難ク見ルヨリ遂ニ斷念シテ止ムヲ多シ然レハ善ク靜着シテ徐々ト片端ヨリ是ヲ捌クハ決シテ始メ眺メシ程ニモ難義ニハ無キモノナリ漢字ノ如キモ

八万ト云フ字數ヲ聞クハ實ニ廣大ニシテ其中ヨリ常用ノ文字ヲ選
 出スルコトハトテモ能シ得可カラサルガ如シ然レモ能ク之ヲ點檢スレ
 ハ決シテ左程ニモ難カラサルヘシ常用ノ漢字ニテ名詞ノ數ハ(人体ヨ
 リ天地山川舟車器具禽獸魚介草木ニ至ル迄)凡ソ八百餘アリ故ニ稀ニ
 用フル草木禽獸魚介ノ細名ヲ之ニ附加スルトモ其ノ數ハ一千五百内
 外ニ過キササル可シ又働詞形容詞副詞前置詞代名詞間投詞接續詞ハ其
 ノ數合シテ八百八十餘語ニ過キス(但シ虛事ニ屬スル名詞ノ「癖」「好」等ノ
 名詞ヲモ是ノ部類ニ算入セリ)右ノ八百ノ名詞ト八百八十ノ働詞等ヲ
 合スレハ其ノ總數千六百八十餘字ニテ足ルヘシ又一語ニテ唯一字ヲ
 所持スルモノアリ然レモ若シ其一語ニ適當スル一字ヲ用ヒズシテ二
 字ヲ用フレハ千六百ノ文字ヲ更ニ減少シ得可キナリ(例セハ「掌」ト云ヘ
 ル適當ナル一字ノ代リニ「手心」ト書クガ如ク「手」ト「心」トヲ用ヒテ「掌」ト云

ヘル字ヲ省クノ類ナリ)然レモ働詞杯ノ類ハ之ニ反シ一語ニテモ意味
 ナ異ニシ多クノ文字ヲ要スルモノアリ例セハ「ウツ」ト云ヘル一語ニハ
 數種ノ意味ヲ含ミ隨テ又「撃」「拍」「打」等ノ數種ノ字ヲ要スルガ如シ
 右ノ如キガ故ニ働詞杯ハ其ノ語數ハ八百餘ナリトモ其ノ文字ハ多キ
 ナ要スル場合アリテ一語ニモ數字ヲ與ヘサルヲ得サル者アリ又一語
 僅ニ一字ノミニテ足レル者モアリ故ニ今是ヲ平均シテ一語ニ二字ヲ
 要スルト算當スレバ餘リアルトモ不足ハナカル可シト信スルナリ然
 レバ今働詞形容詞副詞前置詞間投詞接續詞等ノ語數ノ八百餘語ニ要
 スル字數ヲ一千六百餘字ト假定ム可シ而テ名詞ノ方ハ八百餘語ニ草
 木禽獸魚介ノ細名六百餘語ヲ附加ヘテ是ヲ一千四百字ト假定ム可シ
 (掌ニ手心ヲ用ヒズシテ掌ヲ用フル程ニ充分ノ字ヲ與ヘタル計算ナリ)
 然レバ普通書ニ用フ可キ常用ノ字數ハ其ノ總數僅ニ三千以下ニテ充

分ナルヘシ余ノ經驗ニテハ此三千字アラハ如何ナル文語文体ヲモ記
 シ得サルコナク如何ナル高尙ノ事柄ト雖モ之ヲ記シ得サルコナク獨
 リ普通書ノミナラズ文學書ト雖モ猶ホ是ノ字數ノ範圍内ニテ之ヲ辨
 スルニ餘アルヘシト思ハル、ナリ(但シ文學書ノ中ニテ古文或ハ古字
 或ハ支那ノ古書ニ關スルモノハ是ノ例ニ非ズ)右ハ充分ニ見込ミタル
 計算ヲ云フ者ニテ實際ハ普通ノ文書部ニハ一千五百以下ニテ足ルヘ
 シト思ハル

且ツ已ニ是程ノ文字アレハ是ヲ重用シ聯用シテ如何程ニモ多クノ語
 ナ記載シ得可ク是ノ字數ヲ字根トスレバ是ヲ以テ如何程ニモ多クノ
 語ヲモ記載シ得可キナリ(例セバ「石」疊「家」根ノ四根アレハ右ノ四語ノ外
 ニ「家根」トモ爲リ「石疊」トモナリ「石」疊「」ノ働詞トモ爲ルヘシ同字ノ聯
 用次第ニテハ已ニ知レル字ヲ以テ他ノ物名或ハ舉動ヲモ記載シ得ル

コナリ)

左レハ遠ク望テ爲シ難ク見エタル漢字ノ節減モ是ニ手ヲ下ダスルハ
 思ヒノ外ニ容易ナル可シ縱令ヒ珍ラシキ文字ヲ用ヒズトモ右ニ述ヘ
 タル字數アラシニハ如何ナル高尙ノ事柄ナリトモ如何ナル精密ノ事
 柄ナリトモ巧ニ之ヲ記載シ得ラレサルコトハ無ルヘシ決シテ珍ラシキ
 文字ノミ高尙ナル事柄ニ伴ヒ居ル者ニハ非サルナリ又右ニ示シタル
 語數及ヒ字數ニ付テ尙ホ疑ヲ抱ク者アラハ夫ノ專ラ虚字ヲ載セタル
 「四聲解環」ノ字數及ヒ語數又ハ虚字實字ヲ載セタル「以呂波韻」杯ノ語數
 字數ヲ調べ見ヨ余ノ言ニ大過ナキヲ知ル可シ

倍テ右ノ如ク常用ノ文字ヲ節減シ文体ヲ定メ文書ノ部類ヲ分チ是ヲ
 實行スルノ手續キハ如何ニス可キヤト考フルニ是ノ事ヲ政府ヨリ大
 ニ全國ニ布告スル迄ニモ及バサル可シ唯政府自ラ率先シテ是ヲ實行

スルヲ必要トスルノミ之ヲ實行スレハトテ國人ヲ驚カス程ノコトハナ
ク唯其ノ文書ノ讀ミ易クナリシト思ハル、ニ止ルノミ故ニ政府ハ先
ツ其ノ手始メトシテ文部省ノ學士會院ノ中ニテ漢洋ノ書ニ通シ又日
本ノ情況ニ深ク注意スル學者兩三名ヲ選ヒテ之ヲ委員トシ常用ノ文
字ヲ八万字ノ中ヨリ撰出セシム可シ然ル後ニ政府ハ太政官ヲ始メ諸
省諸局ヨリ府縣廳郡區役所ニ至ル迄總テ官府一切ノ文書ハ成ル可ク
是等ノ文字ヲ用フ可キ旨ヲ令達ス可シ又文部省ハ全國ノ諸學校ヲシ
テ其ノ教課書ニハ右ノ文字ヲノミ用ヒシムルコトヲ命令ス可シ
又官府ノ文書及ヒ教課書ノ文体ハ凡テ兩文体ヲ用ヒシメ大抵ノ漢字
ニハ皆ナ振リ假名ヲ施サシム可シ但シ極メテ世人ノ目ニ慣レタル漢
字ニハ時々假名ヲ施シ常ニ之ヲ施サ、ルモ可ナルヘシ斯ノ如クセハ
如何ナル教育ニ乏シキ者迄モ最初ハ假名ニテ是ヲ讀ミ得可ク是ヲ讀

ミ得居ル間ニハ遂ニ漢字ヲ見覺エ後ニハ目ニ不便ナル假名ニ依ラス
目ニ便ナル漢字ノミニテ之ヲ讀ムニ至ル可シ又漢字ノ如キモ其ノ數
ニ限リアルコトナレハ是ヲ讀ミ覺ユルコト甚ダ早ク其ノ便利實ニ大ナル
可シ

政府カ已ニ是ヲ實行スルコトナラバ世間ニテ書ヲ著ハシ或ハ新聞ヲ
發行スル人々モ自然ト是ノ節減セル文字ノ範圍内ニテ事ヲ辨スルニ
至リ廣ク漢字ニ通スル者モ已ムヲ得ザルノ場合ニ非ザレバ珍ラシキ
漢字ヲ用ヒサルニ至ル可シ日本ノ文學世界ノ有樣斯ノ如キニ至ラバ
國人知識ヲ得ルニ容易ナルコト遙ニ假名文ノ上ニ出ツベシ
凡ソ世間ノ物事ハ面倒ニ仕掛レバ隨分面倒ニ爲テ掛ドラス者ナリ然
レバ漢字ヲ撰出シテ之ヲ定ムルカ如キモ僅々二千カ三千字ノコトナレ
ト事ニ當ル人ヲシテ丁寧ニ過ギシメシムニハ中々ニ隙ヲ取リ二三年若

少ハ四五年ヲモ費スニ至ル可シ斯ノ如キハ誠ニ念ノ入り過クルコトニ
 テ夫程ニハ及ハス先ヅ「四聲解環」或ハ「以呂波韻环」中ノ珍字ヲ削リ去
 リ必要ナル文字ヲ存スル位ニテ澤山ナリ余ノ愚考ニテハ十ヶ月計リ
 ノ仕事ナルヘシト思ハル、ナリ乍去ラ己レ好ム所ニハ誤見多キモノ
 ナレバ之ヲ倍加スルト爲シ二十ヶ月ナレバ常用ノ字ヲ選定スルニ左
 マテ難キ事ハ無ルヘシト想像スルナリ
 抑モ布告布達ノ如キハ廣ク人民ニ之ヲ知ラシメ又容易ク之ヲ覺リ得
 セシムルノ必要ナルハ勿論ノ事ナルニ維新以後、他ノ百事大ニ進歩ス
 ルニ反シ官府ノ文書ノミハ其ノ目的ニ反對スル方向ニ傾キ以前ニ比
 スレハ人民ヲシテ是ヲ解スルコト甚々難義ナル方ニ變セシムルカ如キ
 ハ誠ニ遺憾ナラスヤ例セハ今「難破船」ニ關スル布令ノ中ニ「光輝ヲ發揚
 スル材質ヲ燒燃スベシ」ノ語アリト假定メヨ船頭水夫杯ガ如何ニシテ

是ヲ讀ミ得可キゾ斯ル場合ニハ唯「遠方ヨリ光ノ見ユル品物ヲ燃ス可
 シ」ト書シ振假名ヲモ付ルコト願ハシケレ又今、陸軍ヨリ後備兵ノ事
 ニ關シ「後備兵ヲ點呼ス」ノ文字アルト假定メヨ尋常ノ人民ガ如何ニシ
 テ是ヲ讀ミ得ヘキゾ斯ル場合ニハ唯「後備兵ヲ呼ヒ出ダス」ト書キ假名
 ナ付ルコト願ハシケレ總テ必要ナラサル場合ニ強テ珍ラシキ漢語熟
 字ヲ用ヒ、之ヲクテモ濟ムヘキ場合ニ強テ是ヲ用フルハ廣ク人民ニ讀
 マシムルノ文書類ニハ似合ハシカラヌ事共ナリ乍去ラズ云ヘハト
 テ文學書ニ屬スヘキ書類ヲモ總テ斯ク書スヘシト云フノ意味ニハア
 ラス或ル場合ニ於テハ平易ノ文字文体ニテ甚々長ク書クヘキ所ヲ其
 ノ場合ニ適合スル珍ラシキ漢字文体ニテ短ク分明ニ説明シ得ルノミ
 ナラス其ノ語氣ト云ヒ總體ノ文勢ト云ヒ斯ク爲ス方ニ十倍ノ風味ヲ
 添フル者モアリ文學書ノ類ニハ素ヨリ斯ノ風味ヲ必要ト爲スコトナレ

ハ是等ノ書ニハ是ノ体ヲ用フルモ決シテ不可ナキ者ナリ唯文書ノ部類ニ注意シテ文字文体ヲ用フルト必要ナルノミ(尙ホ文章ノトハ第六章ニ於テ之ヲ論スヘケレハ此處ニ畧ス)

前ニ述ベタル如ク普通書ニ用フル字數ヲ定ムル以上ハ其ノ字引ヲ作ルト必要ナリ然レモ先ツ是ノ字引ハ單語ノミニテ可ナルヘシ二字以上ノ熟語ヲ載スルニ及ハサル可シ而テ是ノ單語字引ニハ二種ヲ作り其ノ一ハ聲ニテ引キ出タス以呂波韻ノ如キ者トシ其ノ一ハ畫ニテ引キ出タス字林玉篇ノ如キモノトスヘシ則チ一方ハ文ヲ作ルニ必要ナルモノニテ一方ハ書ヲ讀ムニ必要ナルモノナリ斯ク政府ノ文書及ヒ學校ノ教課書類ニ一タヒ是ヲ實行スルニ至ラバ自然ト民間ニ於テ種々ノ便利ナル字引ヲ作り出タスモノアル可シ夫ノ二字以上ヲ連用スル連語熟語字引ノ如キ類ハ忽チ夥シク生ス可キナリ

右ノ方法ヲ用ヒテ八万ノ漢字ヲ二三千ニ減セバ文字ノ方ハ先ツ是ヲ學ブト甚タ容易ト爲リタルト假定ム可シ借テ是ノ學ヒ易キ文字ヲ用ヒ兩文体ヲ作ルニ當テハ如何ナル者ヲ以テ其ノ手本ト爲ス可キヤヲ思考セサル可カラズ兩文体トハ本ト雜文体ニ假名ヲ施シタル者ナルカ故ニ本ト雜文体ヲ基礎ト爲スモノナリ而テ普通書ニ用フル雜文体ハ其ノ手本ヲ何レノ處ニ之ヲ求ムヘキヤ愚考ヲ以テスレハ古今トモニ世上ノ人情現世ノモノヲ兎角ニ非難シテ舊時ノモノヲ好ムノ有様アリ左レハ今代ノ學者ノ雜文体ヲ手本ト爲サシメント欲スルトモ或ハ是ニ承服スルヲ甘ンセサル者多カルヘシ左レハ其ノ手本ハ少シク舊ルビテ古色ヲ帯ヒタルモノヲ用フルコソ穩カナラン依テ是ノ手本ト爲スヘキ者ヲ考フルニ最モ今日ニ適當ナルハ夫ノ雜文体ノ盛ニ行ハルノ時世ヲ始メタル新井白石、貝原益軒諸氏ノ雜文体ニ勝ル者ナ

カル可ハ其ノ体ノ上品ナルハ新井氏ノ著書中ニ之レアラサルハ無ク
 又平易ニシテ人ニ入り易キハ貝原氏ノ著書中ニ之レアラサルハ無シ
 然レハ上品ナル文体ハ新井氏ヲ手本トシ平易ナル文体ハ貝原氏ヲ手
 本トセハ決シテ不足ヲ認フルノ人ナカル可シト思ハルハナリ且ツ新
 井氏ノ如キハ其ノ行狀ト云ヒ其ノ志ト云ヒ其ノ經歷ト云ヒ誠ニ慕ハ
 シキ人物ナリ又具原氏ノ如キモ温厚篤實ニシテ世ヲ益スルニ其ノ心
 ナ用ヒタル人物ナレバ是モ亦タ敬ス可キ學者ナリ左レハ是ノ二氏ノ
 文ヲ手本トスルハ世人ニ何ノ不快ヲ感セシムルコトモナカル可シ又幸
 ニシテ右二氏ノ著書ハ實ニ夥シク今日ニ傳ハルコトナレバ如何ナル文
 体ヲモ其ノ中コト見出タシ得ルノ便利アリ(文体ノ事ハ猶ホ第六章ニ
 於テ別ニ詳論スルヲ見ヨ)

此章ノ初ヨリ論シ來リシ要領ヲ約言スレバ下ノ如シ抑モ日本ニ於テ

ハ文化ノ進歩ヨリ文体ニ種々ノ沿革ヲ生シ五種ノ文体ヲ生出セリ而
 テ其ノ變遷ノ性質ハ難キ避テ易ニ傾クニ外ナラス遂ニ今日ニ至リテ
 ハ支那ノ語法ヲ用ヒスシテ全ク日本ノ語法ヲ用フル雜文体ト雜文体
 ニ假名ヲ施シタル兩文体トノ二體最モ廣ク世ニ行ハルハニ至レリ而
 テ兩文体ハ音ノ紛ラハキ不便ヲ補フガ爲メニハ漢字ヲ用ヒ漢字ノ
 讀ミ難キ不便ヲ補フガ爲メニハ假名ヲ施ス者ナレハ漢字ト假名トノ
 兩便ヲ有シテ漢字ノミト假名ノミトノ不便ヲハ削リ去リタル者ナリ
 又音ノ紛ラハキ不便ト外ニ假名文ハ目ニ見ルニ不便ニテ漢字ハ便
 ナリ然レモ假名文ハ又學ヒ易キノ便アリテ漢字ハ學フニ不便ナリ然
 レニ兩文体ハ假名ノ學ヒ易キ便ト漢字ノ見易キ便トヲ兼テ有シテ兩
 者ノ不便ヲ除キタル者ナリ故ニ是ヲ以テ最上便利ノ文体ト爲スヘシ
 ト云フニ在ルナリ然レモ是ノ兩文体ハ尙ホ人民ノ私書体ニシテ未ダ


一般ノ公書体ト爲リ居ラサルカ故ニ是ヲ進メテ公書体ト爲シ今日ヲ以テ雜文体ノミノ時世ト爲サズ兩文体ト雜文体ト互ニ並立スルノ時世ト爲サシコチ欲スルナリ又普通書ト文學書トチ區別シ常用ノ文字チ不足ナキ程ニ八万字中ヨリ撰出シテ之ヲ普通書ニ用ヒ人民チシテ是ヲ學ビ易カラシメシト欲スルニ在ルナリ

余ガ是ノ篇チ草スルニ至リシハ則チ右ニ述ヘタル方法ヲ我國ニ實行シテ知識チ廣ムルノ路チ容易カラシメント欲スルニ外ナラズ則チ普通書ニ用フル文字ノ數チ節減シ兩文体チシテ公書ニ入ラシメント欲スルニ在リ故ニ是ノ章ノ前ナル第一章第二章及ヒ是ノ次ナル第四章第五章第六章ハ皆是ノ章ノ論旨ヲ助ケルカ爲ニ生セシ者ニテ是ノ篇ノ主眼ト專ラ是ノ第三章ニ在リト云フモ可ナリ

第四章 假名ト漢字トノ優劣

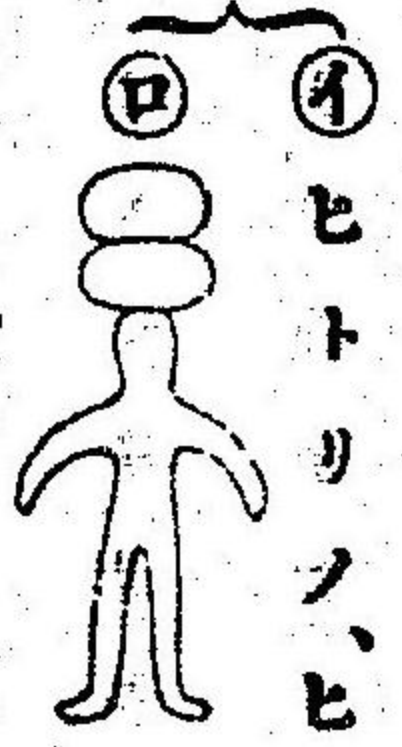
第一章ニ於テハ語体語勢ノ理チ言語學上ヨリ論シ第二章ニ於テハ文語文体ノ理チ視感聽感ノ上ヨリ論シ第三章ニ於テハ文体沿革ノ有様ヨリ日本ニ用フヘキ文字及ヒ文体ヲ論定シタレハ余カ此篇チ草スルノ大意ハ既ニ之ヲ達シタル者ナリ然レモ尙ホ前ニ論シ遺シタル箇條無キニモアラサレハ此章以下チ以テ之ヲ畧論スヘシ


前ノ第三章ニ於テ漢字チ雜ヘシ文章ハ目ニ見易ク假名ノミノ文章ハ目ニ見分ケ難シ故ニ目ノ世界ニ於テハ假名文ハ不便ナリトノ旨チ記セシガ何故ニ斯ク不便ナルヤノ理由チハ之ヲ説明セスシテ過キ去レリ是レ當時ニ於テ之ヲ論スレハ論旨チ支道ニ引入レテ前篇ノ要領チ

案ルノ恐レアリシカ故ナリ今ヤ此章ニ於テ兩者ノ優劣アル理由ヲ畧
 論スヘシ但シ兩者ノ優劣ヲ唯專ラ目ノ世界ノミニ於テ判斷スルコト
 知ルヘシ
 凡ソ口ニテ言ヒ之ヲ耳ニ聞カシムルニハ是非トモ聲ヲ積ミ重テザル
 可カラズ(例セバト、リ、ガ、ト、ブ、ノ如ク五聲ヲ重テ「鳥ガ飛ブ」ト云フコト
 知ラシムルノ類ナリ)然ルニ目ニ見テ之ヲ心ニ悟ラシムルニハ斯ノ如
 シ音聲ヲ積ミ重ヌルニ及バズ唯心ニ悟リ得ル符調ヲ見セシムルノミ
 ニテ充分ナルモノナリ(例セバ  ナ見セシムレバ「ト、リ、ガ、ト、ブ」ノ五聲
 ナ重ヌルニ及バズシテ「鳥ガ飛ブ」ト云フ意味ヲ目ハ直ニ心ニ悟ラシメ
 得可キノ類ナリ)目ト耳トニ於テ斯ノ如キ區別アル所以ノモノハ人身
 ノ聽官ト視官トハ本ト全ク別質ノ者ナレハナリ聽官ノ方ニ向テハ音
 聲ヲ順々ニ續ケテ響カシムルコト、リ、ガ、ト、ブノ如クシテ始メテ是ヲ悟

リ得セシムルモ視官ノ方ニ向テハ唯目ニ觸ル、符調ノ意味ヲ知ラシ
 ムルノミニテ聲ヲ重ヌルニハ及バサル者ナレハナリ猶ホ此理ヲ審コ
 セシト欲セバ左ノ例ヲ比較セヨ今茲ニ  斯ノ如キ符調アリ
 ト假定メ其ノ形ヲ以テ既ニ明カナルガ如ク「人ガ二ツノ品物ヲ頭上ニ
 載セ居ル」ト云フ意味ヲ含ム符調ナリト假定ム可シ而テ今是ノ符調ヲ
 假名ニテ此意味ヲ書キタルト孰レガ視感ニ便ナルヤヲ比較スヘシ

第一例



右ノ二種ヲ目ニテ一寸ト見テ孰レガ心ニ早ク覺リ得ルヤト問ハズ通
 例十八ノ八九人迄ハ  印ノ方ヲ目ニ便ナリト感ス可シ而テ此  印ニ
 ハ二人リノ人ガ頭ニ二ツノ物ヲ載ク「ト云フ意味ハアレヒ  印ノ如ク
 音聲ヲ積ミ重テ此意味ヲ顯ハシタル者ニハアラズ然ルニ是ノ符調

ノ方カ早ク心ニ悟リ易キハ何故ソヤ是レ他ナシ目ノ世界ニハ音聲ハ不用ナル者ニテ唯意味ヲ悟ルノ符調ノミニテ充分ナレハナリ今尙ホ一層儘ニ是ノ理ヲ究メント欲セバ假名ヲ以テ下ノ如ク書キシ「カラダハ、マツカニテ、テアシ、フシダレダナ、カシラニ、ニホンノ、ツノチ、イタバキ、クチハ、ミ、マデ、サケタル、ヒトツノ、オニガ、クモノナカニ、タナ、チイサキ、タイコチ、ツラチタル、ゴコウノ、ゴトキモノチ、セナカニ、オヒ、リヨウホウノチニ、バチチ、モチ、ソノタイコチ、タ、キオル」トノ文章ヲ見テ是ヲ心ニ悟ルト是ノ意味ヲ顯ハシタル雷神ノ書ヲ見ルト孰レカ早ク心ニ悟リ得可キヤチ考ヘ見ヨ音聲ヲ重テタル方チ充分ニ解スルハ何人ト雖モ早クテ十秒或ハ十五秒ヲ要ス可シ然ルニ形ヲ書キシ圖ヲ見ルニハ如何ニ遅キモ僅々四五秒ニテ充分ニ之ヲ解シ得可キナリ是ハ等フ可カラサルノ事實ニシテ然ル所以ノ者ハ必竟目ノ世界ニハ耳ノ世

界ノ如ク音聲ヲ重テテ之ヲ覺ルコト要ナラザレバナリ則チ視感ト聽感トハ大ナル別物ナルガ故ナリ

又今日ノ文字ノ實際ニ於テ是ノ理ヲ知ラント欲セバ左ノ數例ヲ慮心ニテ比較シ孰レカ讀ミ易キチ考ヘヨ

第二例

- ① ウレハ、ニシフゴエノ、オヨビ、サシシフロクエノオ、シヨウチ、エタリ
- ② ウレハ、二十五圓、オヨビ、三十六圓ノ、シヨウチ、エタリ

第三例

- ① The prizes of twenty five pounds, and thirty six pound.
- ② The prizes of 25 & 36.

右ノ和文ノ①印ト②印トチ比較シ又英文ノ①印ト②印トチ比較セヨ十人ノ九人迄ハ兩例トモニ皆ナ③印ノ方チ好ム可シ其ノ所以ハ他ニアラズ和文ノ③印ニハ「二三五六」等ノ形字アリ又英文ノ③印ニモ「圖磅」

等ノ形字アレハナリ是等ノ形字ハ皆其ノ符調ヲ以テ意味ヲ示スモノ
 ナレハ假名綴リノ如ク音聲ヲ下ドリ之ヲ讀ムニ及ハス唯一寸ト其ノ
 形ヲ見レハ直ニ其ノ意味ヲ悟リ得ルノ便アレハナリ然ルニ和英トモ
 ニ①印ノ方ハ此理ニ反シ音聲ヲ積ミ重キタル文字ヲ讀ムトナルガ故
 ニ之ヲ覺ルニハ視感ノ世界ニ不用ナル手續キヲ爲スノ面倒アレハナ
 リ人心ハ自然ト此面倒ヲ知ルガ故ニ假名文ヲ用フル歐洲諸國ノ如キ
 モ亦タ第二例ノ如ク符調字ヲ用ヒテ音聲字ニ換フルヲ免レサルニ至
 ルナリ若シ歐洲諸國ニテ是等ノ形字ヲ廢シ假名ヲ以テ其ノ場合ヲ勤
 ヲシメハ其ノ不便ハ如何許リナル可キカ然ルニ幸ニ形字アリテ今日
 其ノ不便ヲ免ルハコナリ是等ハ誠ニ明白ナル道理ニテ皆テ目ノ世界
 ニハ音聲ヲ重キルコトノ必要ヲザルヲ証スルモノナリ
 右ノ例ニテ注畧が明カナルガ如ク凡テ假名文ヲ用ヒテ意味ヲ示スハ

皆ナ音聲ヲ重キタル者ナリ則チ音聲ノ力ヲ假リテ視感ニ感ハ之ヲ心
 ニ覺ラシメント謀ルモノナリ又漢字或ハ歐洲ノ數字及ビ此ノ如キハ
 之ニ反シ音聲ヲ重キルノ手數ヲ省キ其ノ形ヲ以テ其ノ意味ヲ心ニ悟
 ラシメント謀ルモノナリ而テ前以テ其ノ意味ヲ知ラシメ置キハ目
 ニ見テ早ク覺ルハ形字ノ方ヲ勝レリトスルコト右ニ述ル諸例ノ如クナ
 ルキハ目ノ世界ニ於テハ形字ノ方ガ假名字ニ優レルコト甚ダ明カナリ
 ト知ル可シ

目ノ世界ニ於テハ成ルベク少ク見テ成ルヘク多クノ意味ヲ心ニ悟
 ラシムルノ文字ヲ以テ之ヲ優等最上ノモノトシ多ク見テ少クノ意味
 ヲ解セシムル文字ヲ以テ之ヲ劣等最下ノモノトス更ニ是ヲ言ヒ換フ
 レハ一寸ト見テ解シ得ラル、丈ケ澤山ノ意味ヲ早ク解セシムルモノ
 ナリ以テ勝レリトシ澤山ニ見テ唯少クノ意味ヲ解セシムルモノヲ以テ

劣レリトス世人若シ是ノ理ヲ以テ判断セハ字ノ少ナキ割合ニハ形字
 ハ目ヲ勞ラヌコト少クシテ多クノ意味ヲ含ミ居リ假名字ハ字ヲ多ク
 積ミ重テタル割合ニハ多クノ意味ヲ有セサルカ故ニ視感ノ理ニ於テ
 形字ハ大ニ假名字ニ勝レルモノナルコト知リ得ヘシ故ニ漢字ヲ讀ミ
 得テ之ヲ假名文ト比較シ得ル歐洲ノ學士中ニハ形字ノ方ガ假名字ヨ
 リモ目ニ強キ感ヲ與フルヲ論スル者アルニ至レリ

假名文ノ國ト雖モ視感ノ理ニ從ハサルヲ得サルカ故ニ假名文ナ
 ガラモ假名ニテ綴リシ一語ゴトニ各々一種ノ形ヲ爲サシメ其ノ
 音聲ヲタドラス其ノ形ニテ之ヲ讀マシメ假名字ノ不便ヲ償ハシ
 ト企テアルモノアリ西書ヲ讀ミ得ル人ハ必ズ是ニ心付キ居ル可
 シ例セハ通例ノ書籍ノ文字ニハ「アビシ」廿餘字ノ中ニテ並ノ行ヨ
 リ上ニ高ク飛ビ出デタル字「b h」ノ類ヲ作り又下ニ突キ出デタル

字「p y」ノ類ヲ作り是等ノ字ヲ他ノ字ニ雜ヘ綴リテ幾分ノ形ヲ爲
 サシメ一語ノ假名ヲ首ヨリ尾マデ悉ク讀ミ終ラザル中ニ早ク其
 ノ語ノ形ニテ是ヲ悟ラシムル様ニ成リ居レリ然レハ是等ハ已ニ
 形ヲ以テ目ニ眩ヘント謀ルモノニテ夫ノ形字ヲ以テ目ニ眩フル
 ノ道理ヲ用ヒタルモノナリ然レモ如何セシ其ノ形ハ猶ホ甚々著
 ルシカラザルカ故ニ其ノ見分ケ難キ一段ニ至テハ遙ニ形字ニ及
 ハサルナリ如何ニ形ヲ爲サシムレハトテ假名字ノ形ハ形字ノ形
 ニ及フ能ハサルハ明カナリ乍去ラ假名字ノ形字ニ勝レルハ音聲
 ニテ之ヲ讀ムカ故ニ容易ク其ノ意味ヲ解シ得セシムルノ一事ニ
 在リ形字ハ其ノ始メ其ノ形ト其ノ意味トヲ結び付ケ某ノ形ニハ
 某ノ意味アルコトヲ知ラシメ置カサル可ラス故ニ其ノ始メ其ノ
 意味ヲ知ルノ難義ナルハ是其ノ假名字ニ劣レル所ナリ(尤モ形字

モ古代ニハ其ノ形ニテ其ノ意味ノ解シ易カリシモノニテ例セハ
 ① 日トシ 月トシ 日ト月トナ合セシ者ヲ明トシ又 木
 ② 木トシ 林トシ 林ノ下ニ火ノアルヲ焚トナスカ如ク爲セ
 シナレモ千百年ヲ經テ字体ノ次第ニ變スルニ隨ヒ後世ニテハ遂
 ニ其ノ意味ヲ悟ルヲ易カラザルニ至レルナリ故ニ双方トモニ一
 得一失ノ道理ニテ其ノ初メ意味ヲ知ルニハ假名字ハ易クシテ形
 字ハ難シ然レモ既ニ一タビ是ヲ知リシ後ハ形字ハ見ルニ易ク假
 名字ハ見ルニ難シト云フヘシ然ルニ前ノ第三章ニ於テ論セシ如
 キ方法ヲ行ヒ両文体ヲ用ヒテ其ノ始メ形字ヲ學ビ易カラシムル
 以上ハ形字ノ短所ヲ除キテ其ノ長所ヲ存シ學ビ易キノ便利ト見
 易キノ便利ト兼テ有スル者ト云テ可ナリ何ハ兎ニ角目ノ世界
 ニ於テハ形字ニ對シテ假名字ハ一步ヲ讓リ劣等ノ者ヲラサルナ

得ザルナリ

凡テ目ノ爲メハ一寸ト見テ早ク彼此ヲ區別シ易キ文字ヲ便ナリト
 ス若シ是ニ反シテ一寸ト見分ケ難キ文字ナラハ目ノ世界ニテハ是ヲ
 劣等ノモノト爲サ、ルヲ得サルナリ而テ此點ニ於テ假名字ハ大ニ劣
 ル所アルモノナリ前ニ説ク如ク漢字ハ則チ形字ニテ一寸ト見分ケ易
 キモノナレモ之レステモ猶ホ場合ニ依テハ甚ダ見分ケ難キコアリ今
 我々ノ目ニ慣レタル漢字ヲ以テ是ノ理ヲ考フ可シ左ノ例ヲ見ヨ

第四例 ① 略峒哈時陸峽崎

右ハ同偏同畫ノ字ナリ一寸ト見分ケ難カル可シ

第五例 ② 株洋峒咬垣佩珠

右ハ異偏同畫ノ字ナリ①印ニ比スレバ幾分カ之ヲ見分ケ易カル可シ

第六例 ③ 汗嗟圮株仁喝珪

右ハ異偏異畫ノ字ナリ前ノ①印②印ニ比スレハ幾分カ見分ケ易カル可シ

第七例 ③山峒汁水珪仁圮

右ハ有偏無偏同畫異畫ノ字ヲ混セシモノナリ之ヲ前ノ①印②印③印ニ比較セバ其ノ一寸ト見分ケ易キヲ實ニ甚クシキヲ覺ユ可シ左レハ各々形ノ相ヒ異ニシテ八万以上ノ數アル形字サヘ少シク形ノ類似セシ者夫用フルキハ尙ホ右ノ如ク見分ケ易カラサルノ不便ヲ生スルアリ然ルニ假名字ノ如キハ其數唯四十餘字或ハ二十餘字計リナリ斯ク僅々四十カ二十ノ文字ヲ以テ幾千万ノ辭ヲ綴ルコトナレバ其ノ彼此ノ區別ハ唯文字ノ順序ヲ變スル迄ニテ是ヲ見分ケルコトハ唯其ノ順序ノミニ依頼スルコトナレバ其ノ見分ケ難キノ不便アルモ亦免レ難キ道理ナリ例セバツクニクツニクツルノ四語ヲ爲スモ唯クニツルノ三

字カ彼此ノ上ニ在ルト中ニ在ルト下ニ在ルトノ順序ノミニテ之ヲ區別スルコト外ナラス然レバ其ノ數ノ少ナキ假名字ガ形ノ大ニ異ナル數多キ形字ノ如ク見分ケ易カラサルハ明カナリ是亦ヲ視感ノ上ニ取リテハ形字ノ假名字ニ優レル所以ノ一ナリ

勿論世事ハ多ク一得一失アルヲ免レス今假名ニテ書ク一語ハ其ノ形ハ長クレバ例セバオビダダシト書キ長キ形ヲ生スレバ其ノ五字ノ畫數ヲ集ムレバ濁點トモニ十四畫ニテ夥ト云ヘル形字ハ一字ナレバ其ノ畫數ハ又十四畫ナリ然レハ目ニテ見ルモ之ヲ書クモ双方トモニ十四畫ノ手數ヲ爲スハ同様ニテ其異ナル所ハ唯形字ナレハ角ニ大キク一語ヲ造リ假名ナレハ細ク長ク一語ヲ造ルモノト云フ可シ左レハ形字ト音字(假名字ヲ畧稱スルモノト知ルベシ)以下ニハ之ヲ用フルコトアルベシトハ優劣ハ唯方大ナル者ト細長ナル者ト何レカ目ニ都合ヨキ

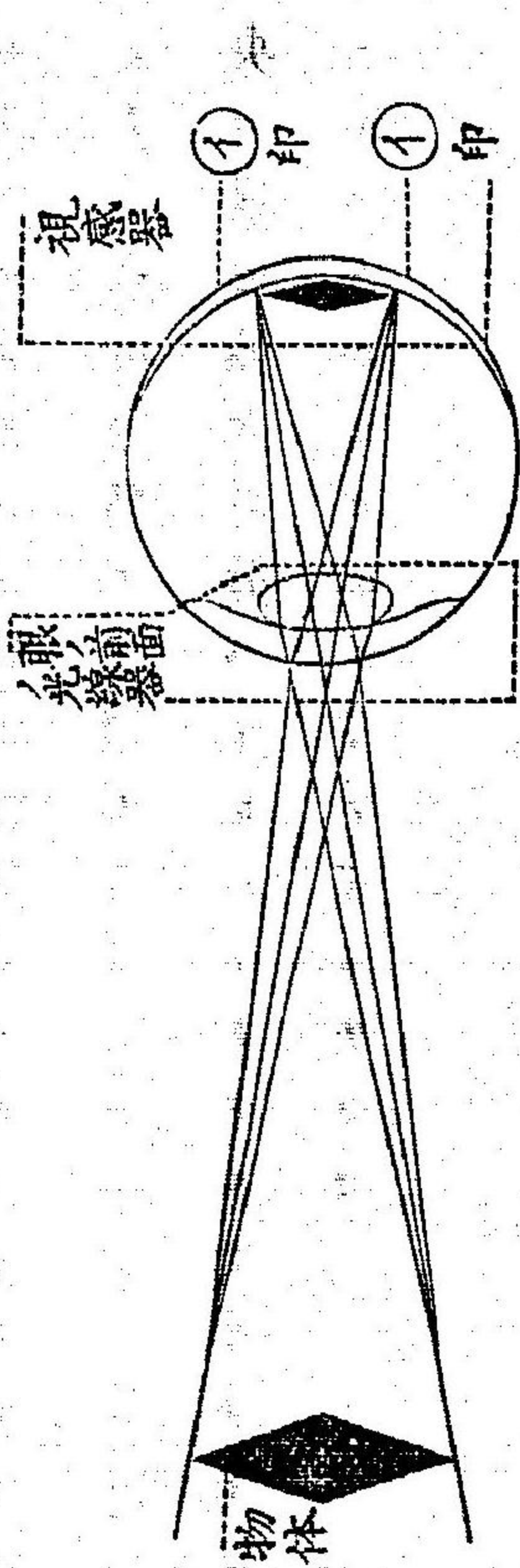
ヤノ一問題ニ外ナラサルナリ
 今凡テ假名体ノ書ト形字ヲ雜用セル書ト孰レカ目ニ便ナルヤ孰レカ
 視感ニ都合ヨキヤヲ考ヘナハ兩体ヲ同様ニ讀ミ得ル人ナラシムルハ其
 ノ十人ノ九人迄ハ形字ヲ雜ヘタル方ヲ甚ダ便ナリト思フ可シ是ハ幾
 ヲド筆ヒ難キ實事ナリ又或ハ假名体ノ讀ミ難キハ未ダ目ニ慣レサル
 ガ故ナリト思フ者モアル可シ然レモ俗ニ草双紙ト唱フル書ノ如キハ
 舊クヨリ世ニ行ハレテ世人ガ幼キ時ヨリ之ヲ讀ミ其ノ目ニ慣レ居ル
 モノナレハ先ツ是ニテ右ノ比較ヲ爲シ見ヨ(田舎源氏トカ云ヘル草双
 紙ノ原本ハ假名ナリシニ近來是ヲ雜文体ニ改メテ出版シタル者アリ
 ト聞ケリ是杯ハ一ハ假名体一ハ雜文体ニテ双方共ニ文章ハ同シキト
 思レハ是ヲ比較ニ用フルニ適當ナル可シ(之ヲ比較セハ雜文体ノ方カ
 甚ダ目ニ便ナルヲ知ル可シ)則チ文字ノ世界ニテハ「方大ナル者」ガ「細長

ナル者」ヨリ大ニ便利ナルヲ知ルヘシ
 右ハ通例世人ノ知レル實事ニテ双方ノ優劣ハ已ニ分明ナル可シト雖
 此道理ヲ極所ニ押シ詰メサレバ承服セヌ人ノアル者ナリ然レバ今人
 身視感ノ理ヨリ是ヲ論スルヨモ必要ナル可シ
 抑モ人類ノ眼球ニハ二ツノ仕組アリテ其ノ一ハ光線ノ規則ニ從ヒ眼
 前ノ物体ノ姿ヲ縮メテ之ヲ目ニ入ル、ノ役目ヲ爲シ他ノ一ハ斯ク目
 ニ入ル所ノ物体ヲ心ニ悟ラシムルノ役目ヲ爲スナリ今、假ニ前ナル
 甲チ光線器ト名ケ乙チ視感器ト名ク可シ
 然ルニ視感器ハ其ノ全面皆一樣ニ物体ノ映射ヲ感スルノ威力ヲ有セ
 ズシテ其ノ部分ニ依リ威力ニ強弱ノ差異ヲ生シ大ナル物体ホド全面
 ノ何レノ處ニテモ之ヲ分明ニ見得可ク小キ物体ホド之ヲ見ルノ部分
 甚ダ狭キ様ニ出來居レリ是則チ方大ナル形字ノ見易クシテ細長ナル

音字ノ見分ケ難キ原因ナリ
 左圖ニ示スガ如シ(第一圖)眼前ノ物体ガ目ノ光線器ニ映射スルキハ光線器ハ是ヲ屈曲シテ縮小シ之ヲ眼球ノ後部ナル①印ノ處ニ映射セシメ①印ハ則チ大切ナル視感器ニシテ下ニ示スガ如キ極微細ナル無數ノ心經是ノ部分ニ散布シテ之ヲ形ツクレリ物体ノ光線ガ光線器ノ爲メニ縮小セラレテ其ノ力ヲ倍シ「パット」①印ニ映射スルキハ①印ノ處ニ在ル心經ヲ觸動ス斯ク觸動セラレタル心經ハ非常ノ速力ヲ以テ忽チヒリ、ト腦ニ感シ始メテ人ノ心ニ其ノ物体ヲ識別スルコトナリ故ニ①印ノ視感器ハ人身ニ於テ最モ大切ナル器械ノ一ニシテ若シ是ノ處ノ心經カ鈍ナランニハ如何ニ眼球ノ前面ナル光線器ガ働クトモ決シテ明カニ物体ヲ見ルコト能ハザル可シ①印ハ則チ眼科家ノ「レチナ」ト稱スル者ト知ル可シ)

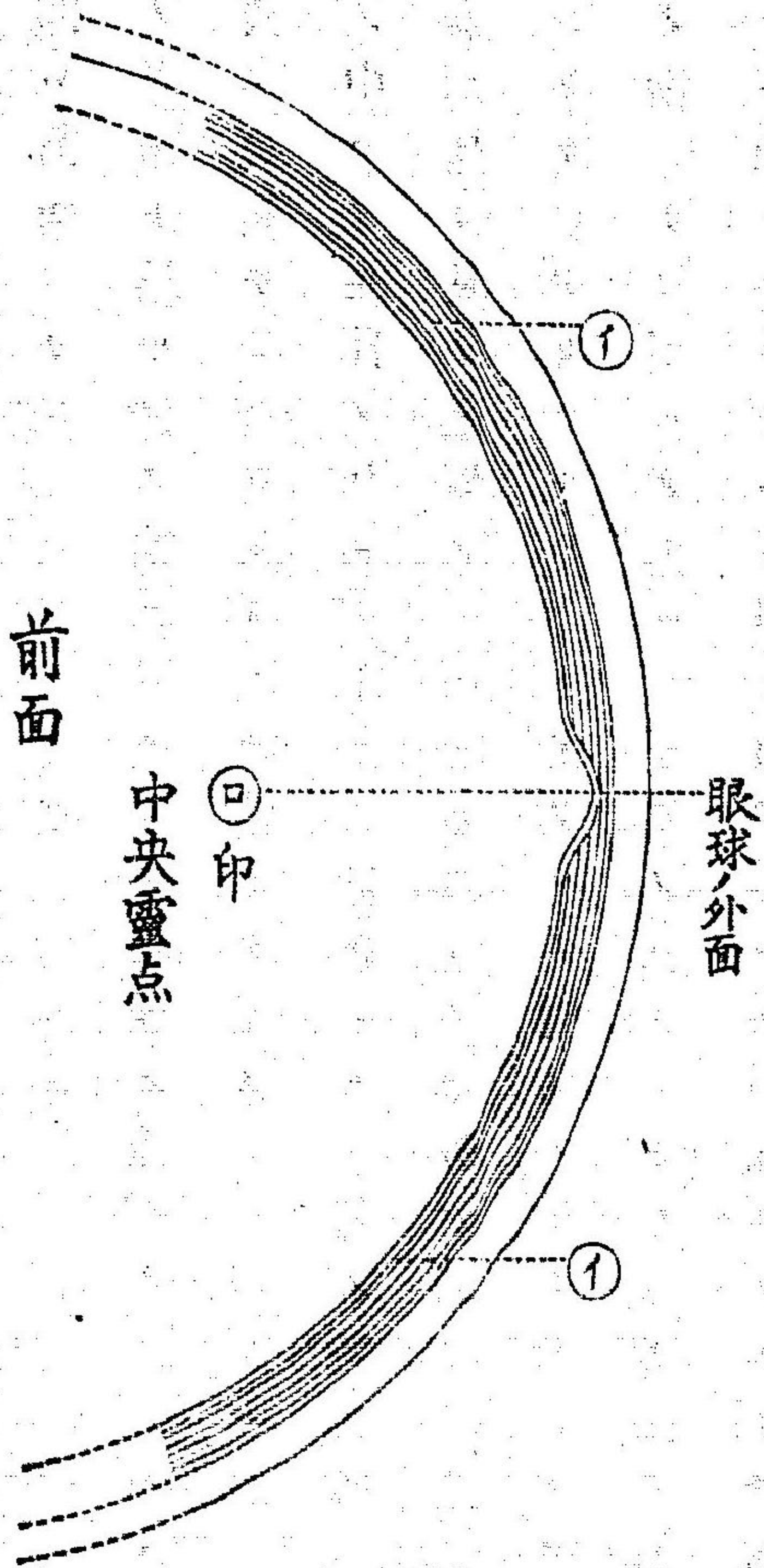
第一圖

物体ノ光線ノ射スル處ニ
 視感器ニ射スル光線



第二圖

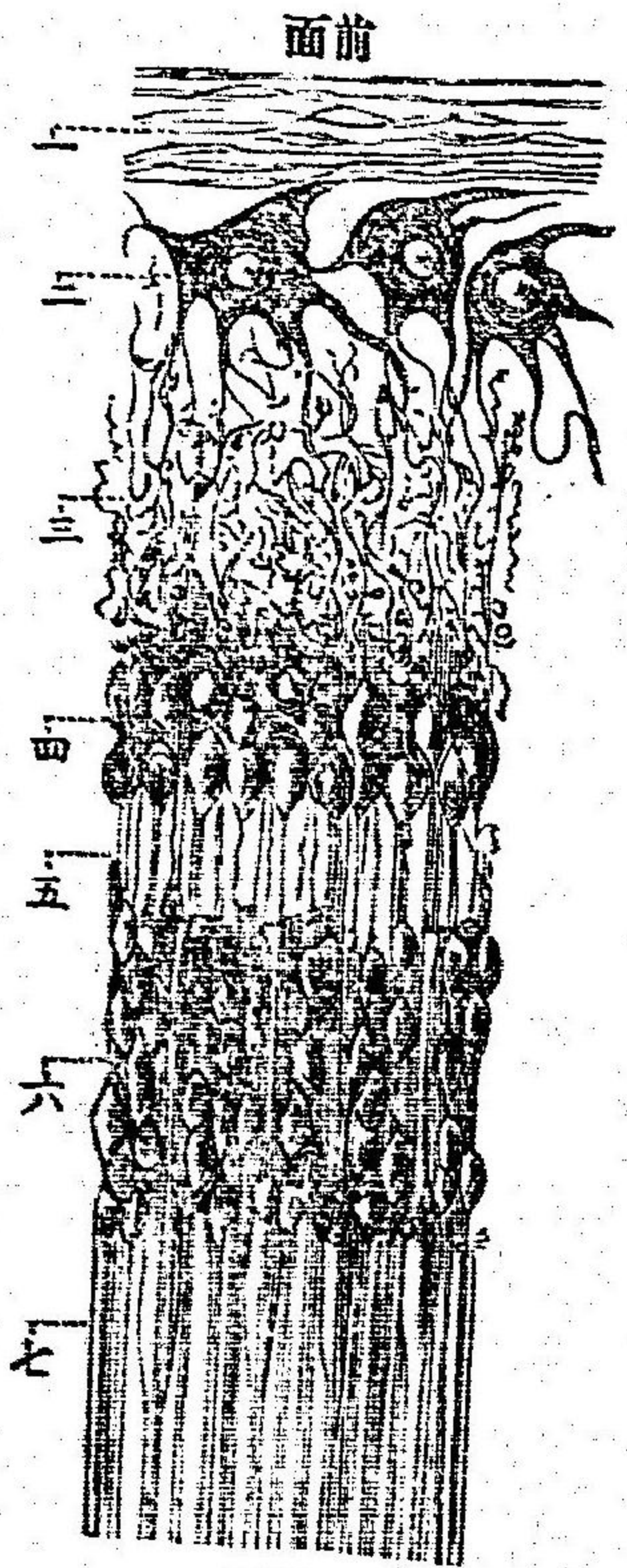
眼球ノ後部ノ内
 面ヲ横ヨリ見タ
 ル處



右第一圖ノ①印ハ前面ヨリ見レバ丸ク平ヲタキモノニテ眼球ノ後ロ
 ニ於テ視心經ノ眼球ト結び付ク處ニ最モ近ク眼球ノ後部ノ内面ニ平
 ラタク凹ミテ其ノ裏面ヲ爲シ居レリ而テ精シク是ヲ吟味スレバ第二
 圖ノ如ク①印ノ中ニ又②印ノ如キ極小ナル凹處アリテ其ノ邊一面ニ
 黄色ノ水汁ヲ蓄ヘ居リ其ノ感覺ノ鋭敏ナルヲ他ノ部分ニ勝レリ是ヲ
 黄點又ハ中央靈點(ホピアセントラル)ト名ク是ノ靈點ノ最モ凹キ處ニ
 於テハ、極細ノ物体ヲ見得ルハ力ヲ有シ、是ハ凹ミノ漸々ト平面ニ變
 スルニ從テ、大ナル物体ニ非ザレバ見ルヲ能ハサルニ至ルナリ、則チ極
 細ノ物体ヲ見ルノ力ハ中央靈點ノ最モ強クシテ中央ヨリ漸々ト其
 ノ威力ヲ減シ中央ニ最モ遠キ部分ニ至レバ至大ナル物体ヲモ唯霞ノ
 中ニ見ルガ如クナルニ至ルナリ尙ホ左ノ諸圖ヲ見ヨ

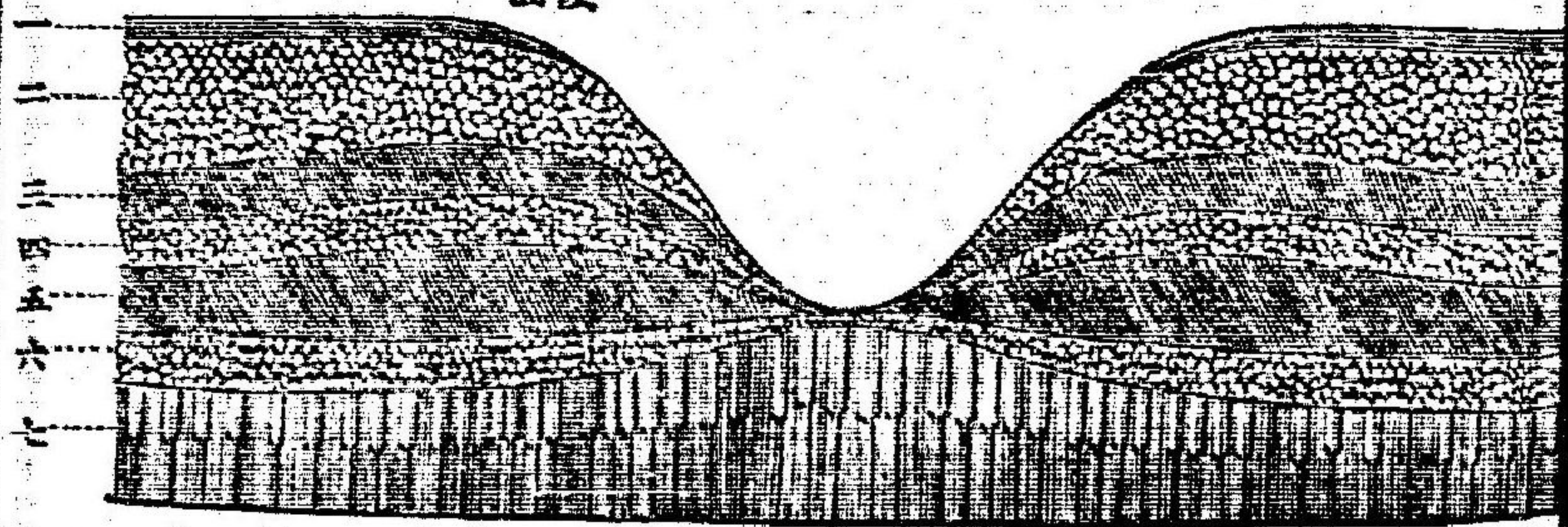
第三圖ノ二

中央靈點ヲ大キク見セタル者



第三圖ノ一

中央靈點ノ心經ノ散布セル構造ナリ此構造ヲ以テ第三圖ノ二ノ如キ全形ヲ爲ス



右面圖ノ七ハ極細ノ圓柱ヲ爲ス心經ニテ此柱ノ長ク細キホド威力強シト云フ

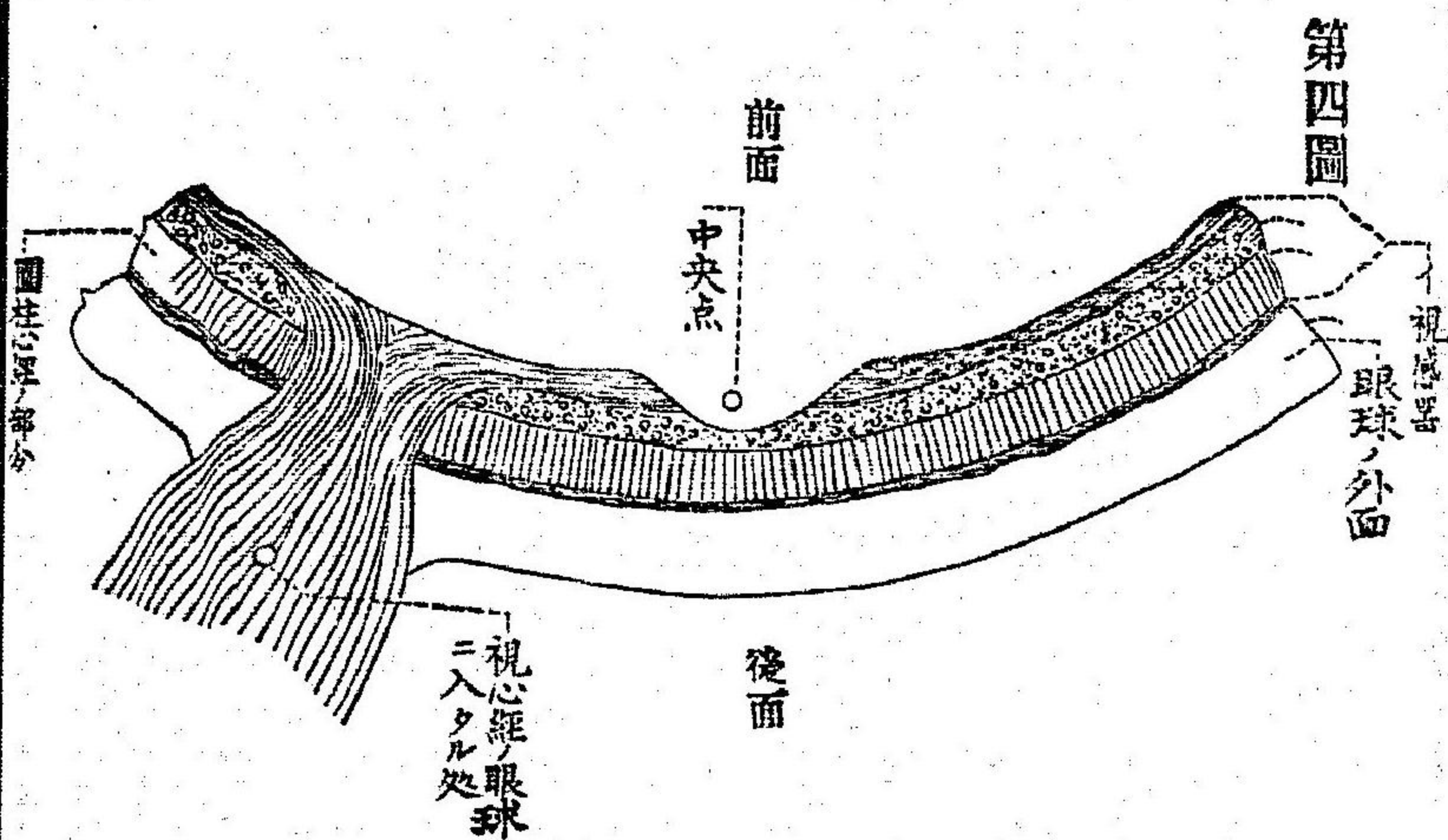
第三圖ノ三

圓柱ノ心經ノ切口

イ 中央ノ最凹處ニテ

ロ ヲシ中央ヨリ隔タリタル處

ハ 凹マサル尋常ノ處

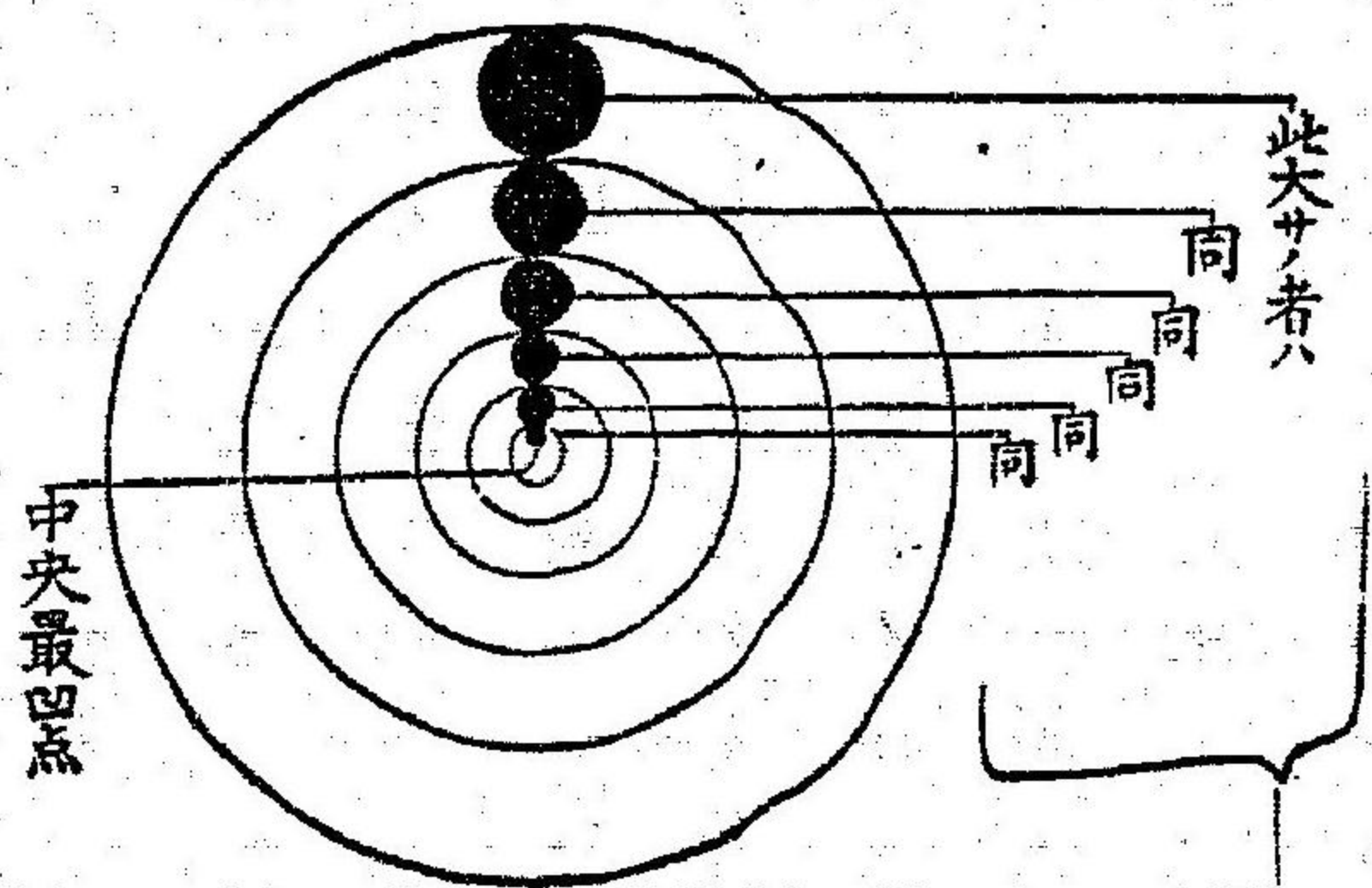


第四圖

右ノ第三圖ヲ以テ視感器ノ構造ヲ知ルヘシ是ノ構造ヲ以テ形ツクレル視感器ノ中央靈點ト心經トノ關係ハ第四圖ヲ以テ之ヲ知ルヘシ中央靈點ノ最凹處ハ則チ最モ心經ノ細シ他ノ部分ニ比ブレハ非常ニ微妙ナルガ故ニ物体ノ光線ガ「パット」[反射スル]ハ之カ爲メニ觸動セラル、一甚タ容易ナリ是レ其ノ感力ノ最モ強キ所以ナ

リ今之ヲ約言セハ視感器ノ全面ハ恰モ摺鉢ノ如ク中凹ニテ其ノ底ハ視感最モ強ク底ヨリ縁ニ至ルニ從ヒ漸々ト其ノ力ヲ感スルナリ故ニ感力ノ強弱ヲ左圖ノ如ク考フルモ可ナリ

第五圖



其線ヨリ内ニテハ何處ニテモ分明ニ見ユレ外ニテハ見エ難キナリ則チ靈點ノ最モ大ナル者ハ全体ノ何處ニテモ見ユ然レ其次ノ大サノ靈點ハ最早ヤ其外部ノ圓線ニテハ見難キナリ其他モ皆同様ニテ其點ノ大サノ圓線ヨリ内ニテハ何處ニテモ見ユレ外側ニ趨エテハ見エサルナリ故ニ小サキ物ト之ヲ見ルノ領分境界甚タ狭キナリ

右ノ如シ視感器ニ感力ノ強弱アルカ故ニ極小サキ物体ヲ見ルコハ其ノ物ヲ中央靈點ノ最凹處ニ來ラシメサル可カラズ今壁紙或ハ唐紙ニ向ヒ其ノ草木花鳥ノ摸樣ノ中ニテ極細カナル摸樣(花ニテモ草木ニテモ)ヲ分明ニ見ント思フトキハ今迄是ヲ眺メ居リナガラ更ニ一層骨折ヲ爲スガ如キノ心地スル者ナリ若シ傍ヨリ是ノ人ノ眼ニ注意セバ其ノ骨折ヲ爲ス時ニ當テ眼球ノ轉スルヲ見ル可シ是レ他ナシ大ニシテ粗ナル摸樣ノ花鳥草木ハ第一圖①印レナナノ全面ノ何レノ處ニテモ之ヲ見得可キモ最小ノ物ヲ見ルニハ中央靈點ノ最凹處ニアラザレハ是ヲ分明ニ見ルヲ能ハザレバナリ故ニ細カナル摸樣ノ花或ハ其ノ他ノ物ヲ分明ニ見ルニハ靈點ノ最凹所ノ感力ノ最モ強キ部分ニ之ヲ入レサル可ラス是其ノ人ノ眼球ヲ轉スル所以ナリ幸ニシテ視感器ノ全面ニハ皆多少ノ感力(部分ニ因テ強弱ノ差ハアレヒ)ヲ有スルガ故ニ細

小ノ物体ヲ凹處ニ入ルヲ甚ダ容易ナルヲ得ルナリ若シ全面ニ多少ノ感力無クシバ細物体ヲ最凹處ニ入ルニ當リ難義ニシテ甚ダ隙ヲ取ルヲ恰モ一眼ノ望遠鏡ヲ用フルガ如ク我カ見ント欲スル物体ヲ目鏡ノ内ニ入ル、迄ニハ幾分ノ時間ヲ費シ暫時ノ間ハマゴツカサルヲ得サル可シ兎ニ角ニ物体ノ大ナルホド之ヲ見ル視感器ノ區域廣ク物体ノ小ナルホド其ノ區域狭キモノナリ

然レバ「方大ニ造リシ形字」ヲ以テ綴リタル書ヲ讀ムニハ之ニ用フル視感器ノ領分甚ダ廣キニ之ニ反シテ假名字ノ書ハ細ク長ク語ヲ綴リ形字ニ比スレバ其ノ字甚ダ細小ナルガ故ニ是ヲ讀ムニ用フル視感器ノ領分ハ甚ダ狭キモノナリ視感器ノ構造斯ノ如クナルガ故ニ假名文ヲ讀ムニハ誠ニ限リ狭キ視感器ノ領分ヲ用ヒ形字ヲ讀ムニハ視感器ノ廣キ領分ノ何處ヲモ用ヒ得可キモノナリ是レ則チ形字ト音字トノ間

ニ知ラズ^レ^ル便不便ヲ感ゼシムル所以ニシテ争フ可ラサルノ道理
 アレハナリ若シ今音字ノ大サヲ常ニ形字ホドニ大ナラシメハ双方ノ
 間ニ優劣ナカルヘシト雖モ形字ハ一字ニテ各々意味ヲ有シ音字ハ字
 ナ重テサレバ意味ヲ生スルヲ能ハス然レハ音字ノ大サヲ形字ト同シ
 カラシムルヲ到底不都合ニテ爲シ能ハサル所ナリ音字ノ書ノ文字
 カ常ニ細小ナルハ是ノ理ニ依ルモノニテ其ノ大サヲ形字ニ齊シカラ
 シメント云フトモ實際ニ行ヒ得ヘカラサル者ナリ

前ノ圖ニ掲ケタル中央靈點ハ非常ニ大キク之ヲ示シタル者ニテ
 是ノ凹點ノ大サハ小サキ針ノ頭ノ十分ノ一ニ過キサルホドノ者
 ナリ此凹點ノ最凹處ニ於テ分明ニ見得ヘキ物体ノ大サハ大家ト
 稱セラル眼科家ノ説ニテハ一寸ノ五千分ノ一ヨリ六千分ノ一迄
 ト爲スモノ多シ尤モ其ノ物体ヲ最モ目ニ分明ニ見ユヘキ距離ニ

置ク者ナリ最凹點ヨリ極少シク隔タリタル處ニテモ最早ヤ十五
 倍ニ物体ヲ大キク爲サレハ分明ニ見得スト云フ然レハ摺鉢ノ
 底トモ云フヘキ最凹處ヲ隔ツルニ從ヒ此割合ニテ物体ノ大サヲ
 倍スルニアラサレハ次第ニ見エ難クナル者ト考ヘテ可ナリ又感
 力ノ強弱ハアレモ視感器ノ全面ニ廣ク感力アルハ明カナリ試ニ
 目ヲ以テ正面ノ一物体ヲ分明ニ見ヨ其ノ物体ヲ中央ノ最凹處ニ
 テ之ヲ見居ルキニモ其ノ他ノ左右上下ノ種々ノ物体皆彷彿トシ
 テ目ニ見ユヘシ是則チ其ノ全面ニ多少ノ感力アル証據ナリ

然レモ世人或ハ曰ハシ「假名ニテ綴リシ一語ヲ讀ムニハ其ノ細小ナル
 字ヲ一々ニ讀ムニ及ハズ數字ヲ以テ作リシ其ノ全形ヲ見テ之ヲ讀ム
 一猶ホ形字ノ形ヲ以テ讀ムガ如クスルヲ得可シト是ハ一理アル説ニ
 テ一々假名字ヲ讀ムニ及ハズ假名ニテ細長ニ作リタル其ノ語ノ全形

ニテ是ヲ讀ミ得ヘシ故ニ形字ノ一。字ト音字ノ一。語トテ比較スヘシ一
 字ト一字トテ以テ之ヲ論ス可ラスト云フノ論ナリ然レモ音字ヲ集メ
 テ作リシ一語ヲ讀ムニ其ノ形ニテ之ヲ讀ミ得ル語ハ極メテ多ク用ヒ
 ラル、者ニ限リ大抵十ノ七八ハ其ノ語ヲ作ルノ字ヲタドリテ讀ム
 ナリ勿論非常ノ速力ニテタドルヲナルガ故ニ人々之ニ心附カサル
 多シ英佛杯ニテ「近体」ト唱ヘ書籍ニ用フル文字ハ語ヲ綴リ形ヲ爲サシ
 ムル様ニ工夫シアレハ其ノ各語ノ形ノ見分ケ難キヲ日本ノ假名文ノ
 比ニアラサルナリ然ルモ尙ホ視感學者ハ之ヲ論シテ文字ヲ「タドル者
 ト爲シ其ノ語ノ全形」一時ニ見ルニアラスト爲セリ然レハ日本ノ假
 名文ノ形ヲ爲スヲ少ナキ者ニ至テハ尙更ラ一語ヲ形ニテ一時ニ見得
 ヘキニアラス
 細長ニ作リシ語ヲハ一時ニ其ノ全形ヲ見得スレテ之ヲ一方ノ端ヨリ

一方ノ端ニタドリ讀ムニ方大ナル文字ハ之ニ反シテ一時ニ之ヲ見得
 ルハ何故ナルヤノ疑問ハ世人ガ實際ニ經驗セバ甚ク分明ニ知事得ヘ
 キ事柄ナリ然レモ理屈ヲ悦ブ人ノ爲メニ人身ノ光線器「アイジヨロシカ
 ル」ヲブナクヨリ是ノ理ヲ零説ス可シ

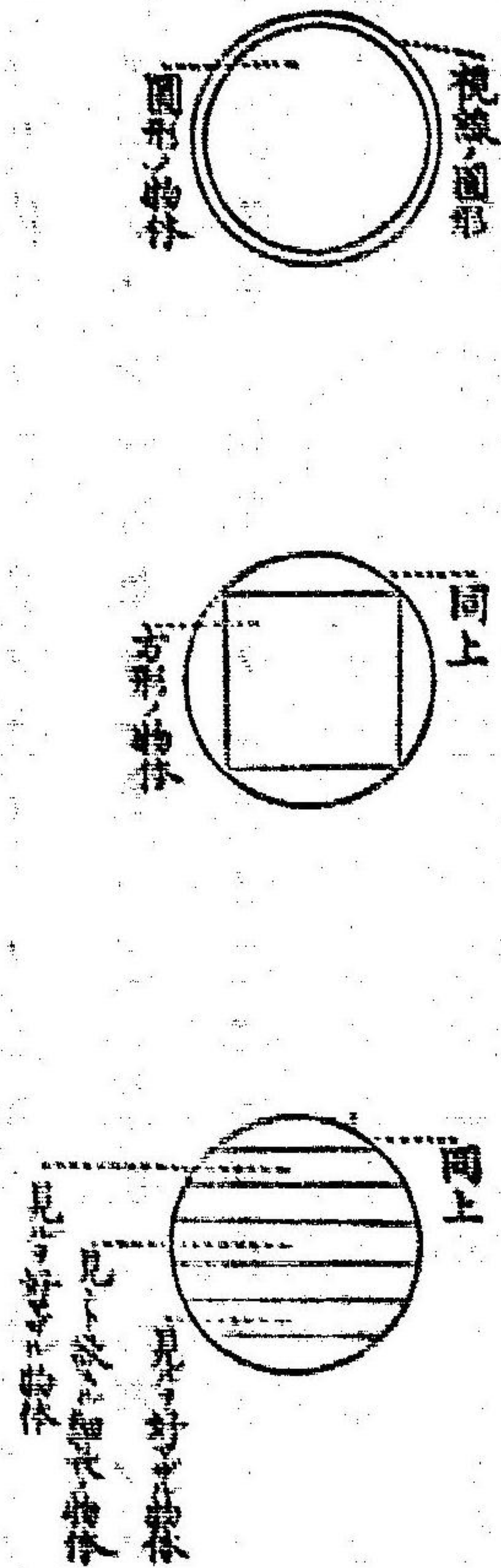
左ノ第六圖ニ示スガ如ク前面ナル諸物体ヲ成ル可ク多ク一處ニ集メ
 ント欲スレハ「光線」ノ規則上ニテハ「中凸ナル圓形」ノ目鏡ヲ用ヒサル可
 カラス是ヲ用フレバ其ノ前面ハ勿論上下左右九十度迄ノ物体ヲ淺サ
 ズ一處ニ映射セシメ目鏡ノ後面ニ於テ是ヲ縮小セル形ヲ生ゼシム可
 シ故ニ是ノ理ニ從テ動物ノ目ハ成ル可ク八方ノ物体ヲ縮小シ是ヲ見
 得シカ爲メニ其ノ眼球ノ前部ナル光線器ノ部分ハ大概ヲ皆ナ中凸ナ
 ル目鏡ノ如ク出來居レリ若シ斯ノ如キ中凸ノ圓形ナラズレテ「平面」ノ
 圓形ナランニハ唯正面ノ物体ノミヲ見得ルモ側面或ハ斜面ノ物体ヲ

見ル能ハズレテ其ノ不便實ニ大ナル可キナリ扱ケ中凸圓形ノ目鏡ガ
 全面斜側面ノ物体ヲ映射セシメテ之ヲ其ノ後面ニ縮小スルニ當テ
 ハ必ズ圓形ヲ爲スモノナリ全面ノ物体ハ其ノ後面ニ丸ク小サク纏ル
 ナリ夫ノ寫真劑ノ用フル寫真器械ノ目鏡ハ人類ノ眼球ノ光線器ト同
 様ニ中凸圓形ノ目鏡ヲ用フルモノナリ故ニ是ノ器械ニテ全面ノ物体
 ナ目鏡ノ後面ニ縮小スルヲ見ヨ必ズ圓形ヲ爲シ居レリ凡テ中凸圓
 形ノ目鏡ニテ其ノ前ナル光線ヲ集メ是ヲ後ニ縮小スルハ必ズ又小
 サキ圓形ヲ生スルモノニテ目鏡ヲ以テ天日ヲ寫シ物ヲ焚ク前ニハ其
 ノ光線ノ集マリ必ズ圓形ヲ爲スヲ以テ是ヲ知ル可シ是ノ理ハ窮理書
 ノ光線ノ部ヲ讀ミシ人々ハ無論熟知シ居ル可キ事柄ナリ人類ノ光線
 器ハ斯ク物体ヲ圓ク縮小スルモノナルカ故ニ一寸ト見テ人ノ目ニ都
 合ヨキハ圓形ノ物ヲ最上トシ方形ノ者ヲ其ノ次トシ細長ノ物ヲ最下

等トス何トナレハ細長ノ物一目ニ一時ニ見ント欲スルハ必ズ其ノ
 上下或ハ左右ニ不用ナル物体ヲ見ルヲ免レズ其ノ見ント欲スル物体
 ト視圖トノ狀ハ恰モ猶ホ丸ニ一ツ引キノ紋ノ如シ(一)是ノ圓線ハ人ノ
 目ノ是非トモ見ル可キ圓形ニシテ中ノ長キ一線ハ我カ心ニテ見ント
 欲スル細長ノ物体ナリ總テ人ノ眼モ一ノ器械ニテ器械上ノ規則ニ從
 ハサルヲ得サルモノナレハ如何ニ我カ心ハ圓内ノ一線ノヨリ見ント
 欲スルトモ我ガ光線器ハ圓線ノ全部ヲ見サルヲ得ス決シテ其ノ力ヲ
 細長ノ一線ノミニ限ルヲ能ハサルナリ故ニ細長形ノ物体ナリ一時ニ見
 ント欲スルハ其ノ物ノ近傍ニ在ル(圓線内ノ)物体ハ凡テ同時ニ眼中
 ニ入り來テ視感ヲ感ハシ人ヲシテ甚ク紛ラハシキ思ヒヲ生セシム故
 ニ細長形ノ物体ヲ見ルニハ是非トモ是ノ紛ラハシキヲ避ルクメ眼球
 ハ一方ノ端ヨリ一方ノ端マデ細長ノ細ヲタドリ見サルヲ得サルモノ

ナリ決シテ分明ニ一時ニ細長ノ物体ヲノミ見ル能ハス左圖ヲ見テ其ノ大畧ヲ知ル可シ

第六圖 圓形ノ視線ニ物体ノ映射スル畧圖



右ノ如ク圓形及ヒ方形ノ物体ハ視線内ニ在ルコト多キニ細長ノ物体ハ之ニ反シ視線内ニ不用ノ領分ヲ生シテ他ノ物体ヲ入り來ラシメ甚ク視感ニ煩ハシキガ故ニ音字ニテ作りシ細長ノ語ヲ讀ムニハ其ノ片ヲ端ヨリ細小ノ字ヲタドリ(或ハ形ヲタドリ)一方ノ端ニ至ルモノナリ若

シ斯ク爲サズシテ其ノ語ノ細長ナル全形ヲ一時ニ見ント欲スル時ハ圓キ視線内ニ他ノ不用ナル文字文句入り來テ目ニ紛ラハシク甚ク不都合ナレバナリ方形ノ字ハ是ニ反シ極分明ナラサルモ大抵ニ見分テ得可キホドニハ其ノ全形ヲ一時ニ圓キ視線内ニ入テレムルヲ得ルカ故ニ決シテ片端ヨリ片端マデ目ヲタドラシムルノ勞少ナキナリ細長ノ假名文ヲ讀ムニハ(日本ノ假名コトモ羅馬字コトモ)目ノ勞レ甚ク漢字ヲ交ヘタル書ヲ讀ムニハ其ノ勞レ輕キ様ニ覺ユルハ則チ是ノ理ニ依ルモノナリ

又一字一語ノ上ニ就テ斯ノ如ク優劣ヲ生スルガ故ニ一行ノ上ニモ亦長ク短ク短ク長ク短ク長クトノ差違ヲ生スルコト左圖ノ如シ(左圖ハ豎ニ見テ比較スルモ亦洋文ノ如ク横ニ見テ比較スルモ同様ナリ是ノ章ノ諸例諸圖ハ皆チ和洋ノ兩文ヲ比較シ得ル様ニ爲セリ)又或ハ形字

ト音字トハ一字一語ノ上ニテ之ヲ見ルニ遲速ノ便不便アルモ形字ナレハトテ一行ハ一行ニテ片端ヨリ片端マデタドリ讀マサルヲ得サレハ同シク一行ノ長線ヲダドルコナレハ双方ノ優劣ハ一行ノ上ニテハ

第七圖ノ一

「最上中點ニ於テ片端ヨリ片端マデ長ク」

以	善
小	無
不	爲

「同壹寸六分ノ長ク」

ナ	ゼ
サ	ン
ハ	シ
ル	ヨ
コ	ウ
ト	ナ
ナ	ル
カ	ヲ
レ	モ
ヨ	ツ
	テ

第七圖ノ二

「中點同」

以	善
小	無
不	爲
以	惡
小	無
爲	之

「中點同」

ナ	ゼ
サ	ン
ハ	シ
ル	ヨ
コ	ウ
ト	ナ
ナ	ル
カ	ヲ
レ	モ
ヨ	ツ
	テ

右ナレハ十二度中點ヲ見テ解シ相ヘシ目ノ勢少ナキナリ

右ナレハ四十六度中點ヲ見サレハ解スル「能ハス目ノ勢甚クキナリ」

格別ノ差異ナシト思フ者モアルヘシ然レモ決シテ左様ニアラス人ノ眼ハ一行ヲダドルニ當テ其ノ見ルヘキ物体ヲノミ見テ通り行クコトナレハ形字ト音字ト一行ノ上ニテ得失アルコト第七圖ノ二ノ如クナルニ至ルナリ

右ノ第七圖ノ一ノ如ク音字ノ文ハ目ヲダラシムルコト長ク形字ノ文ハ甚ク短ク加フルニ方大ノ形字ナレハ是ヲ見ル可キ視感器ノ領分廣ク音字文ナレハ細小ナルガ故ニ是ヲ見ルノ領分狭ク人ノ目ヲ勢スルコト實ニ甚シキヲ考ヘナハ双方ノ得失亦明カナル可シ又長クダラザレハ見分ク難キ音字ヲ用ヒタル一冊ノ書ヲ讀ムト一時ニ全形ヲ見分ク易キ形字ヲ用ヒタル一冊ノ書ヲ讀ムト比較セバ音字ノ書ハ目ヲダラシムル「和文ナレハ上ヨリ下ニ洋文ナレハ左ヨリ右ニ」幾ソド形字ノ書ニ幾倍スルコト左圖ノ如クナル可シ

一画——以善小無不為

二画——以惡小無為之

右ナレハ目サタドラシムル一唯ニテ清ムヘシ

一画——ゼンハシヨウナルヲモツテ

二画——ナサノルコトナカレテ小

三画——レヨウナルヲモツテコレヲ

四画——ナスコトナカレヨ

右ナレハ目サタドラシムル一唯ニテ清ムヘシ

幾回モ……モ上ヨリ
下ニ或ハ左ヨリ右ニ目
ヲ使フコトノ多少ハ則チ
視感ヲ疲ラシムルノ多
少ナレハ音字形字ノ優
劣ハ多辯ヲ俟タズシテ
明カナリ尋常ノ經驗ニ
テ音字文ト形字文トハ

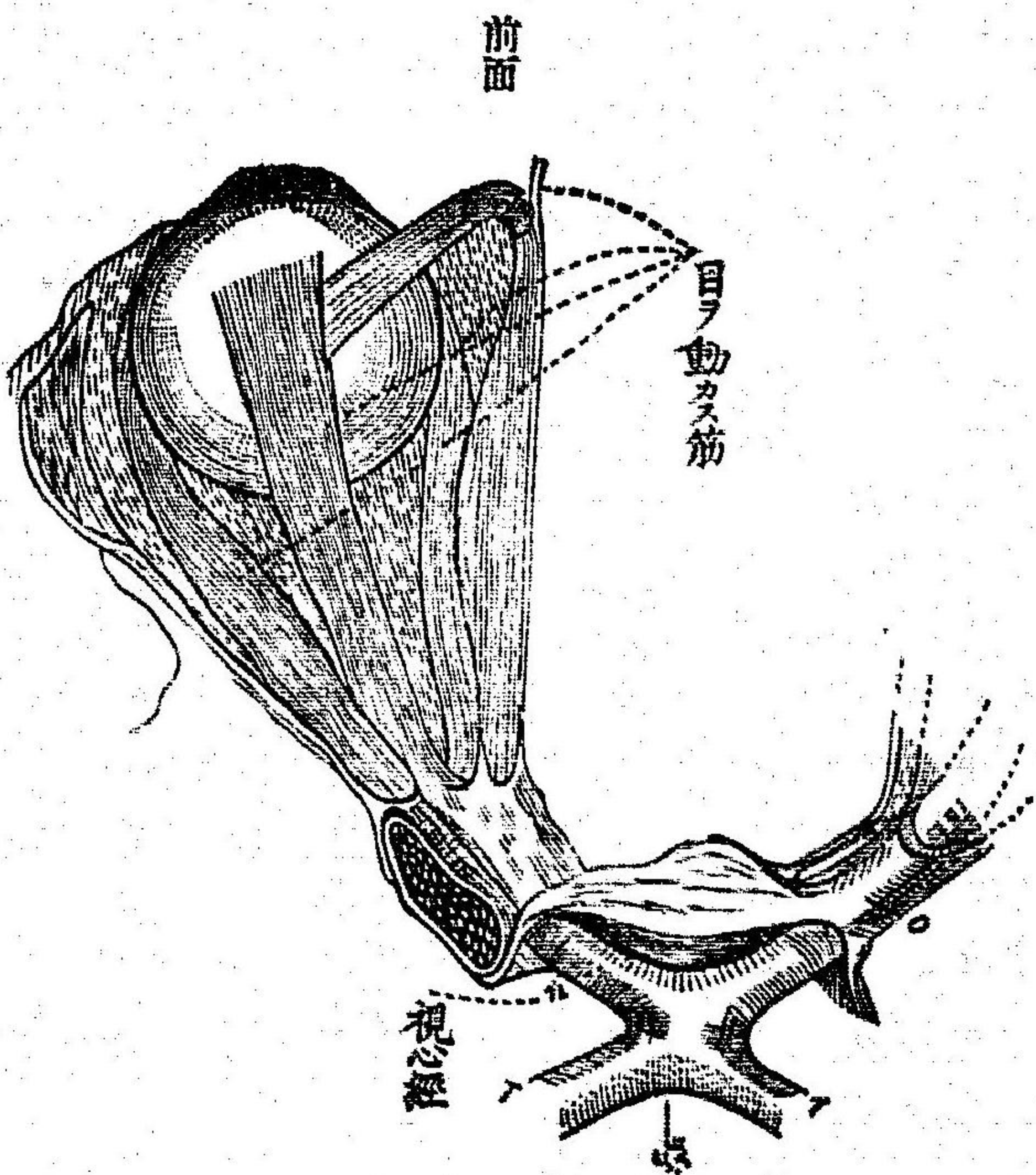
甲ノ行數ノ乙ヨリ長キヲ幾ンド一倍ナルガ如シ尤モ音字ヲ小ニシ其
ノ間隔ヲ減スレハ斯ル差異ヲ免レサルカ如シ
又茲ニ上ニ述ヘタルトハ全ク異ナル一事アリ序ナレハ是ヲ零論セン
ニ洋文ノ如ク左ヨリ右ニ字ヲ讀ムト和文ノ如ク上ヨリ下ニ字ヲ讀ム

第八圖

第九

第九

第九



右ハ唯左眼ヲノミ示スモノニテ右眼モ之ト同様ナリ眼ヲ下ニ動カ
ス筋ハ眼ヲ上ニ動カス筋ノ下ニナリテ此圖ニハ見エヌト知ルヘシ
視神經ノ眼ヲ入リタル處モ見エヌ右モ同筋ニ違キラレテ見エサ
ルナリ

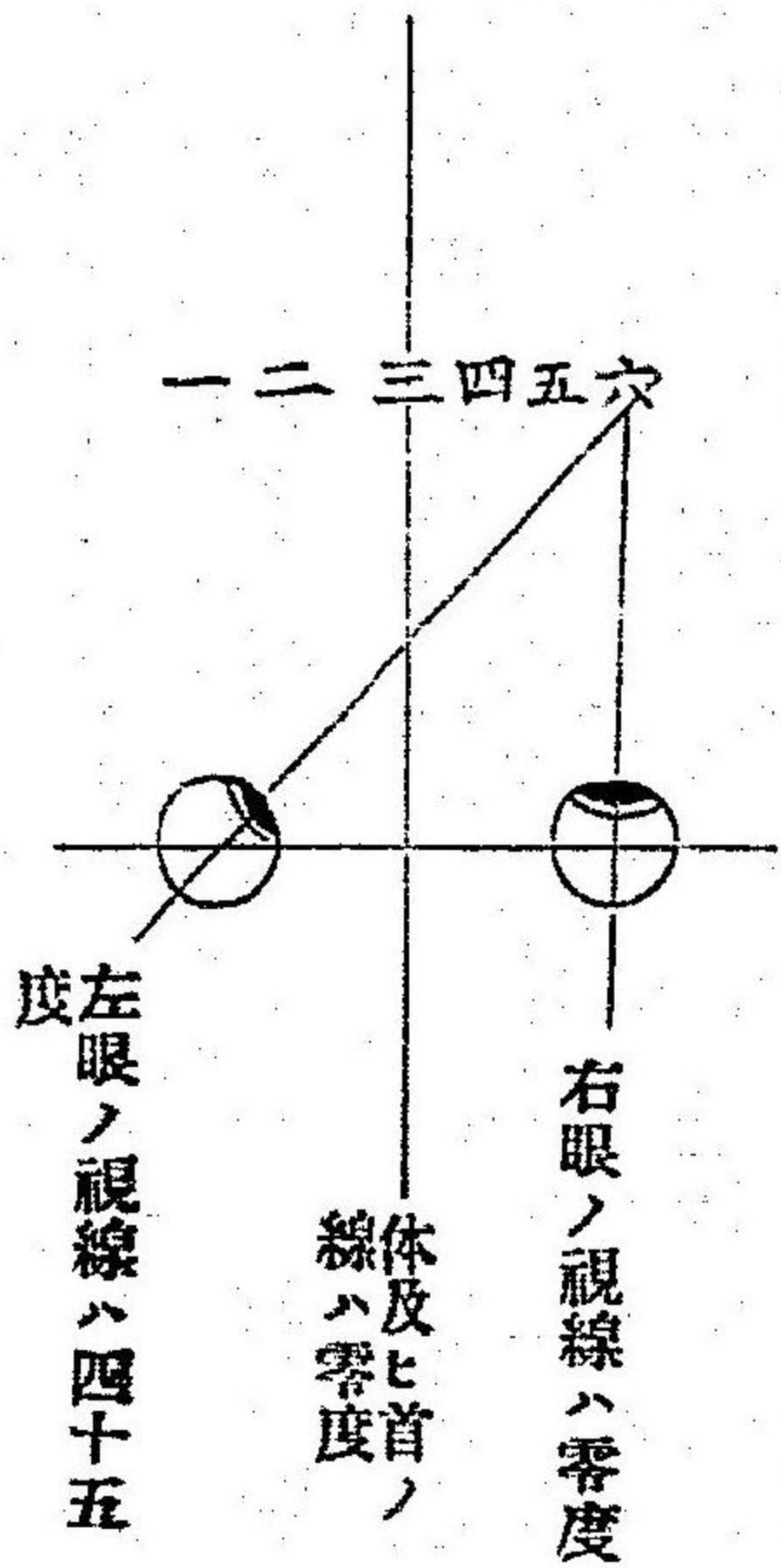
ト何レカ視感ニ便ナ
ルヤノ一問題はナリ
西書ノ將ニ盛ナラン
トセシ時ノ洋學生杯
ノ言ヒシ如ク目ハ横
ニ細長キガ故ニ横ニ
讀ムハ便利ナリト論
シ去ランモ餘リ理屈
淺クレハ少クシテ眼球
ノ動キ方ヲ零記シ置
ク可シ左圖ノ如ク眼
球ニハ總數五箇ノ筋

アリテ其ノ一ハ上ニ動カシ其ノ一ハ下ニ動カシ其ノ一ハ右ニ其ノ一ハ左ニ動カシ又他ノ一ハ目ヲ旋轉セシムルノ用ヲ爲スモノナリ
 右ノ如クナレバ目ヲ上ヨリ下ニ動カストモ左ヨリ右ニ動カストモ双方ノ間ニ大ナル便不便ノ差違アルヲ見ズ然レモ深ク穿テ吟味スルト
 キハ双方トモ一得一失アリ左ヨリ右ニ或ハ右ヨリ左ニ目ヲ轉スル
 ニハ^{アチ}睫ヲ動カスニ及バズ然ルニ上ヨリ下ニ目ヲ轉スルニハ少シク之
 ヲ動カサ、ルヲ得ス故ニ東洋文ヲ讀ムニハ光線黒及ヒ視感器ニハ何
 ノ不便ナキモ其ノ附屬部ナル睫ヲ動カスノ勞アリ是レ東洋文ノ少シ
 シ西洋文ニ劣ル所ナリ然レモ亦タ横文ヲ讀ムニハ兩眼ノ交視線ヲ一
 語ゴトニ變スルノ勞アリテ左眼ト右眼トノ角度少シク隔タルニ至レ
 ハ不快ヲ感スルガ故ニ常ニ絶エス顔ノ方向ヲ轉シテ是ヲ避サル可ラ
 ス故ニ横文ノ一行ヲ讀ムニハ兩眼ノ交視線ヲ疲ラシ從テ首ヲ動カス

「甚シキハ是則チ西洋文ノ東洋文ニ劣ル所ナリ左圖ヲ見ヨ」

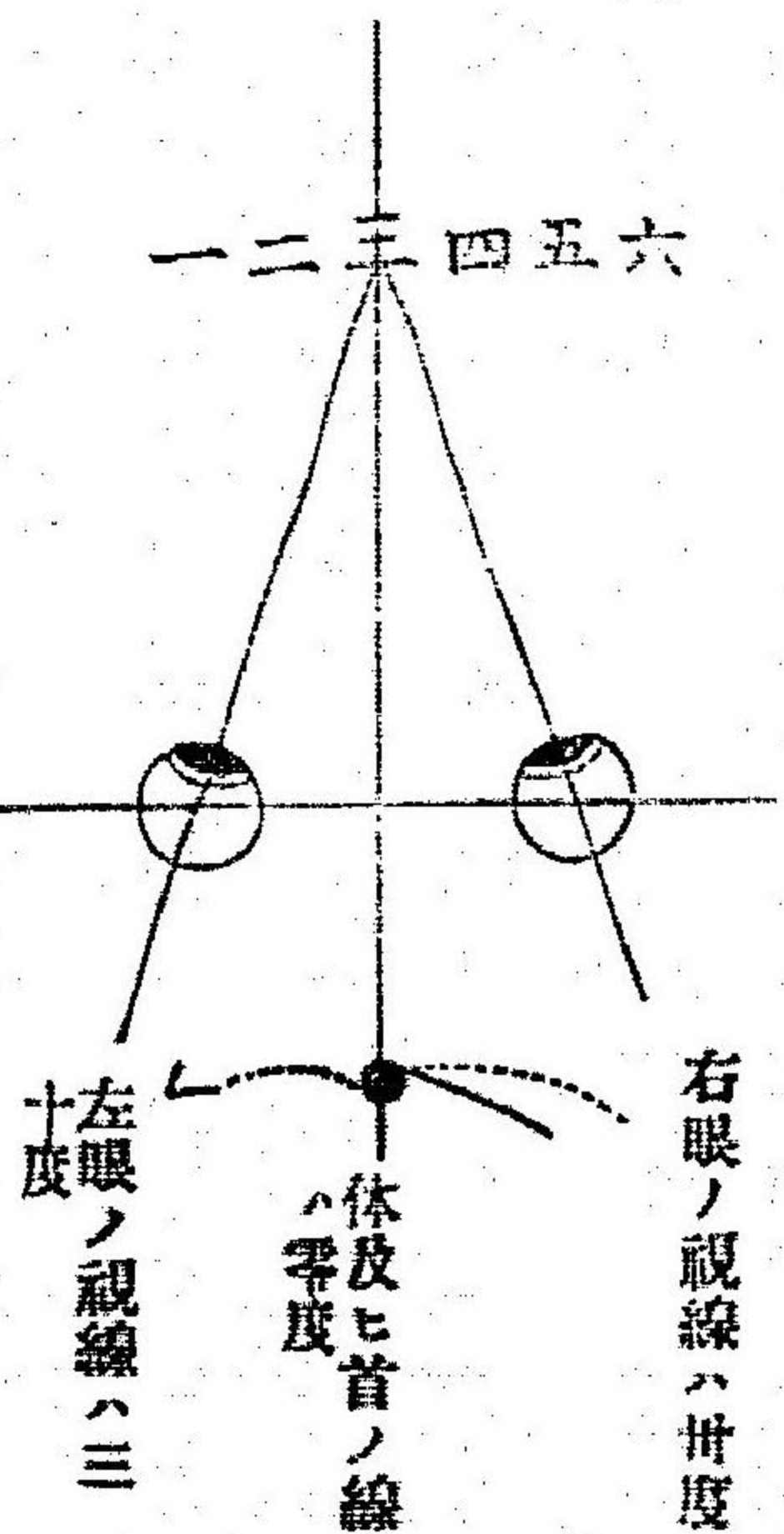
第十圖ノ一

兩眼ノ交視線「六」ノ字ニ集マリシ處



同二

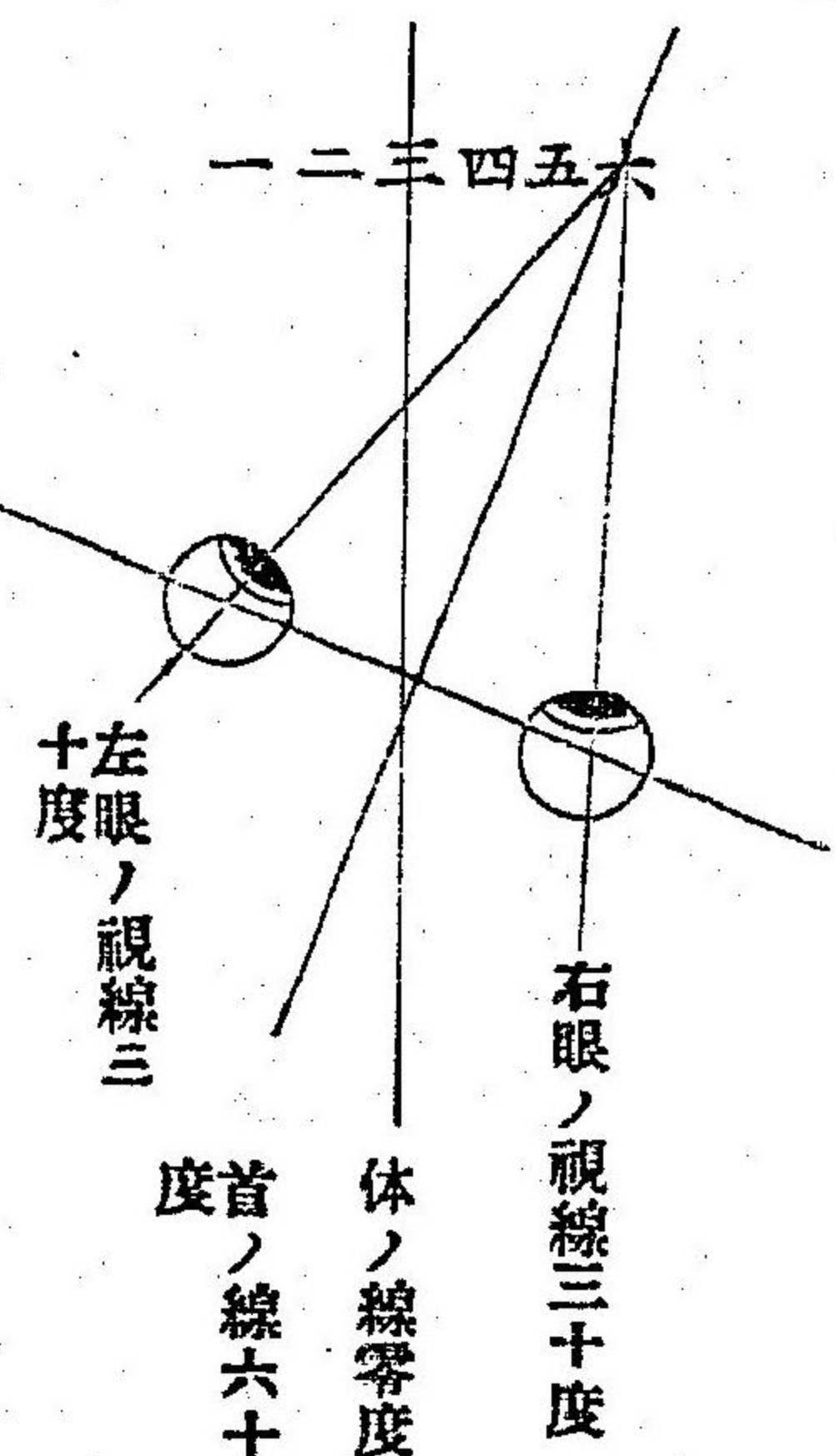
兩眼ノ交視線「三」ノ字ニ集マリシ處



然レハ和文ニハ一行毎ニ睫ヲ動カスヲ夥シキノ勞アリ(一枚ノ上ニテ
 ハ首ヲ動カスノ勞アレモ一行ニ就テハ之レナシ)又洋文ノ方ハ一行毎
 ニ首ヲ動カスノ勞アリ(一枚ニ就テ睫ヲ動カスノ勞ハ少ナタレモ)是則
 チ兩者ノ優劣ナリ然レモ僅カ是程ノ得失ヲ以テ一方ヲ選ブノ理由ト

第十圖ノ三

首ヲ動カシテ兩眼ノ交視線ノ度ヲ同クセシ處

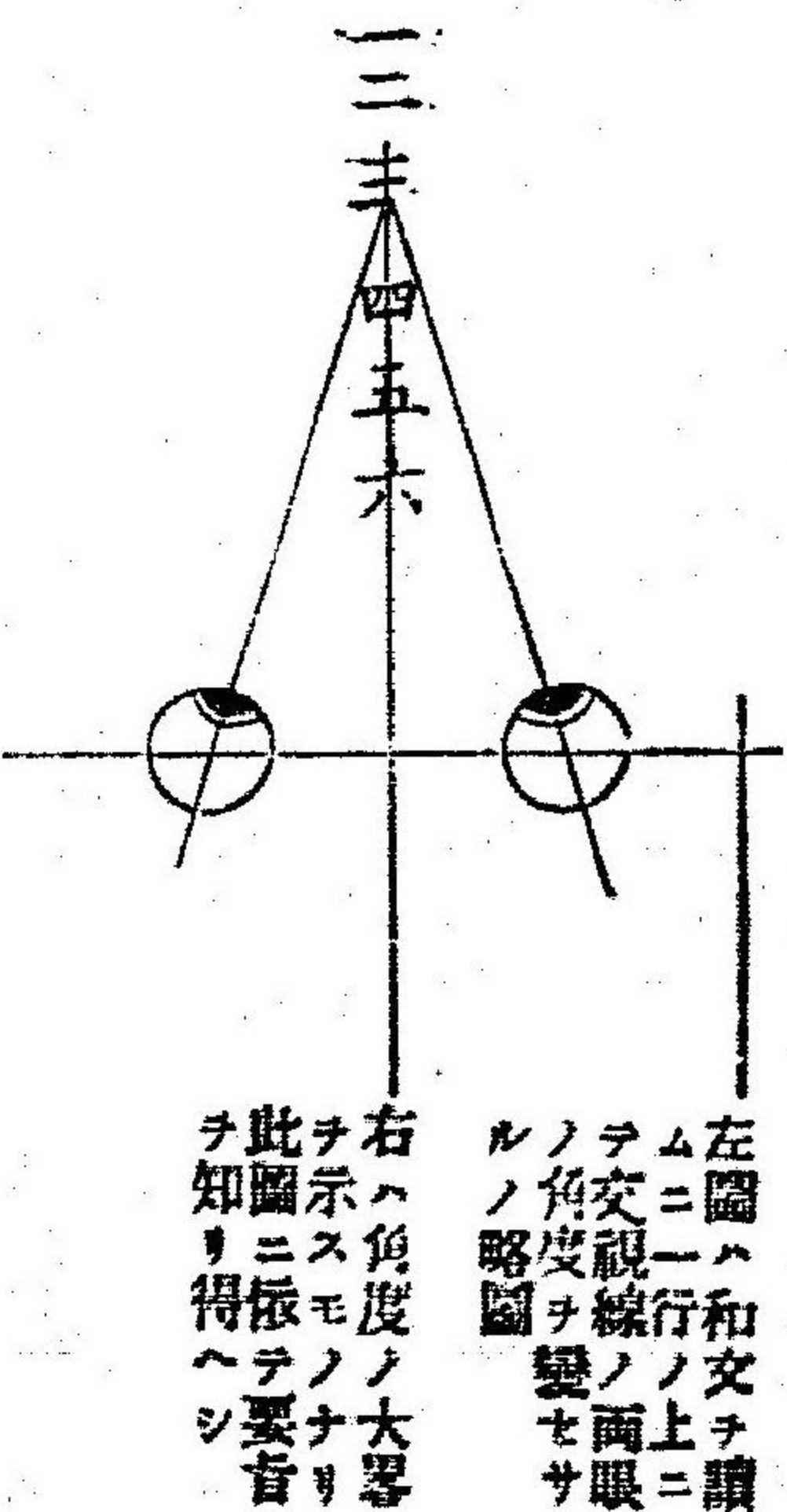


右ノ第一、第二、第三ハ横文ヲ左ヨリ右ニ讀ムニ當
リ一行ノ上ニテ始メハ第一圖ノ如クナルモ中ニハ
第二圖ノ如ク交視ノ兩眼ノ角度相ヒ異ニシテ眼ニ
苦テ感シ第三圖ノ如ク首ヲ動カシテ之ヲ免レント
スルモノナリ

ハ爲シ難シト云フヘシ

又文字ヲ書スル上ヨリ之ヲ論スルモ形字ハ音字ニ勝ルノ便アルニ似

同四



タリ今試ニ一語ヲ形字ノ楷書ニテ之ヲ書スルト日本ノ片假名或ハ羅
馬字ノ古体(カピタル、レタート唱フル楷書体)ニテ之ヲ書スルト何レカ
便ナルヤヲ比較シ見ヨ又草書ニテ双方ヲ書シ其ノ何レカ便ナルヤヲ
比較シ見ヨ兩体トモニ形字ノ方ニ幾分ノ便アリト思フヘシ何トナレ
ハ形字ハ方大ナルカ故ニ一語ヲ書スルニハ通例其ノ指ニテ筆端ヲ左
右上下ニ動カシ得ルヲ以テ其ノ腕ノ位置ヲ變スルヲ甚ク少ナシ然ル
ニ是ニ反シテ音字ハ細長ニ一語ヲ書スルカ故ニ其ノ腕ノ位置ヲ幾ン
ド絶ニス是ヲ動カサ、ルヲ得ス是ハ未ダ深ク窮メタル論ニハアテテ
ト先ツ通例ハ斯ノ如キニ似タリ左レハ文字ヲ書スルノ上ニ於テ形字
ハ又音字ニ勝ルカ如シ然レトモ是ノ事モ亦タ一得一失ニテ音字ハ其ノ
始メ之ヲ學フニ其ノ數少ナシ形字ハ之ヲ學フニ當テ其ノ數甚ク多キ
ニ堪ヘス是ノ點ニ於テハ形字ハ音字ニ劣ル者ト云フヘシ

左リナガラ文字ノ便否ヲ考フルハ專ラ視感ノ上ヨリ是ヲ判定スルヲ實際ノ利益ヲ謀ル者トスヘシ之ヲ書スルノ損得ハ今日ニテハ甚ダ大ナラサル者ナリ其ノ仔細ハ古代ニ於テハ今日ノ如ク印刷ノ便利少ナカリシカ故ニ其ノ書籍ハ大概手ヲ用ヒテ之ヲ書寫セルモノナリ故ニ斯ル時代ニ於テハ文字ヲ書スルノ遲速便否ハ人民ノ知識ヲ廣ムルニ非常ノ關係ヲ有シタルモノナリ然ルニ漸々ト世ノ開化スルニ從テ印刷ノ便ハ非常ニ増加シ今日ニテハ僅カニ百枚二百枚ノ小片紙ニ書スル短文スラ是ヲ印刷スルヲ以テ便利ト爲スニ至レリ然レバ今日ニ於テ多ク文字ヲ書スル者ハ傍聽筆記者新聞記者著述家ノ類ニ過キス而テ筆記者ノ世界ニハ已ニ一種ノ速記法ナル者ヲ用フルト爲リ尋常ノ文字ヲ用ヒス又著述家及ヒ新聞記者ノ類ハ其ノ數限リアル者ニテ千万人ノ中ニテ僅ニ二三人ニ上ラサル程ノ割合ナリ其ノ他一般ノ

世人ノ文字ヲ書スル場合ハ一週ニ二三度ノ書翰ヲ認ムルカ或ハ一寸ト日記ニテモ記スルニ過キサル者ナリ文字ヲ書スルノ場合ハ斯ノ如ク稀ナルニ文字ヲ見ル世界ハ之ニ反シテ非常ニ廣ガリタル者ナリ昔ナラバ一日ニ一字ヲモ見ルコト無カルヘキ婦人子供迄モ今日ニテハ新聞誌杯ヲ讀ムニ至リ又印刷ノ便利トナルニ從テ書籍ノ價モ甚ダ廉ト爲リ昔ナラハ王公貴人ノ外ハ手ニ觸レ難キ書籍サヘ今日ハ中等以下ノ生活ノ人民カ之ヲ自由ニ繙キ得ルニ至レリ左レハ文字ヲ見ルコトハ昔ヨリ廣カリシコト幾十倍ナルヲ知ル可カラズ今日幾百万卷ノ書ハ皆印刷スルコト爲テ之ヲ手寫スル場合ヲ減シタルニ之ヲ見ルノ世界ハ非常ニ廣ガリタル者ト云フ可シ故ニ今日ニ於テ文字ノ便否ヲ判定スルニハ之ヲ手寫スルノ便否ヨリ寧ロ人身視感ノ上ヨリ專ラ是ヲ觀察スルヲ以テ實際ノ便益ヲ謀ル者ト爲ス可シ若シ文字ヲ書スルニ非常

ナル優劣アルニアラザレハ先ツ是ヲ以テ比較ニ用ヒサルコソ然ルヘシ
 今是ノ章首ヨリ述ヘ來リシ大意ヲ約言スレハ第一形字ハ大ナルガ故
 ニ視感器ヲ勞スルコト少ナク音字ハ小ナルガ故ニ之ヲ勞スルコト多キナ
 リ又第二ニ形字ハ各々著ルシク相ヒ異ナルガ故ニ甲乙彼此ヲ區別シ
 易キノ便アルニ音字ハ唯文字ノ順序ヲ變シテ千万ノ語ヲ作ルカ故ニ
 甲乙彼此ヲ區別シ易カラサルノ不便アリ又第三ニ形字ハ方ナルガ故
 ニ圓形ナル光線器ノ内ニ全形ヲ一時ニ見分ケ得ルノ便アルニ音字ハ
 細長ニ一語ヲ作ルカ故ニ之ヲ一時ニ圓形ナル光線器ノ内ニ入ラシム
 ル能ハスシテ片端ヨリ片端マデ之ヲ見サルヲ得サルノ不便アリ又第
 四ニ形字ノ一行ヲ讀過スルニハ視線ノ中點少ナキニ音字ノ一行ニハ
 中點ノ數多クシテ目ヲ勞セシメ又形字ナレハ其ノ行數少ナク音字ナ

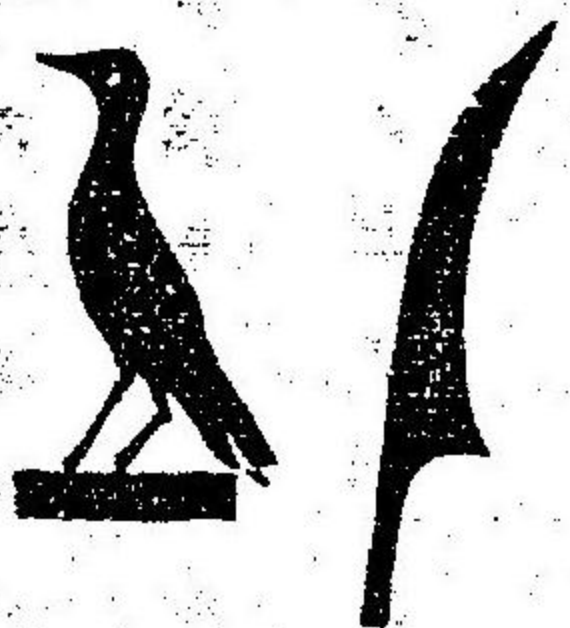
レハ行數多クシテ眼球ヲ使フコト形字ニ幾倍セサルヲ得サルノ不便アル者ナリ世人ガ形字ト音字トヲ雜用セル雜文体ヲ見易ク思ヒ音字ノミヲ用フル假名体ヲ見惡ク感スルハ右ノ理アルニ依ル者ニテ目ノ世界ニハ形字ヲ以テ音字ニ優レリトスル者ナリ
 右ニテ先ツ是ノ章ノ大意ヲ論シ終リシ者ナルガ今形字音字ノ比較論ヨリ別論題ニ入り形字ニ關スル余ノ想像說ヲ述テ字語學ヲ好ム人ノ參考ニ供セント欲スルナリ
 凡テ古書ヲ讀ムニハ形字ヲ以テ音字ニ優レリト爲スヘキ者ナルガ如シ余ハ古書家ニ非ザレトモ深ク其ノ理アルヲ信スルナリ何トナレハヘブリウ及ヒ希臘ノ古書ノ如キハ其ノ言語已ニ絶エタル者ニテ今日はヲ讀ムニハ先ツ其ノ言語ノ意味ヲ學ブコト恰モ猶ホ形字ノ意味ヲ學ブガ如クセザルヲ得サレハナリ抑モ音字ヲ用フル假名文ノ便ハ是ヲ知

リ易キニ在リ(我カ已ニ知ル所ノ言語ヲ假名ニテ綴リタル者ナレハ之ヲ讀メバ其語ノ意味ハ自ラ明カナルノ便利是ナリ)然ルニ其ノ言語ノ意味ヲ知ラサル以上ハ如何ニ是ヲ音字ニテ讀ミ得ルトモ其ノ意味ヲ悟リ能ハサルコト恰モ猶ホ西洋人ガ日本ノ斬髮屋ノ看板(羅馬字)ニテ書キシ日本語ノ「カミキリドコロ」[Kamikiri tokoro]ヲ讀ミ得ルモ其ノ意味ヲ悟リ能ハサルカ如キナリ然レハ其ノ語ノ已ニ絶エタル古書或ハ其ノ言語ノ意味ヲ知ラサル他國ノ書ヲ讀ムニハ假名文ハ已ニ其ノ長所ヲ失ヒシ者ナリ假名文ニシテ已ニ是ノ長所ヲ失フ以上ハ目ニ見分ケ易キト記憶ニ都合ヨキトノ二便ニ於テ形字ニ一步ヲ讓ラサルヲ得サルナリ

今日ヨリ証シ得ルダケノ實事ニテハ蒙昧ノ時世ニハ最初ニ形字ヲ生シ其ノ後ニ至テ音字ヲ生スルコト人生一定ノ規則ナルガ如シ故ニ音字

ハ形字ヨリ變化シ來リタル者多シ埃及ノ古字及ヒフェニシアノ音字ノ如キハ則チ是ヲ証スルニ足ル者ナリ世人ノ知ル如ク埃及ノ古字ハ形字ニテ或ハ鋸或ハ鳥杯ノ如キ形ヲ書クコト左ノ如シ

第十一圖



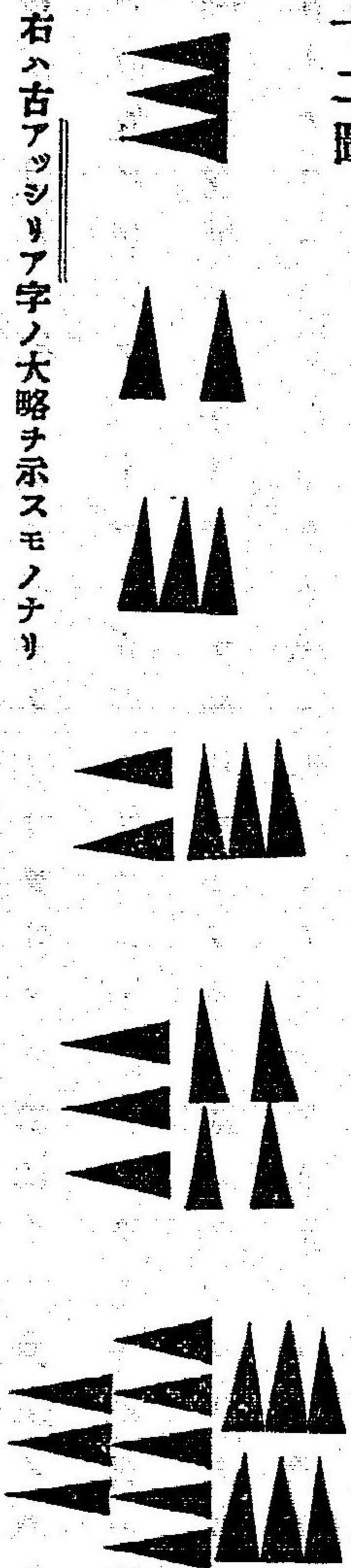
是ノ字ノ種類ハ禽獸ノ形ヲ爲スモノ百六字アリ器物ノ形ヲ爲スモノ百五十字アリ支體ノ形ヲ爲スモノ百八十字其ノ他天体衣服ノ形等總數八百六十四字アリテ其ノ初ハ皆チ一字ニ一語ノ意味ヲ含ムコト漢字ノ如クナリシ者ナリ(例セバ手ヲ畫ケバ「把ル」ノ意味トナリ日ヲ畫ケバ「明カナル」ノ意味ト爲ルノ類ナリ)然ルニ後年ニ至テハ一語ノ頭音ヲ表スルノ音字ト爲リシト云フハ今日言語學者ノ通論ナリ(例セバ「コギリ」ノ意味ヲ表スル鋸ノ形字ヲ以テ此語ノ頭音ナル「ノ」ヲ表セシメ鋸ノ形字ヲ「ノ」ノ音字ト

ナシ是ヲ用フルガ如シ又フエニシアノ語ニテハ尖テ突き出タル汀ナ
 「デルタ」ト唱ヘ其ノ音字ナル「デ」ノ字△ナリ古希臘ニ傳ハリシ後モ亦
 「デ」ニ是ヲ用フハ則チ突き出タル汀ノ形ニテ「デルタ」ノ頭音ノ「デ」ヲ表ス
 ルノ音字トシ遂ニ△「ハ」ノ字トナレリ然レモ其ノ初ハ是ヲ形字ニ
 用ヒ一字ニテ「汀」ト云ヘル意味ニ用ヒタル者ナリ又支那字ノ如キモ字
 ノ意味ニ拘ハラズ音通ニテ文字ヲ用フル場合ハ之レ則チ形字ヲ變シ
 テ音字ノ役目ヲ爲サシムル者ナリ唯其ノ埃及及ヒフエニシアノ音字
 ニ異ナル所ハ其ノ字ノ頭音ノミヲ表セシメスシテ其ノ字ノ全音ヲ用
 フルニ在リ

支那ニハ古代ヨリ形字ノミニテ音字ハ嘗テ影ダニモ無カリシヤハ是
 レ一ノ疑問ナリ余ノ想像ニテハ支那ニテモ古代ニハ一タビ音字アリ
 シニ相違ナシト信スルナリ余ハ歐洲ニ來リシヨリ時々各地ノ博物館

ニ至リ人類開化ノ沿革ヲ極メントテ少シハ古物ニモ注意シタリシナ
 リ英國ノ大博物館(ブリチスミユ一ゼアム)ニハ古代ノアッシリアノ舊物
 多キヲナルガ是等ニ刻スル所ノ字形ハ三角形ノ矢鏃ノ如キヲ或ハ豎
 ニ並ベ或ハ横ニ並ベタル者ニテ古アッシリア人ハ之ヲ音字トナシテ用
 ヒタル者ノ如シ何トナレバ其ノ字數ノ甚ダ多カラサルハ則チ音字ノ
 一証ニシテ一字ニ一語ノ意味ヲ有セシムル形字ニ非サルヲ分明ナリ
 是ノ字ハ字語學者ノ鏃字ト名クル者ニテ左圖ノ如シ

第十二圖



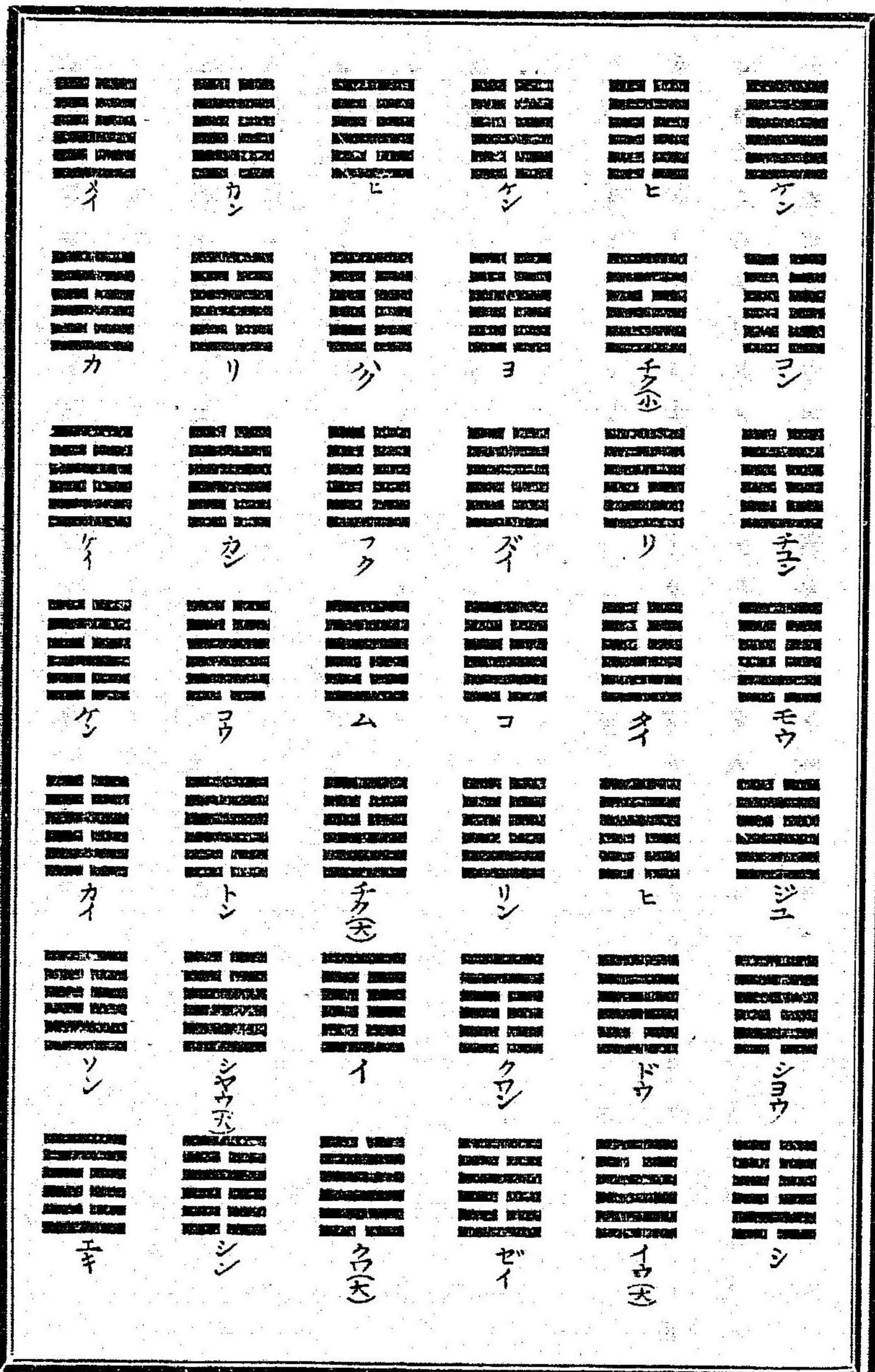
右ハ古アッシリア字ノ大略ヲ示スモノナリ

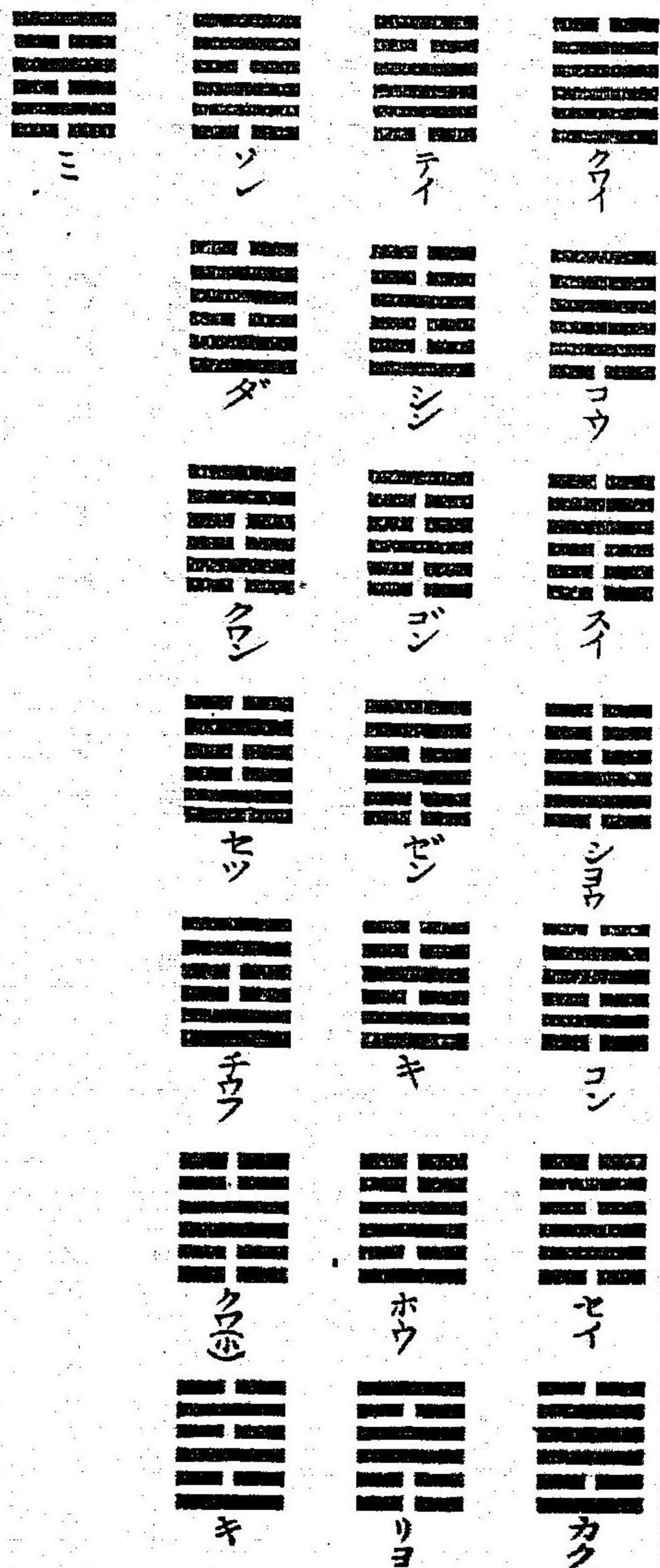
右ノ古字ヲ見ルニ從ヒ其ノ縱横ノ變化ヲ生スル有様恰モ支那ノ八卦ノ互ニ位置ヲ變シテ六十餘ノ異形ヲ生スルニ似タルヲ思ヒ八卦ハ定メテ一タビ支那ノ音字ナリシナル可シトノ想像説ヲ生シタリシナリ支那古代ノ一ハ素ヨリ史傳ノ據ル可キモノ無ケレト先ヅ今日ニ傳フルダケノ者ニテ假ニ是ヲ徵スルモ書契ヲ作テ結繩ノ政ニ換ヘタリト記スルハ太皇伏羲氏ノ時ニ在リ而テ始メテ八卦ヲ書スト記スルモ亦タ同ク是ノ時代ト爲セリ然レバ結繩ノ不便ニ代フルニ八卦ヲ以テシ六十餘ノ音字ニテ假名文ヲ以テ事ヲ記シタルガ如シ又八卦ノ變爻六十四ハ後世今日マデモ一卦ニ一聲ノ音ヲ有シ

又 ハ坤ノ音ヲ有シ其ノ他 ニ需ノ音アリ ハ乾ノ音ヲ有シ ニ訟ノ音アリ

ル如ク各一ノ聲アリテ六十トモニ其ノ音ノ異ナル者多シ左圖ヲ見ヨ

第十三圖





右ノ中ニテ「キ」「ヒ」ノ如キ同聲ノ者アリ然レモ支那ノ四聲ニ別テハ異聲ト爲ルナリ
又「明夷」ノ如キハ「メイイ」ト云フ如キ一聲ナリシ者ナラント思ハル「中孚」ノ如キモ亦タ同シ

右六十四ノ中ニテ大小ノ字ヲ付シタル大畜、小畜、大過、小過ノ如キハ畜
或ハ過ノ音ノ高低ノ節調ヲ區別シテ大小ヲ示シタル者ト見ユ斯ク六
十四卦ノ音聲ヲ異ニスル者多クシテ同聲ノモノ甚ダ少ナキハ是亦タ

其ノ初メ音字ナリシヤノ疑ヒヲ生セシムル所以ノ一ナリ
支那ニテ今日ノ一聲ノ音ハ其ノ數合シテ凡ソ百三十餘アリ然ルニ六
十四卦ノ六十四音ニテハ是ヲ假名字トシテ甚ダ不足ナルガ如シト爲
ス者アラン然レモ伏羲ノ時代ハ幾千年ノ古ヘナリシヲ思ヘバ其ノ
時代ニハ音聲ノ數モ猶ホ甚ダ少ナカリシヲ知ル可シ五千年以上ノ古
代ナレハ音聲ノ區分モ甚ダ不精密ナルヘケレハ一聲ノ音字六十餘ア
ラバ大抵ハ充分ナル可シ日本ノ如キハ幾千年後ノ今日ノ如キモ猶ホ
九十聲ヲ用ヒテ毫モ不便ナキニアラズヤ

又或ハ音字ハ形字ヨリモ便ナル者ナレバ若シ一タビ支那ニテ八卦ノ
音字ヲ用ヒシナラシニハ其ノ用甚ダ盛ント爲リ形字ヲ廢スルニ至ル
可キニ却テ音字ナル八卦ノ廢タレテ形字ノ勢ヲ得タルハ甚ダ疑ハシ
ト難シ此點ヲ以テ支那ニ音字ノ行ハレシヲ無キ証據ト爲サント欲ス

ル者モアル可シ然レモ若シ深ク蒙昧ナル時代ノ有様ヲ考ヘナハ形字ノ方ニ却テ勢ヲ得ルノ有様アル者ナリ何トナレハ古代ト雖モ一英雄ガ崛起シテ支那ヲ統一スルモ其ノ版圖内ニハ無數ノ部落無數ノ種族ヲ包括スルコトナル可シ而テ是等ノ各部落ハ政治上ニ於テコソ武力ノ爲メニ壓セラレテ一人ニ服スルモ其ノ社會ト社會トノ間ニハ道路橋梁舟楫ノ便利モ少ナク部落ト部落トノ間ニハ猛獸盜賊ノ難モ多カル可ク加フルニ秦ノ時代ヨリ前夏殷ノ世ハ勿論其ノ以前ハ尙更ラ封建割據ノ世ノ中ニテ之ヲ統一スルト云フモ中央ニ權ノ集マルハ甚ク薄カルヘケレハ社會ニハ幾ンド交通ナシト云フモ可ナル程ノ有様ナリシナラン然レハ其ノ言語ノ如キモ各小部落ノ間ニ於テスラ多少ノ相違アルコト我々ノ今日ヨリ想像シ能ハザル所ナル可シ斯ク言語ノ同シカラザル無數ノ部落ヲ統治スルニ當リ若シ音字ヲ用ヒテ事ヲ記ス

ルナラハ一部落ノ言語ヲ以テ書セシ假名文ハ他ノ部落ニ通用スルコト能ハズ天下ノ廣キニ通スル假名文ハ決シテ之レアル能ハスシテ其ノ不便實ニ甚シカル可シ然ルニ是ノ時ニ當テ形字ヲ用ヒ縱令ヒ各部落ノ言語ハ同シカラサルモ字形ニテ其ノ意味ヲ悟リ得セシムル符調文字ヲ用ヒナハ是ノ形字ハ何レノ部落ニモ通用シ得ヘク其ノ狀ハ恰モ猶ホ今日日本支那朝鮮安南等ガ言語ヲ異ニシ假名文ヲ用フレハ互ニ意ヲ通スルコト能ハサルモ形字ヲ用フレバ(言語ハ通セサルモ)互ニ意味ヲ悟リ得ルガ如クナリシナル可シ又是ノ時代ノ形字ハ後世今日ノ如キ者ニアラズシテ字ノ形ハ其ノ意味ノ物体ノ形ニ善ク似タリシコトハ疑ヒナシ左レバ是ノ如キ社會ニ於テ形字ヲ用フルハ其ノ便ナルコト音字ヲ用フルニ幾倍スヘシ(古代ノ形字ハ人ニハ人ノ如ク人ノ立チタルヲ畫キ又大ハ人ノ如ク大人ノ立チタルヲ畫キ小ハ人ノ如ク小

人ノ立チタルヲ畫キシ者ナリ）
 交通不便ニシテ無數ノ小部落互ニ言語ヲ異ニスルノ有様アルコト右ノ如キ時代ニ於テハ物ノ形ヲ以テ意味ヲ示ス符調字ノ廣ク各部落ニ通用シ得ルノ便アルハ是則チ支那ニ於テ形字ノ爲メニ音字ガ壓倒サレタルノ原因ナリシナルヘシ右ニ述ルノ理由ヲ考ヘナハ音字ナル八卦ガ其ノ用ヲ狹バメ後ニ至テハ遂ニ全ク其ノ用ヲ失フニ至リシモ亦タ當然ノコト察セラル

一タヒ古代ニ用ヒラレシモ後世ニ至テ其ノ用ヲ失ヒシ文字ハ後世ニ於テ神聖ノ者ト爲リ尊敬セラレ、ハ隨分其ノ例多キ者ナリ昔シ羅馬人ガ英國ヲ侵畧シ其ノ開化ヲ運ヒ入レシ後ニ於テハ其ノ以前英國ニ行ハレ居タリシ古字ハ羅馬字ノ羅馬人ト與ニ入り來ルニ從テ其ノ用ヲ失ヒタリシコトナルカ後世ニ至テハ是等ノ古字ハ魔法ノ呪咀杯ニ用

フル文字ト爲リテ神聖不思議ノ者ト思ハレタリシガ如キモ則チ其ノ一例ナリ又日本ニ於テ祈禱護摩杯ノ御符ニ梵字(印度ノ古字)ヲ用ヒ世人ガ是ヲ神聖ノ者ノ如ク尊敬シタリシ如キモ亦タ其ノ一例ナリ然レハ支那ニ於テ八卦ノ音字カ其ノ用ヲ失ヒシ後チ後世ニ至テ吉凶ヲ豫言スルノ神聖ナル性質アル者ト尊敬セラレ、ニ至リシモ亦タ怪ムニ足ラサルナリ今假ニ古史ノ傳フル所ニ據リ八卦ナル音字ノ發明ヲ伏羲氏ノ時世ト爲サハ是ノ時代ヨリ周ノ初ニ至ル迄史傳ノ年ヲ記スル年數ノミニテ凡ソ千五百年以上ヲ歴タリ若シ其ノ間ノ史家ノ年數ヲ詳記シ能ハサル時世ヲ算入セハ少ナクモ二千年以上ヲ歴タル可シ然レハ周ノ文王ガ八卦ノ説明ニ手ヲ入レタル頃ヨリ伏羲氏ノ時代ヲ見ルハ恰モ猶ホ我々ガ今日ヨリ紀元前ノ希臘羅馬ノ古代ヲ見ルカ如キノ隔タリアリ又魯ノ孔子ガ之ニ註ヲ加ヘシガ如キハ文王ノ後六七百

年ニテ幾ント三千年後ノナレバ其ノ頃ニハ八卦ガ全ク已ニ神聖ノ者トナリ居リシト恰モ猶ホ英國ノ古字及ビ印度ノ梵字カ神聖ト變シ來リシト同様ナルヘキノミ

是ノ一段ハ唯是レ余ノ想像說ニテ識者ノ判定ヲ要スル者ナリ然レモ亦タ以テ某ノ場合ニ於テハ形字ガ音字ニ勝レルノ理由アルヲ知ルニ足ルヘシ支那ノ如キ地形ニテ一政府ノ下ニ言語ノ相ヒ異ナル無數ノ部落小邦ヲ統一スルニハ支那ノ形字ナル者ハ大ニ其ノ一統ヲ助ケタル者ナリ支那ガ古代ヨリ歐洲ノ如ク七八若クハ五六ノ邦國ニ分裂スルヲ能ハズシテ常ニ一政府ノ下ニ統御セラレハ大ニ形字ノ助ケヲ受ケタル者ナリ則チ言語ノ同シカラサル幾億ノ衆民ヲ一政府ノ下ニ統治セシムルハ形字ノ力與テ大ニ功アル者ナリ世上ノ論者動モスレハ支那ノ一統ヲ其ノ地形ニ歸スル者アレモ余ノ見チ以テスレハ必ズ

シモ然ラサルニ似タリ又歐洲ニ於テハ五六ノ邦國常ニ割據シテ古代ヨリ是ヲ統一スルモノ稀ナルハ地形ノ然ラシムル所ナリト論スルモ亦タ今日普通ノ說ナレモ其ノ實ハ音字ヲ用フルノ一事專ラ是ヲシテ然ラシムル者ナリ何トナレバ縱令ヒ其ノ用フル音字ハ同一ナルモ其ノ國語相ヒ同シカラサル以上ハ是ヲ假名ニ綴ルキハ大ナル差異ヲ生シ互ニ之ヲ解スルヲ能ハス又其ノ初ハ大同小異ノ言語モ其ノ種族部落ニ因テハ音聲次第ニ變化シテ言語進化ノ理ニ從ヒ僅々百年二百年ヲ歷ル間ニモ交通不便ナル世ノ中ニテハ遂ニ大ナル間隔ヲ生スルニ至ル者ナリ斯ク變化シテ其ノ語ヲ異ニスルヲ一年ヨリ甚シキニ各國共ニ音字ヲ用ヒテ是ヲ綴ルヲナレハ甲ハ乙ノ語ヲ悟ル能ハス乙ハ甲ノ語ヲ悟ル能ハズ相ヒ互ニ其ノ書ヲ讀ミ其ノ文ヲ解スル能ハサルヨリ遂ニ文書ヲ以テ各國ノ間ニ人爲ノ界線ヲ生スルニ至ルヲナリ若

シ言語文書ノ上ニ一タヒ是ノ界線ヲ生スル以上ハ是ノ界線ヲ以テ邦國ノ境域ヲ分明ナラシメ縦合ヒ一時稀世ノ英雄カ勢ニ乗シテ諸國ヲ席捲シ之ヲ合併スルモ尙ホ各邦國ノ界線ハ人民ノ文書言語ニ存シテ是ヲ變更スルヲ能ハズ久シカラズシテ各邦ノ人民ヲシテ又遂ニ獨立割據セシムルニ至ルハ是レ必然ノ理ナリ

今歐洲ノ人口ト支那ノ人口トヲ比較シ又双方ノ地形ヲ比較セヨ史書ニ徴シ得ル所ニテハ歐洲ノ人口ハ常ニ支那ノ人口ニ及ハズ又地形ノ如キモ歐洲ニ於テハ西班牙伊太利二國ノ北境ノ外ニハ大ナル高山大川アルヲナシ魯ト曼トノ界ヲ見ヨ佛ト曼トノ界ヲ見ヨ其他荷蘭伯耳義ノ界ヲ見ヨ伊澳二國ノ東境ヲ見ヨ一ノ非常ナル大山脉無ク又非常ナル大江河無シ然ルニ諸國ノ割據ハ幾ンド千百年ノ久キニ及ヒ如何ナル英雄豪傑ト雖モ一政府ノ下ニ永シ是ヲ統一スル能ハサルハ何故

シヤ又一方ニ於テ支那ノ地形ヲ接セヨ山東ノ如キハ渺々タル大野ナレモ其ノ南ニハ黃河ノ如キ大川アリ又其ノ南ニハ世界ニテ一二ニ位スル揚子江ノ如キ大川アリ又山脉ノ如キモ崑崙山脉ノ如キハ西ノカタ印度ノ後部ヨリ起リ東ニ走テ福建地方ニ至リ支那ノ南部ヲ二域ニ分テリ又蜀ノ如キハ四圍皆ナ山ニシテ東北ハ函中ト分レ南東ハ江南ト分タレタリ又易洲大寧ノ山脉ハ燕趙ト關中トヲ隔離セリ斯ノ如キ大川高山ハ歐洲ニ於テ幾ント見ルヲ能ハサル天然ノ界線ニシテ支那ノ全地ハ幾ント恰好ナル五六ノ區域ニ分タレタリ然ルニ地形ノ割據ニ便ナラサル歐洲ハ邦國常ニ割據シテ割據ニ便ナル地形ノ支那ハ全國常ニ一統ノ傾キアルハ抑モ何故シヤ唯是ノ疑問ヲ解キ得ヘキハ形字ト音字トノ力ニテ支那ニ一統ノ傾キアルハ其ノ言語ノ異ナルニモ關セス全國ニ通用シ得可キ形字ヲ用ヒ言語文書ノ上ニ人爲ノ界線ヲ

存セズ歐洲ニハ之ヲ存スルカ故ナリ若シ支那ヲシテ古代ヨリ音字ヲ用ヒ來ラシメシナラハ江南ノ文書ト山東ノ文書ト蜀四川ト關中ト燕代地方トハ甚ダ異ニシテ互ニ是ヲ讀ムコト能ハサリシナルヘシ斯ク文書言語ノ上ヨリ自ラ三四若クハ五六ノ界線ヲ生シ其ノ歲月ヲ歴ルニ從テハ互ニ益々相ヒ隔タリ茲ニ割據ノ有様ヲ生スルコト歐洲ノ如クナリシナルヘシ已ニ斯ク界線ノ生スル上ハ縱令ヒ一時全地ヲ統一スルノ英雄アリトモ久シカラズシテ又割據ノ有様ニ復スルコト猶ホ歐洲ノ如クナリシナル可シ然ルニ之ヲ幸ト云ハソカ將タ不幸ト云ハソカ其ノ形字ヲ用ヒタリシカ爲メニ言語ノ異同ヲ論セス形字ノ意味ニテ其ノ文書ハ廣ク全國ノ各部ニ通用スルニ至リ言語ノ上ニハ東西南北ニテ非常ノ差違アルモ文書ノ上ニ於テハ各地共ニ邦國ノ界線ヲ失ヒタリシナリ故ニ一タヒ一政府ノ下ニ來ルキハ再ヒ分離ノ念ヲ生スルヲ

得サルニ至ラシム是豈ニ支那ノ一統ハ形字ノ力ニアラズト言フヲ得ンヤ

又印度ノ如キモ其ノ史書ヲ以テ是ノ理ヲ証スルニ足レリ試ニ印度ノ地圖ヲ見ヨ高山脈ト稱ス可キ者ハ唯北境ニヒマラヤノ長山脉ト西海岸ニ沿テ走ル山脉ト東海岸ニ沿テ走ル山脉トノ三ツアルノミニテ是等ノ諸山脉ハ屏風ニテ一室ヲ圍ムカ如ク印度全地ヲ包ミ居レハ中央ノ全地ニハ割據ヲ助クルノ便ナク内地ニ割據ノ便ヲ與フ可キモノニアラス又西ニインシニス東ニガンジスノ二大川アリト雖モ是ヲ黃河揚子江ニ比較スルキハ甚ダ小ナルカ上ニ此二川モ印度全地ノ東境西境ノ兩端ニ在テ割據ノ助ケヲ與ヘス然ルニ印度モ亦タ歐洲ト同ク古代ヨリ是ヲ統一スルモノ稀ニテ邦國常ニ割據セリ(英ニ併セラレタル以前)而テ其ノ文字ヲ考フレバ此國モ亦タ歐洲ト同ク音字ヲ用ヒタリ

（今日ト雖^レ「シ」^ニグ^リイ^ス及^ビ「ア」^ラビ^ク等ノ音字數種ヲ用フ古代ニ於
 テハ「サ」^ンス^クリ^ツト」ノ音字ナリ）然レハ歐洲ト云ヒ印度ト云ヒ其ノ地
 形ノ割據ニ不便ナルニモ拘ハラズ猶ホ割據ノ勢ヲ生セシムル「ス」^ノ
 如キハ是其ノ文書上ナル人爲ノ界線ノ是ヲ助クルニ依ル者タルヲ知
 ル可シ故ニ今日西學士ノ中ニハ支那ノ形字ヲ論シテ是ヲ萬國普通ノ
 字ト爲シ得可シト爲ス者アルニ至レルナリ
 形字ハ最初ニ蒙昧ナル人民ノ中ニモ生シ得可キ者ト見エ往々其ノ証
 ナ未開ノ人民中ニ見出タス「ア」^リ夫ノ北米ノ土人ガ事ヲ記スルニ物
 形ヲ以テシタルハ同國ノ舊時殖民史ノ中ニ是ヲ見ル「多」^シ又日本ニ
 テモ封建ノ時代ノ昔時ニ交通ノ不便ナル山村杯ニ於テハ又是アリシ
 者ニテ某ノ漫筆ノ中ニ一山村ノ者共ガ般若經ヲ書スルニ形字ヲ以テ
 セルヲ記セシヲ見タリ「シ」^{「ア」}リ今其ノ全文ハ余ノ記憶ニ存セサレ

般若波羅密多ノ「ハラミ」^{「タ」}ダケハ餘リ可笑シカリシカ故ニ之ヲ記憶セ
 リ左ノ如クナリキ



「ハラミ」ニハ女ノ乳ヲ用ヒ「タ」
 ニハ田ノ稻ノ切株ヲ用ヒタリ

右ノ乳ハ「ハラミ」ノ音ヲ表シ稻ノ切リ株ハ「タ」ヲ表スル者ニテ二字ヲ合
 シテ「ハラミ」トスルノ類ナリ山村ノ民ト雖モ猶ホ是ノ發明ヲ爲スナ
 「ナ」レバ若シ支那トノ交通今少シ遅カリセバ我カ國ニモ一種ノ字ヲ
 生シタリシナル可シ
 是ノ章ハ凡テ音字ト形字トノ優劣ヲ論シタル者ナリ今又序ナレハ次
 ノ章ニ於テ日本假名ト羅馬字トノ優劣ヲ畧論ス可シ

第五章 日本ノ假名ト羅馬字トノ優劣

日本ノ假名ハ日本ノ字トシテハ羅馬字ニ優リ歐洲諸國ノ文字トシテハ羅馬字ニ劣レリト評スルヲ以テ最モ適當ノ鑑定ト爲ス可シ世人若シ日本人ノ音聲ト歐洲人ノ音聲トニ大ナル異同アルノ理ヲ察セハ決シテ此評ノ誤マラザルヲ知ル可キナリ如何ナル仔細ニヤ昔ヨリ日本人ノ音聲ハ簡單ニシテ其ノ種類甚ク少ナシ既ニ第一章ニモ論シタルカ如ク世界ノ人語ニハ聲ノ種類大凡ソ十餘種アルコナルニ日本人ハ唯三種ノ聲ノミ(母音一字ノ聲及ヒ母音二字ノ聲子音ノ次ニ母音ヲ合シタル聲)ヲ用ヒテ其ノ他ノ八九種ノ聲ハ曾テ影ダニモ無カリシ者ナリ然ルニ中古ニ支那音ノ入り來リシト

近來西洋音ノ入り來ルトニ從テ幾分カ音聲ノ種類ヲ増加シタルヲナレトモ今日我々ノ用フル聲ノ種類ヲ吟味スルキハ從來ノ土音ヲ用フルト尙ホ甚タ多ク其ノ過半ハ固有ノ者ナリ

又舊來ノ慣習ヨリ來リシニヤ日本人ノ口ニテ三種ノ聲(日本ニ固有ノ一母音ノ聲、二母音ノ聲及ヒ子音母音ノ聲)ノ外ナル他ノ種類ノ聲(子音母音子音等ノ如キ聲)ヲ發音スルニ多クハ子音母音ノ聲ヲ重テタル者ニ變化ス例セハ英人ナレハ dictionary ヲ唯三聲ニ發音シテ dictionary 卜爲スニ日本人ハ di ku hio na ry ノ五聲ト爲スカ如シ但シ支那音ノ「ン」ニテ終ル聲及ヒ「シヨウ」「チヤウ」ノ如キ聲ハ日本人ニハ之ヲ發音スルヲ難カラサルナリ然レモ支那音ノ中ニテ「チク」「キク」ノ如キ聲ハ日本人ニ難キ者ナリ余ノ愚考ニテハ是等ノ聲ノ支那ノ眞ノ古音ハ chick 又ハ chick ノ一聲ニテ今日日本人

ノ言フ如キ chi ku 及ヒ ki ku ノ如キ聲ニハアラサルヘシ何トナレハ日本人ノ如ク發音スレハ「チク」「キク」ノ如キハ二聲ト爲テ一聲ノ性質ニ悖レハナリ斯ク日本人カ一聲ノ支那音ヲ二聲ニ言フハ則チ是レ「シク」「シヨナリ」ナル英ノ三聲ヲ五聲ニ言フト同様ノ例ナリ左ラハ日本人ハ全ク英人、支那人ノ如ク發音シ得ルノ口舌ナキヤト考フルニ決シテ然ルニモアラス強テ發音スレハ何如ナル聲モ發シ得ルナリ唯斯ノ如クナル所以ハ口舌ノ調子ハ言語ノ前後ニ連續スル者ナルカ故ニ固有ノ土語ノ中ニ僅カ一二ノ外國ノ聲ヲ雜フルキハ前後ノ調子ニ妨ケラレテ多少ノ變化ヲ生セサルヲ得サレハナリ故ニ言語ニ續ケス離レテ一聲ヲ發音セシムレバ何如ナル聲ヲモ發シ得ヘシ

何ハ兎モ角モ日本ノ一聲ノ數ハ僅ニ九十餘ニ超エサルニ音聲ニ富メ

ル諸國ノ聲一聲ノ總數幾ント幾百ノ多キニ上レリ印度ノ古語ノ如キハ一聲ノ總數大凡ソ六百アリト云フ然レハ其ノ數ハ幾ント我國ノ數ニ八九倍セル者ナリ斯ク一聲ノ數ニ多少ノ差違アルハ則チ日本ノ假名ト羅馬字トガ其ノ用ヒラル、國ニ因テ互ニ優劣ヲ生スル所以ナリ日本ノ假名字ハ「ア、イ、ウ、エ、オ」ノ五母音字ノ外ハ皆十聲字ニシテ音字ニアラス則チ子母ノ二音ヲ合シタル聲チ一字ト爲セシ者ナリ(羅馬字ナレハ「ア」ノ子音ト「ウ」ノ母音トヲ合シテ「アウ」ノ聲ト爲スニ日本ニテハ是ノ二音ヲ合シタル「カ」ト言フ一字ヲ作りシ者ナリ)然ルニ印度、小亞細亞、歐洲諸國ノ文字ハ聲ヲ分テ音ニ溯リ一音ニ一字ヲ作り一聲ヲ書クニハ子音字ト母音字ヲ合シテ是ヲ示スノ仕組ナリ然レハ若シ前述セル印度ノ古語ノ如ク一聲ノ數五六百アル國ニ於テ日本ノ如キ聲字ヲ用フルトセハ其ノ「イロハ」ノ字數五六百以上ニ上ラサルヲ得カルナリ之

チ言ヒ代フレハ日本人ノ音聲カ印度ノ古語或ハ印度以西ノ國々ノ音聲ノ如ク細密ナランニハ日本ノ假名ノ數ハ「イロハ」四十餘字ニテハ不足ニテ五六百字ヲ要スルヲナリ然ルニ日本人ハ其ノ聲ノ簡單ナルカ故ニ「イロハ」四十餘字ニ濁音輕音ヲ加ヘタル僅々九十ニ過キサレノ聲字ヲ用ヒテ決シテ不便ナキヲ得ルナリ又之ニ反シテ一聲ノ數多キ國々ニ於テ若シ聲字ヲ用フルト日本ノ如クシテハ其ノ字數甚タ多キニ過キ實ニ煩ハシカルヘケレハ聲ノ聲ヲ分テ音ニ溯リ僅カ二三十ノ音字ヲ作り是ヲ組ミ合セテ聲ヲモ書シ辭ヲモ書スルコソ大ニ便ナル可キナリ又一聲ノ類甚タ少ナキ國ニ於テハ聲ノ數僅ニ九十計ニ超エサレバ聲字ヲ作テ之ヲ書シ一聲ゴトニ一々ニ子母音ヲ組合セテ之ヲ書クノ面倒ヲ省クコソ大ニ便利ナル可シ是則チ自然ト一方ノ國々ニハ音字ヲ生シ一方ノ國々ニハ聲字ヲ生シタル所以ナリ

今日世界各國ノ言語及ヒ文書ニ存スル古語ヲ合スレハ人類言語ノ種類ハ大凡ソ三千ノ多キアリト云フ(亞洲ニ九百七十三種、歐洲ニ五百八十七種、弗洲ニ二百二十六種、米洲ニ一千二百六十四種)余ハ未タ其ノ文字ヲ審カニスルヲ得サレヒ歐洲ニ遊ヒシ以來今日ニ至ルマテ余ノ目ニ觸レタル文字ノ種類ヲ記シ置キシニ其數凡ソ八十餘種アリ其ノ中ニテ日本ノ假名ト仕組ヲ同クシ聲字ヲ用フル者アリ左ニ掲クルエシヲピアノ字ノ如キ則チ是レナリ(古代ニ開化チ以テ稱セラレタル埃及

古エジチピアノ聲字ノ圖

ト

ナイル河ノ東岸ヨリ今

𐤀𐤁𐤂𐤃𐤄 : 𐤅𐤆𐤇𐤈 : 𐤉𐤊𐤋𐤌𐤍𐤎𐤏 :
 𐤐𐤑𐤒𐤓 : 𐤔𐤕𐤖 : 𐤗𐤘𐤙 : 𐤚𐤛𐤜 : 𐤝𐤞 :
 𐤟𐤠 : 𐤡𐤢 : 𐤣𐤤𐤥𐤦𐤧 : 𐤨𐤩 : 𐤪𐤫𐤬𐤭𐤮 :
 𐤯𐤰 : 𐤱𐤲𐤳 : 𐤴𐤵𐤶 : 𐤷𐤸𐤹𐤺𐤻 : 𐤼𐤽𐤾𐤿 : 𐥀𐥁𐥂𐥃 : 𐥄𐥅𐥆𐥇 : 𐥈𐥉𐥊𐥋 : 𐥌𐥍𐥎𐥏 : 𐥐𐥑𐥒𐥓 : 𐥔𐥕𐥖𐥗 : 𐥘𐥙𐥚𐥛 : 𐥜𐥝𐥞𐥟 : 𐥠𐥡𐥢𐥣 : 𐥤𐥥𐥦𐥧 : 𐥨𐥩𐥪𐥫 : 𐥬𐥭𐥮𐥯 : 𐥰𐥱𐥲𐥳 : 𐥴𐥵𐥶𐥷 : 𐥸𐥹𐥺𐥻 : 𐥼𐥽𐥾𐥿 : 𐦀𐦁𐦂𐦃 : 𐦄𐦅𐦆𐦇 : 𐦈𐦉𐦊𐦋 : 𐦌𐦍𐦎𐦏 : 𐦐𐦑𐦒𐦓 : 𐦔𐦕𐦖𐦗 : 𐦘𐦙𐦚𐦛 : 𐦜𐦝𐦞𐦟 : 𐦠𐦡𐦢𐦣 : 𐦤𐦥𐦦𐦧 : 𐦨𐦩𐦪𐦫 : 𐦬𐦭𐦮𐦯 : 𐦰𐦱𐦲𐦳 : 𐦴𐦵𐦶𐦷 : 𐦸𐦹𐦺𐦻 : 𐦼𐦽𐦾𐦿 : 𐧀𐧁𐧂𐧃 : 𐧄𐧅𐧆𐧇 : 𐧈𐧉𐧊𐧋 : 𐧌𐧍𐧎𐧏 : 𐧐𐧑𐧒𐧓 : 𐧔𐧕𐧖𐧗 : 𐧘𐧙𐧚𐧛 : 𐧜𐧝𐧞𐧟 : 𐧠𐧡𐧢𐧣 : 𐧤𐧥𐧦𐧧 : 𐧨𐧩𐧪𐧫 : 𐧬𐧭𐧮𐧯 : 𐧰𐧱𐧲𐧳 : 𐧴𐧵𐧶𐧷 : 𐧸𐧹𐧺𐧻 : 𐧼𐧽𐧾𐧿 : 𐨀𐨁𐨂𐨃 : 𐨄𐨅𐨆𐨇 : 𐨈𐨉𐨊𐨋 : 𐨌𐨍𐨎𐨏 : 𐨐𐨑𐨒𐨓 : 𐨔𐨕𐨖𐨗 : 𐨘𐨙𐨚𐨛 : 𐨜𐨝𐨞𐨟 : 𐨠𐨡𐨢𐨣 : 𐨤𐨥𐨦𐨧 : 𐨨𐨩𐨪𐨫 : 𐨬𐨭𐨮𐨯 : 𐨰𐨱𐨲𐨳 : 𐨴𐨵𐨶𐨷 : 𐨹𐨺𐨸𐨻 : 𐨼𐨽𐨾𐨿 : 𐩀𐩁𐩂𐩃 : 𐩄𐩅𐩆𐩇 : 𐩈𐩉𐩊𐩋 : 𐩌𐩍𐩎𐩏 : 𐩐𐩑𐩒𐩓 : 𐩔𐩕𐩖𐩗 : 𐩘𐩙𐩚𐩛 : 𐩜𐩝𐩞𐩟 : 𐩠𐩡𐩢𐩣 : 𐩤𐩥𐩦𐩧 : 𐩨𐩩𐩪𐩫 : 𐩬𐩭𐩮𐩯 : 𐩰𐩱𐩲𐩳 : 𐩴𐩵𐩶𐩷 : 𐩸𐩹𐩺𐩻 : 𐩼𐩽𐩾𐩿 : 𐪀𐪁𐪂𐪃 : 𐪄𐪅𐪆𐪇 : 𐪈𐪉𐪊𐪋 : 𐪌𐪍𐪎𐪏 : 𐪐𐪑𐪒𐪓 : 𐪔𐪕𐪖𐪗 : 𐪘𐪙𐪚𐪛 : 𐪜𐪝𐪞𐪟 : 𐪠𐪡𐪢𐪣 : 𐪤𐪥𐪦𐪧 : 𐪨𐪩𐪪𐪫 : 𐪬𐪭𐪮𐪯 : 𐪰𐪱𐪲𐪳 : 𐪴𐪵𐪶𐪷 : 𐪸𐪹𐪺𐪻 : 𐪼𐪽𐪾𐪿 : 𐫀𐫁𐫂𐫃 : 𐫄𐫅𐫆𐫇 : 𐫈𐫉𐫊𐫋 : 𐫌𐫍𐫎𐫏 : 𐫐𐫑𐫒𐫓 : 𐫔𐫕𐫖𐫗 : 𐫘𐫙𐫚𐫛 : 𐫜𐫝𐫞𐫟 : 𐫠𐫡𐫢𐫣 : 𐫤𐫦𐫥𐫧 : 𐫨𐫩𐫪𐫫 : 𐫬𐫭𐫮𐫯 : 𐫰𐫱𐫲𐫳 : 𐫴𐫵𐫶𐫷 : 𐫸𐫹𐫺𐫻 : 𐫼𐫽𐫾𐫿 : 𐬀𐬁𐬂𐬃 : 𐬄𐬅𐬆𐬇 : 𐬈𐬉𐬊𐬋 : 𐬌𐬍𐬎𐬏 : 𐬐𐬑𐬒𐬓 : 𐬔𐬕𐬖𐬗 : 𐬘𐬙𐬚𐬛 : 𐬜𐬝𐬞𐬟 : 𐬠𐬡𐬢𐬣 : 𐬤𐬥𐬦𐬧 : 𐬨𐬩𐬪𐬫 : 𐬬𐬭𐬮𐬯 : 𐬰𐬱𐬲𐬳 : 𐬴𐬵𐬶𐬷 : 𐬸𐬹𐬺𐬻 : 𐬼𐬽𐬾𐬿 : 𐭀𐭁𐭂𐭃 : 𐭄𐭅𐭆𐭇 : 𐭈𐭉𐭊𐭋 : 𐭌𐭍𐭎𐭏 : 𐭐𐭑𐭒𐭓 : 𐭔𐭕𐭖𐭗 : 𐭘𐭙𐭚𐭛 : 𐭜𐭝𐭞𐭟 : 𐭠𐭡𐭢𐭣 : 𐭤𐭥𐭦𐭧 : 𐭨𐭩𐭪𐭫 : 𐭬𐭭𐭮𐭯 : 𐭰𐭱𐭲𐭳 : 𐭴𐭵𐭶𐭷 : 𐭸𐭹𐭺𐭻 : 𐭼𐭽𐭾𐭿 : 𐮀𐮁𐮂𐮃 : 𐮄𐮅𐮆𐮇 : 𐮈𐮉𐮊𐮋 : 𐮌𐮍𐮎𐮏 : 𐮐𐮑𐮒𐮓 : 𐮔𐮕𐮖𐮗 : 𐮘𐮙𐮚𐮛 : 𐮜𐮝𐮞𐮟 : 𐮠𐮡𐮢𐮣 : 𐮤𐮥𐮦𐮧 : 𐮨𐮩𐮪𐮫 : 𐮬𐮭𐮮𐮯 : 𐮰𐮱𐮲𐮳 : 𐮴𐮵𐮶𐮷 : 𐮸𐮹𐮺𐮻 : 𐮼𐮽𐮾𐮿 : 𐯀𐯁𐯂𐯃 : 𐯄𐯅𐯆𐯇 : 𐯈𐯉𐯊𐯋 : 𐯌𐯍𐯎𐯏 : 𐯐𐯑𐯒𐯓 : 𐯔𐯕𐯖𐯗 : 𐯘𐯙𐯚𐯛 : 𐯜𐯝𐯞𐯟 : 𐯠𐯡𐯢𐯣 : 𐯤𐯥𐯦𐯧 : 𐯨𐯩𐯪𐯫 : 𐯬𐯭𐯮𐯯 : 𐯰𐯱𐯲𐯳 : 𐯴𐯵𐯶𐯷 : 𐯸𐯹𐯺𐯻 : 𐯼𐯽𐯾𐯿 : 𐰀𐰁𐰂𐰃 : 𐰄𐰅𐰆𐰇 : 𐰈𐰉𐰊𐰋 : 𐰌𐰍𐰎𐰏 : 𐰐𐰑𐰒𐰓 : 𐰔𐰕𐰖𐰗 : 𐰘𐰙𐰚𐰛 : 𐰜𐰝𐰞𐰟 : 𐰠𐰡𐰢𐰣 : 𐰤𐰥𐰦𐰧 : 𐰨𐰩𐰪𐰫 : 𐰬𐰭𐰮𐰯 : 𐰰𐰱𐰲𐰳 : 𐰴𐰵𐰶𐰷 : 𐰸𐰹𐰺𐰻 : 𐰼𐰽𐰾𐰿 : 𐱀𐱁𐱂𐱃 : 𐱄𐱅𐱆𐱇 : 𐱈𐱉𐱊𐱋 : 𐱌𐱍𐱎𐱏 : 𐱐𐱑𐱒𐱓 : 𐱔𐱕𐱖𐱗 : 𐱘𐱙𐱚𐱛 : 𐱜𐱝𐱞𐱟 : 𐱠𐱡𐱢𐱣 : 𐱤𐱥𐱦𐱧 : 𐱨𐱩𐱪𐱫 : 𐱬𐱭𐱮𐱯 : 𐱰𐱱𐱲𐱳 : 𐱴𐱵𐱶𐱷 : 𐱸𐱹𐱺𐱻 : 𐱼𐱽𐱾𐱿 : 𐲀𐲁𐲂𐲃 : 𐲄𐲅𐲆𐲇 : 𐲈𐲉𐲊𐲋 : 𐲌𐲍𐲎𐲏 : 𐲐𐲑𐲒𐲓 : 𐲔𐲕𐲖𐲗 : 𐲘𐲙𐲚𐲛 : 𐲜𐲝𐲞𐲟 : 𐲠𐲡𐲢𐲣 : 𐲤𐲥𐲦𐲧 : 𐲨𐲩𐲪𐲫 : 𐲬𐲭𐲮𐲯 : 𐲰𐲱𐲲𐲳 : 𐲴𐲵𐲶𐲷 : 𐲸𐲹𐲺𐲻 : 𐲼𐲽𐲾𐲿 : 𐳀𐳁𐳂𐳃 : 𐳄𐳅𐳆𐳇 : 𐳈𐳉𐳊𐳋 : 𐳌𐳍𐳎𐳏 : 𐳐𐳑𐳒𐳓 : 𐳔𐳕𐳖𐳗 : 𐳘𐳙𐳚𐳛 : 𐳜𐳝𐳞𐳟 : 𐳠𐳡𐳢𐳣 : 𐳤𐳥𐳦𐳧 : 𐳨𐳩𐳪𐳫 : 𐳬𐳭𐳮𐳯 : 𐳰𐳱𐳲𐳳 : 𐳴𐳵𐳶𐳷 : 𐳸𐳹𐳺𐳻 : 𐳼𐳽𐳾𐳿 : 𐴀𐴁𐴂𐴃 : 𐴄𐴅𐴆𐴇 : 𐴈𐴉𐴊𐴋 : 𐴌𐴍𐴎𐴏 : 𐴐𐴑𐴒𐴓 : 𐴔𐴕𐴖𐴗 : 𐴘𐴙𐴚𐴛 : 𐴜𐴝𐴞𐴟 : 𐴠𐴡𐴢𐴣 : 𐴤𐴥𐴦𐴧 : 𐴨𐴩𐴪𐴫 : 𐴬𐴭𐴮𐴯 : 𐴰𐴱𐴲𐴳 : 𐴴𐴵𐴶𐴷 : 𐴸𐴹𐴺𐴻 : 𐴼𐴽𐴾𐴿 : 𐵀𐵁𐵂𐵃 : 𐵄𐵅𐵆𐵇 : 𐵈𐵉𐵊𐵋 : 𐵌𐵍𐵎𐵏 : 𐵐𐵑𐵒𐵓 : 𐵔𐵕𐵖𐵗 : 𐵘𐵙𐵚𐵛 : 𐵜𐵝𐵞𐵟 : 𐵠𐵡𐵢𐵣 : 𐵤𐵥𐵦𐵧 : 𐵨𐵩𐵪𐵫 : 𐵬𐵭𐵮𐵯 : 𐵰𐵱𐵲𐵳 : 𐵴𐵵𐵶𐵷 : 𐵸𐵹𐵺𐵻 : 𐵼𐵽𐵾𐵿 : 𐶀𐶁𐶂𐶃 : 𐶄𐶅𐶆𐶇 : 𐶈𐶉𐶊𐶋 : 𐶌𐶍𐶎𐶏 : 𐶐𐶑𐶒𐶓 : 𐶔𐶕𐶖𐶗 : 𐶘𐶙𐶚𐶛 : 𐶜𐶝𐶞𐶟 : 𐶠𐶡𐶢𐶣 : 𐶤𐶥𐶦𐶧 : 𐶨𐶩𐶪𐶫 : 𐶬𐶭𐶮𐶯 : 𐶰𐶱𐶲𐶳 : 𐶴𐶵𐶶𐶷 : 𐶸𐶹𐶺𐶻 : 𐶼𐶽𐶾𐶿 : 𐷀𐷁𐷂𐷃 : 𐷄𐷅𐷆𐷇 : 𐷈𐷉𐷊𐷋 : 𐷌𐷍𐷎𐷏 : 𐷐𐷑𐷒𐷓 : 𐷔𐷕𐷖𐷗 : 𐷘𐷙𐷚𐷛 : 𐷜𐷝𐷞𐷟 : 𐷠𐷡𐷢𐷣 : 𐷤𐷥𐷦𐷧 : 𐷨𐷩𐷪𐷫 : 𐷬𐷭𐷮𐷯 : 𐷰𐷱𐷲𐷳 : 𐷴𐷵𐷶𐷷 : 𐷸𐷹𐷺𐷻 : 𐷼𐷽𐷾𐷿 : 𐸀𐸁𐸂𐸃 : 𐸄𐸅𐸆𐸇 : 𐸈𐸉𐸊𐸋 : 𐸌𐸍𐸎𐸏 : 𐸐𐸑𐸒𐸓 : 𐸔𐸕𐸖𐸗 : 𐸘𐸙𐸚𐸛 : 𐸜𐸝𐸞𐸟 : 𐸠𐸡𐸢𐸣 : 𐸤𐸥𐸦𐸧 : 𐸨𐸩𐸪𐸫 : 𐸬𐸭𐸮𐸯 : 𐸰𐸱𐸲𐸳 : 𐸴𐸵𐸶𐸷 : 𐸸𐸹𐸺𐸻 : 𐸼𐸽𐸾𐸿 : 𐹀𐹁𐹂𐹃 : 𐹄𐹅𐹆𐹇 : 𐹈𐹉𐹊𐹋 : 𐹌𐹍𐹎𐹏 : 𐹐𐹑𐹒𐹓 : 𐹔𐹕𐹖𐹗 : 𐹘𐹙𐹚𐹛 : 𐹜𐹝𐹞𐹟 : 𐹠𐹡𐹢𐹣 : 𐹤𐹥𐹦𐹧 : 𐹨𐹩𐹪𐹫 : 𐹬𐹭𐹮𐹯 : 𐹰𐹱𐹲𐹳 : 𐹴𐹵𐹶𐹷 : 𐹸𐹹𐹺𐹻 : 𐹼𐹽𐹾𐹿 : 𐺀𐺁𐺂𐺃 : 𐺄𐺅𐺆𐺇 : 𐺈𐺉𐺊𐺋 : 𐺌𐺍𐺎𐺏 : 𐺐𐺑𐺒𐺓 : 𐺔𐺕𐺖𐺗 : 𐺘𐺙𐺚𐺛 : 𐺜𐺝𐺞𐺟 : 𐺠𐺡𐺢𐺣 : 𐺤𐺥𐺦𐺧 : 𐺨𐺩𐺪𐺫 : 𐺬𐺭𐺮𐺯 : 𐺰𐺱𐺲𐺳 : 𐺴𐺵𐺶𐺷 : 𐺸𐺹𐺺𐺻 : 𐺼𐺽𐺾𐺿 : 𐻀𐻁𐻂𐻃 : 𐻄𐻅𐻆𐻇 : 𐻈𐻉𐻊𐻋 : 𐻌𐻍𐻎𐻏 : 𐻐𐻑𐻒𐻓 : 𐻔𐻕𐻖𐻗 : 𐻘𐻙𐻚𐻛 : 𐻜𐻝𐻞𐻟 : 𐻠𐻡𐻢𐻣 : 𐻤𐻥𐻦𐻧 : 𐻨𐻩𐻪𐻫 : 𐻬𐻭𐻮𐻯 : 𐻰𐻱𐻲𐻳 : 𐻴𐻵𐻶𐻷 : 𐻸𐻹𐻺𐻻 : 𐻼𐻽𐻾𐻿 : 𐼀𐼁𐼂𐼃 : 𐼄𐼅𐼆𐼇 : 𐼈𐼉𐼊𐼋 : 𐼌𐼍𐼎𐼏 : 𐼐𐼑𐼒𐼓 : 𐼔𐼕𐼖𐼗 : 𐼘𐼙𐼚𐼛 : 𐼜𐼝𐼞𐼟 : 𐼠𐼡𐼢𐼣 : 𐼤𐼥𐼦𐼧 : 𐼨𐼩𐼪𐼫 : 𐼬𐼭𐼮𐼯 : 𐼰𐼱𐼲𐼳 : 𐼴𐼵𐼶𐼷 : 𐼸𐼹𐼺𐼻 : 𐼼𐼽𐼾𐼿 : 𐽀𐽁𐽂𐽃 : 𐽄𐽅𐽆𐽇 : 𐽋𐽈𐽉𐽊 : 𐽍𐽎𐽏𐽌 : 𐽐𐽑𐽒𐽓 : 𐽔𐽕𐽖𐽗 : 𐽘𐽙𐽚𐽛 : 𐽜𐽝𐽞𐽟 : 𐽠𐽡𐽢𐽣 : 𐽤𐽥𐽦𐽧 : 𐽨𐽩𐽪𐽫 : 𐽬𐽭𐽮𐽯 : 𐽰𐽱𐽲𐽳 : 𐽴𐽵𐽶𐽷 : 𐽸𐽹𐽺𐽻 : 𐽼𐽽𐽾𐽿 : 𐾀𐾁𐾃𐾂 : 𐾅𐾄𐾆𐾇 : 𐾈𐾉𐾊𐾋 : 𐾌𐾍𐾎𐾏 : 𐾐𐾑𐾒𐾓 : 𐾔𐾕𐾖𐾗 : 𐾘𐾙𐾚𐾛 : 𐾜𐾝𐾞𐾟 : 𐾠𐾡𐾢𐾣 : 𐾤𐾥𐾦𐾧 : 𐾨𐾩𐾪𐾫 : 𐾬𐾭𐾮𐾯 : 𐾰𐾱𐾲𐾳 : 𐾴𐾵𐾶𐾷 : 𐾸𐾹𐾺𐾻 : 𐾼𐾽𐾾𐾿 : 𐿀𐿁𐿂𐿃 : 𐿄𐿅𐿆𐿇 : 𐿈𐿉𐿊𐿋 : 𐿌𐿍𐿎𐿏 : 𐿐𐿑𐿒𐿓 : 𐿔𐿕𐿖𐿗 : 𐿘𐿙𐿚𐿛 : 𐿜𐿝𐿞𐿟 : 𐿠𐿡𐿢𐿣 : 𐿤𐿥𐿦𐿧 : 𐿨𐿩𐿪𐿫 : 𐿬𐿭𐿮𐿯 : 𐿰𐿱𐿲𐿳 : 𐿴𐿵𐿶𐿷 : 𐿸𐿹𐿺𐿻 : 𐿼𐿽𐿾𐿿 : 𐿽𐿾𐿿

ノアビシニアニ至ル迄

ノ地方ニ用ヒラレタル

文字ニテ今日モ猶ホ稀

ニ用ヒラル、者ナリ)

右ノ如キ聲字ヲ同國ニ於テ用フルハ其ノ國人ノ一聲ノ數甚タ少ナキ
 日本ノ如クナルヲ知ル可キナリ其ノ聲ノ數ガ少ナケレハコソ斯ル
 聲字ヲ生シタルニ外ナラス同國ノ近隣諸國ハ皆十音字ヲ用フルニモ
 拘ハラス是ノ國人カ子母音ヲ合セシ聲字ヲ作テ簡便法ヲ用ヒ一聲ヲ
 書クニ音字二箇ヲ合スルノ面倒ナル手續キチ省キ一ノ聲字ヲ以テ其
 ノ場合ヲ辨スルヲ工夫セシハ此國人ノ智力實ニ賞ス可キニアラス
 ヤ又音字ヲ用フル國々ニテモ頻リニ用フル音ニハ子音字チ二ツ重テ
 テ書クノ面倒チ省キ一字ヲ作テ是ニ換ヘ二字ヲ書クノ勞チ免ル、様
 ニ工夫セシ者モ少ナカラス夫ノ古希臘ノ假名字ノ中ナル(Φ)ノ如キ又
 (Φ)ノ如キ是ナリ是等ヲ羅馬字ニテ書ケハ(psi)及ヒ(phi)ノ如ク三字ヲ書
 クノ面倒チ爲サ、ル可ラサル者ナリ又羅馬字ノ中ナル(x)ノ如キモ亦
 (x)ノ二字ヲ書クノ面倒チ省キタル者ナリ左レハ省カル、ダケ面倒

チ省キ二字書ク可キ處チ一字ニテ辨スルハ則チ之チ智力ノ働キト云
 フ可シ然レハ一聲ノ種類少ナクシテ聲字ノ數ハ多キチ要セサル日本
 人ガ聲字チ用ヒ二箇ノ音字チ書ク可キ場合チ一ノ聲字ニテ辨スルハ
 是レ實益チ謀ルノ工夫トコソ云フ可キナリ
 日本ニテ片假名ハ平假名ヨリ先キニ生シタル者ト聞ケリ而テ片假名
 チ工夫セル學士ノ名ノ今日ニ傳ハラサルハ誠ニ遺憾ト云フ可シ或ハ
 其ノ作者チ弘法大師ト爲ス者モアレモ是ノ人ハ平假名ノ作者ニテ片
 假名ノ作者ニハアラストモ云ヘリ何ハ兎モアレ片假名ハ佛學者ノ助
 ケチ借テ生シタリト考フル者多シ片假名ノ「ン」ノ字ト梵字ノ「ン」ノ字ト
 同キカ如キモ其ノ一証ナルヘシ總テ支那ニ比スレハ印度ハ音字チ用
 フルカ故ニ印度ノ文字ニハ音聲チ論スル「支那ヨリモ精密ナルヘキ
 筈ナリ又佛家ニハ「シツタメ」ト唱フル音聲學ノ書アリトモ聞ケリ是等

ノ事ヨリ考フレハ日本ノ假名カ印度學者ノ助ケチ借リタルハ稍々疑
 ヒ無キガ如シ若シ果シテ然ランニハ日本ノ片假名ノ作者ハ飽ク迄モ
 精密ニ子音母音ノ離合ノ道理チハ明白ニ知リ居リタル者ニ相違ナシ
 印度ノ古語ナル「サンスクリット」ノ語法及ヒ音聲離合ノ精密ナルハ近
 來ノ言語學者カ皆チ感賞シテ今日ノ歐洲諸國ノ語法及ヒ音聲離合法
 ノ企テ及フ可ラサルチ許ス程ノ者ナレハ日本ノ片假名ノ作者モ充分
 ニ子音母音離合ノ理チ明カニシ居タルノミナラス其ノ人ノ音聲學ノ知
 識ハ本ト子音母音チ分チ極精ノ音字チ用フル梵語學ノ中ニ於テ生長
 シタル者ニ相違ナシ然レハ若シ是等ノ學士チシテ實益チ謀リ事物チ
 草創スルノ卓見チ有セサラシメハ必ラス他國ニ摸擬スル尋常一般ノ
 手續チ用ヒ聲字ノ片假名チ作ラスシテ印度ノ如キ音字チ作り子音母
 音チ分チタル梵語ノ音字ニ倣ヒ音字チ以テ日本ノ片假名ト爲セシナ